

授業科目名	大学基礎セミナー		
担当教員氏名(助手氏名)	五味 正志		
研究室の場所	庄原キャンパス 3403 研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面式授業と少人数演習形式の併用。教員と学生あるいは学生相互のディスカッション。課題に対するレポート作成。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【27年度入学生】 生命科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	導入教育, ディスカッション, コミュニケーション, ライティング, ノートテイキング, レポート, プレゼンテーション, キャリア, 教育・研究分野, コース		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>この講義は、カリキュラム上で導入教育として位置付けられる。初めて大学で教育を受けるにあたって最低限必要な事項を習得し、本学科の教育・研究分野を理解することで、今後の能動的学修に対する動機付けを行うことが目的である。</p> <p>授業の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学部学科の教育方針や各コースの内容を理解する。 2. 大学で学ぶ意義を理解し、能動的学修の技法や態度を培う。 3. ノートテイキング、レポート作成、プレゼンテーションなどの技法を習得する。 4. 学科専門教員の教育・研究分野を理解し、卒業後の進路を意識する。 		
授業の内容	<p>入学後の早い時期に、知的活動への積極的な参加や課題解決に必要な思考力を高めるための入門教育を行う。前半部分では、大学教育の基本を理解させるために、ノートテイキング、ライティング、レポートの作成方法について講義する。また、将来の進路を意識させるために、社会人として求められる資質や本学の大学院について紹介する。後半では、教員の研究紹介によって本学科の教育・研究分野の概要を把握させるとともに、課題の発見能力と能動的学修態度を養成する。また、教員と学生の間あるいは学生間のディスカッションを通して、課題の解決に必要な思考能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。</p>		
成績評価の方法	<p>成績評価の基準： 全体を通して能動的学修の技法と態度の習得状況とレポートを総合的に評価するが、レポートの評価を重視する。</p>		
テキスト	必要な資料を配付する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に出席し、レポートを必ず提出する。わからないことがあれば、積極的に質問すること。		

授業科目名	大学基礎セミナー		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 浩幸		
研究室の場所	庄原キャンパス 3701研究室		
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・定期 水曜日5・3がないときの昼休み 部屋に原則いますので・・・ ・在室時に適宜実施するが、事前に連絡を入れておくことと確実に対応できます。 		
授業の形式・方式	<p>1-7回 ・学修生活に必要な案内・スキル（ノートやレポートの書き方）・進路</p> <p>8-15回 環境独自で実施 少人数に分かれて、グループワークで自ら学修の成果とキャリア（将来の仕事）の結びつきを考えて、学びの意義を知る。 グループについてはガイダンス時に周知する。</p>		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【27年度入学生】 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	受講スキル, キャリア, アウトカムズ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>この講義では、前半 はじめて大学で講義を受けるにあたって、最低限身に付けて置くべき事項や取り組み方法について学習する。</p> <p>後半 広い教養知識を身につけながら、深い専門知識を収めてどのような分野で活躍したいかをグループ作業の議論をとおして考え、キャリアゴールを見据えて学修生活をすごすことを学ぶ</p>		
授業の内容	<p>前半ではノートテイキングやライティング等の大学生としての基本スキルについての講義</p> <p>後半では進学・就職等のキャリア形成に関する導入教育を行う。</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前半の7回は出席点 ・後半の8回はグループ作業や発表あるいはレポートの内容について評価する 		
テキスト	<p>前半 担当の先生が講義ごとに適宜資料を配布する。</p> <p>後半 自らいろいろな資料を探す。</p>		
参考文献	自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	必ず出席すること。チューター教員とのコミュニケーションに努めること。		

授業科目名	大学生活と心理学		
担当教員氏名(助手氏名)	金山 健一		
研究室の場所	広島キャンパス		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	とにかく、楽しくて、わかりやすく、ためになる授業を行います。授業は、座学ばかりでなく、教師と学生の双方向のコミュニケーションを取り入れます。また、グループ学習・プレゼンテーション・共同学習を用いたアクティブ・ラーニングを実施します。そのため、授業の中で友達ができ、学生同士がつながることができます。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度入学者】生命科学科，環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生 ・学生生活 ・人間関係づくり ・心の病 ・ストレス対策 ・心理テスト ・カウンセリング ・ピアサポート ・生き方発見 ・引きこもり ・ニート ・ネット依存 ・家族問題 ・やる気の出し方 ・コミュニケーション向上 ・リーダーシップ育成 		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>心理学を、自分たちの大学生活に役立て、自己や他者の理解を深め、人間としての成長につながる内容を習得することが目標です。</p> <p>大学1年生は、「新しい環境での不安がある」「友達ができるだろうか」「自分の進路はどうしたらいいのだろうか」「性格を変えたい」「コミュニケーションが苦手」など、不安も希望もあるでしょう。こんな悩みや課題を、心理学を活用して解決し、大学生の皆さんを応援することを目指しています。</p> <p>授業では、ピア・サポートという、仲間づくりのプログラムも学びます。是非、受講してみてください。</p>		
授業の内容	<p>授業は、臨床心理士で専任カウンセラーの講師が担当します。新入生が、大学に入学した時に抱える、人間関係や勉強の不安・悩みの解決方法をわかりやすく解説します。うつ病・不安障害・リストカット・摂食障害・発達障害などの精神的な悩みはどのように解決していけばいいのかを、「臨床心理学」の視点から解説します。</p> <p>さらに、人間関係づくり・仲間づくりのプログラム(ピア・サポート)を実施し、学生同士の友だちづくりができる、体験的活動を行います。授業の中で、学部・学年の枠を超えた良好な人間関係づくりができる、楽しいプログラムです。</p> <p>また、自分の性格を知る「心理テスト」、ストレスに負けない方法を学ぶ「ストレス心理学」、やる気をだす「動機づけの心理学」、家族の問題を考える「家族心理学」、コミュニケーションを向上させる「コミュニケーション心理学」、カウンセリングを学ぶ「カウンセリング心理学」など、日常の生活に役に立つ授業を予定しています。</p>		
成績評価の方法	<p>①試験 40%、②授業 30%、③課題・レポート 30%</p> <p>成績評価は、①～③を合計し、総合的に評価します。</p>		
テキスト	テキスト・参考文献は、授業で随時紹介します。資料は、毎回配布します。		
参考文献	チャートでわかる カウンセリングテクニックで高める「教師力」2 ISBN978-4-324-09241-5C3037		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本授業は、新入生には必ず受講してほしい。授業を通して、友人ができ、悩みも解決でき、大学生活が、より良好なものになると思います。		

授業科目名	英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	片山 圭巳		
研究室の場所	庄原キャンパス 2403研究室		
オフィスアワー	水曜日4講時目と木曜日3講時目		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【27年度入学生】生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	読解, 聴解, 語彙, 文法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語彙力, 文法力を駆使し, さまざまな分野の英文を正確に理解できる。 ・英文の社会的・文化的・歴史的背景を読み取り, 異なる文化に対する知識を深めることができる。 <p>位置づけ:</p> <p>本科目は, 全学共通教育科目の外国語科目に区分されており, 県立広島大学の1年生として必要な基本的なリーディング能力を養う科目として位置づけられる。</p>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな分野の英文に触れ, 未知語の推測や背景知識の活用などリーディングに必要なスキルを用いて, 文章の概要や要点を正確に読み取る読解演習を行う。また, 多読により英文を英語のまま理解するスキルを養う。 ・単に文字を目で追うだけでなく, 音声を伴う活動への展開や, 読んだ内容に基づいて意見をまとめるなど「書く」「話す」「聞く」技能とも関連付ける。 		
成績評価の方法	<p>授業内容に基づき, 読解・聴解・語彙・文法などの力を総合的にはかる期末試験を実施する。出席を含む授業への参加度を加え, 総合的に評価する。</p> <p>評価方法: 中間試験 (40%) 課題 (20%) ペア/グループワーク・授業への参加態度 (40%)</p>		
テキスト	「CLILL GLBAL ISSUES」三修社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>受講者への要望</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題・宿題を必ずやってくること。 2. 授業中の飲食 (ガムも含む。飲み物は机の上に置かない。), 私話, 携帯電話の持ち込み禁止。 3. 英和辞書 (電子辞書を含む) を毎回持ってくる。 4. 音読練習をする。 <p>勉強方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題プリントをやってくる。2. 音読練習をする。3. その他は授業中に指示をする。 		

授業科目名	英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	馬本 勉		
研究室の場所	庄原キャンパス 2401研究室		
オフィスアワー	木曜日5限		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【27年度入学生】生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	リーディング, リスニング, 語彙, 文法, eラーニング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語彙力, 文法力を高め, さまざまな分野の英文を正確に理解できる。 ・文章の社会的・文化的・歴史的背景を読み取り, 異なる文化に対する知識を深めることができる。 ・自分の意見を平易な英語を用いて表現できる。 <p>位置づけ:</p> <p>本科目は, 全学共通教育科目の外国語科目に区分されており, 県立広島大学の1年生として必要な基本的なリーディングおよび発信能力を養う科目として位置づけられる。</p>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな分野の英文に触れることにより, 語彙および語法や文法などに関する知識の積み上げを行う。 ・リーディングに必要なスキルを用いて文章の概要や要点を正確に読み取る読解演習を行う。 ・単に文字を目で追うだけでなく, 音声を伴う活動への展開や, 読んだ内容に基づいて意見をまとめるなど, 「書く」「話す」「聞く」技能とも関連付ける。グループでのディスカッションを取り入れ, 読みの深化を図る。 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストやeラーニング課題の達成度と, ディスカッション等の参加度の総合点 (60%) ・授業内容に基づく読解・聴解・語彙・文法の力をはかる「期末試験」の得点 (40%) 		
テキスト	プリント教材		
参考文献	適宜, 紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・常に辞書を携行し, 語彙力の向上に努めること。 ・自学自習用に「eラーニング」のコンテンツを活用すること。 		

授業科目名	英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	片山 圭巳		
研究室の場所	庄原キャンパス 2403研究室		
オフィスアワー	水曜日4講時目と木曜日4講時目		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【27年度入学生】生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	読解, 聴解, 語彙, 文法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>「Comprehensive Reading I」で獲得した技能の発展を目指す。多量の英文を読むことにより、語彙力および文法力の向上を図り、より多彩な英文を読んで理解できる力の習得を目的とする。文章の構成や文章中のキーワードを頼りに速読を行うなど、リーディングに必要なスキルにも触れながら、書き手の意図を的確に捉える読解力を養う。また読解を通して、英語圏の文化全般についての知識を深める。本科目は、全学共通教育科目の外国語科目に区分されており、県立広島大学の1年生として必要なリーディング能力を養う科目として位置づけられる。</p>		
授業の内容	<p>多量の英文を読み、読解力および語彙力の向上を目指す。必要に応じて、パラグラフの構成、関連した背景知識等に関する説明も行なう。また、単に文字を目で追うだけでなく、音声を伴う活動への展開や、読んだ内容に基づいて意見をまとめるなど、「聞く」「話す」「書く」技能とも関連付けた総合的な読解演習を行う。読解内容に基づき、グループによる議論、討論、プレゼンテーションなど総合的な活動を行う。</p>		
成績評価の方法	<p>授業内容に基づき、読解・聴解・語彙・文法などの力を総合的にはかる期末試験を実施する。出席を含む授業への参加度を加え、総合的に評価する。</p> <p>評価方法：中間試験（40%）課題（20%）ペア/グループワーク・授業への参加態度（40%）</p>		
テキスト	「CLIL GLOBAL ISSUES」三修社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>受講者への要望</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題・宿題を必ずやってくる。 2. 授業中の飲食（ガムも含む。飲み物は机の上に置かない。）、私語、携帯電話の持ち込み禁止。指示に従わなかった場合は退室してもらうことがあるが、その際に生じる一切の不利益は学生が責任を持って補てんをすること。 3. 英和辞書（電子辞書を含む）を毎回持ってくる。 4. 音読練習をする。 <p>勉強方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題プリントをやってくる。 2. 音読練習をする。 3. その他は授業中に指示をする。 		

授業科目名	英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	馬本 勉		
研究室の場所	庄原キャンパス 2401研究室		
オフィスアワー	木曜日5限		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【26年度以前入学生】生命科学科，環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	リーディング，リスニング，語彙，文法，eラーニング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語彙力・文法力を駆使し，英文の多読・速読ができる。 ・書き手の意図を的確に捉えることができる。 ・英文読解を通して，文化や社会問題等についての理解を深めることができる。 ・自分の意見を英語で的確に表現することができる。 <p>位置づけ：</p> <p>本科目は，全学共通教育科目の外国語科目に区分されており，県立広島大学の1年生として必要なリーディングおよび発信能力を養う科目として位置づけられる。</p>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成やキーワードを把握するなどのリーディングに必要なスキルに触れながら多量の英文を読む。 ・英英辞典の引き方，パラグラフの構成，関連した背景的知識等に関する説明を行う。 ・単に文字を目で追うだけでなく，音声を伴う活動への展開や，読んだ内容に基づいて意見をまとめるなど，「聞く」「話す」「書く」技能とも関連付けた総合的な読解演習を行う。グループでのディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ，読みの深化を図る。 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストやeラーニング課題の達成度と，ディスカッション等の参加度の総合点（60％） ・授業内容に基づく読解・聴解・語彙・文法の力をはかる「期末試験」の得点（40％） 		
テキスト	プリント教材		
参考文献	適宜，紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・常に辞書を携行し，語彙力の向上に努めること。 ・自学自習用に「eラーニング」のコンテンツを活用すること。 		

授業科目名	Extensive Reading		
担当教員氏名(助手氏名)	馬本 勉		
研究室の場所	庄原キャンパス 2401研究室		
オフィスアワー	木曜日5限		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	リーディング, 語彙, 文法, エッセイ, eラーニング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Comprehensive Reading I, II で獲得した技能をさらに伸ばす。 ・英文を読んで, 重要な情報を早く正確に把握することができる。 ・論説文, エッセイ, 物語などさまざまな分野の英文に合ったリーディングスキルを用いることができる。 ・読んだ内容に関して, 自分の意見を英語で表現することができる。 <p>位置づけ:</p> <p>本科目は, 全学共通教育科目の外国語科目に区分されており, 県立広島大学の2年生として必要なリーディングおよび発信能力を養う科目として位置づけられる。</p>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグラフの構成や展開に注意して要点を把握するなど, リーディングに必要なスキルに触れながら, 速読・多読の演習を行う。 ・速読によって得た情報をもとに議論をしたり, 文章にまとめたりするなど, 「聞く」「話す」「書く」技能とも関連付ける。グループでのディスカッションを取り入れ, 読みの深化を図る。 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストやeラーニング課題の達成度と, ディスカッション等の参加度の総合点 (60%) ・授業内容に基づく読解・聴解・語彙・文法の力をはかる「期末試験」の得点 (40%) 		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・笹島茂ほか『CLIL 英語で学ぶ国際問題』三修社, 2014年 ・門田修平ほか『決定版 英語エッセイ・ライティング』コスモピア, 2014年 		
参考文献	適宜, 紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・常に辞書を携行し, 語彙力の向上に努めること。 ・自学自習用に「eラーニング」のコンテンツを活用すること。 		

授業科目名	Extensive Reading		
担当教員氏名(助手氏名)	片山 圭巳		
研究室の場所	庄原キャンパス 2403研究室		
オフィスアワー	水曜日4講時目と木曜日3講時目		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	読解, 聴解, 語彙, 文法, CALL教室		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	「Comprehensive Reading I」「Comprehensive Reading II」で獲得した技能の発展を目指す。論説文, エッセイ, 物語などさまざまな分野の英文を多量に読むことにより, 英文を早く読んで正確に理解できる力の習得を目的とする。本科目は, 全学共通教育科目の外国語科目に区分されており, 県立広島大学の2年生として必要なリーディング能力を養う科目として位置づけられる。		
授業の内容	パラグラフの構成や展開に注意して要点を把握するなど, リーディングに必要なスキルを身につける。速読・多読の演習を行い, 重要な情報を正確につかむ読解力を養う。読解によって得た情報をもとに議論や討論をしたり, 文章にまとめたりするなど「聞く」「話す」「書く」技能を獲得する。		
成績評価の方法	授業内容に基づき, 読解・聴解・語彙・文法などの力を総合的にはかる期末試験を実施する。出席を含む授業への参加度を加え, 総合的に評価する。 評価方法: 中間・最終試験(40%), 課題, 小テスト, ペア/グループワーク・授業への参加態度等(60%)		
テキスト	「CLIL GLOBAL ISSUES」三修社 「英語エッセイ・ライティング」コスモピア		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	1. 課題・宿題を必ずやってくること。 2. 授業中の飲食(ガムも含む。飲み物は机の上に置かない。), 携帯電話の持ち込み, 私語禁止。 3. 英和辞書(電子辞書を含む)を毎回持ってくる。 4. 音読練習をする 5. 語彙を増やす。		

授業科目名	Specific Reading		
担当教員氏名(助手氏名)	馬本 勉		
研究室の場所	庄原キャンパス 2401研究室		
オフィスアワー	木曜日5限		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	リーディング, 語彙, 文法, エッセイ, eラーニング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> Comprehensive Reading I, II, Extensive Reading で獲得した技能をさらに伸ばす。 各分野の基礎的な専門用語を含む英文を読んで正確に理解できる。 読んだ内容に関して, 自分の意見を英語で表現することができる。 <p>位置づけ:</p> <p>本科目は, 全学共通教育科目の外国語科目に区分されており, 県立広島大学の2年生として必要なリーディングおよび発信能力を養う科目として位置づけられる。</p>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> 生命や環境の内容に関連した英文を含む教材を用い, 基本的な専門用語やその分野特有の表現に習熟する演習を行う。 文章のジャンル(記事, 論文など)に応じた構成に注目し, 必要な情報を早く正確に理解できる演習を行う。 グループでのディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ, 読みの深化を図る。 自分の意見をエッセイにまとめ, 発表する。 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 小テストやeラーニング課題の達成度と, ディスカッション等の参加度の総合点(60%) 授業内容に基づく読解・聴解・語彙・文法の力をはかる「期末試験」の得点(40%) 		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 笹島茂ほか『CLIL 英語で学ぶ国際問題』三修社, 2014年 門田修平ほか『決定版 英語エッセイ・ライティング』コスモピア, 2014年 		
参考文献	適宜, 紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> 常に辞書を携行し, 語彙力の向上に努めること。 自学自習用に「eラーニング」のコンテンツを活用すること。 		

授業科目名	Specific Reading		
担当教員氏名(助手氏名)	片山 圭巳		
研究室の場所	庄原キャンパス 2403研究室		
オフィスアワー	水曜日4講時目と木曜日4講時目		
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	読解, 聴解, 語彙, 文法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	「Comprehensive Reading I」「Comprehensive Reading II」「Extensive Reading」で獲得した技能をさらに発展させ, 各分野の基礎的な専門用語を含む英文を読んで正確に理解できる力の習得を目的とする。本科目は, 全学共通教育科目の外国語科目に区分されており, 県立広島大学の2年生として必要な基礎的なリーディング能力を養う科目として位置づけられる。		
授業の内容	生命や環境の内容に関連した英文を含む教材を用い, 基本的な専門用語やその分野特有の表現に習熟する。また, 文章のジャンル(記事, 論文など)に応じた構成を理解し, 必要な情報を早く正確に理解できる力を養う。さらに, 複数の記事内容を批判的に読解し, 論理的に議論する技能を培う。最終的に自分の考えをプレゼンテーションするスキルを身に着ける。		
成績評価の方法	授業内容に基づき, 読解・聴解・語彙・文法などの力を総合的にはかる期末試験を実施する。出席を含む授業への参加度を加え, 総合的に評価する。 評価方法: 課題(20%) 小テスト(40%) プロジェクト・ペア/グループワーク・発表・授業への参加態度(40%)		
テキスト	「英語エッセイ・ライティング」コスモピア		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	1. 課題・宿題を必ずやってくること。 2. 授業中の飲食(ガムも含む。飲み物は机の上に置かない。), 私語禁止。 3. 英和辞書(電子辞書を含む)を毎回持ってくる。 4. 音読練習をする 5. 語彙を増やす。		

授業科目名	英語表現 I		
担当教員氏名(助手氏名)	ロナルド・ジェフリー・スチュワート		
研究室の場所	庄原キャンパス 2402研究室		
オフィスアワー	木曜日3限と4限		
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【27年度入学生】生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(理科)必修		
キーワード	英語, 英会話, スピーキング, リスニング, コミュニケーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>さまざまな日常生活の場面を想定し, 定型的・慣用的な表現が自由に使えるよう, スピーキング及びリスニング能力の基礎的なコミュニケーション能力の養成を目的とする。自然な速度で話される英語を聞き取りその内容を理解する力, 及び日常話題について基本的な英語を用いて自発的に表現できる能力の習得を目指す。この科目は, 全学共通教育の外国語科目に区分されており, 県立広島大学の1年生として必要な基本的なコミュニケーション能力を養う科目として位置づけられる。</p> <p>In this class students will learn to both understand and produce natural conversation patterns in English, so that they will become good communicators. The aim of this class is to instill basic communicative strategies in the students through study and practice. This class belongs to the foreign language curriculum, and is a basic course for freshmen of the Prefectural University of Hiroshima.</p>		
授業の内容	<p>この科目では, 対話において, 十分な内容を伴う受け答えをし, 自らも問いを発するなど会話を発展させる方策を学び, 十分な自己表現ができることを目指した演習を行う。</p> <p>The course will cover common situations where short informal conversations are likely to occur. In this class students will learn positive strategies for developing their communication skills.</p>		
成績評価の方法	小テスト (10%), グループ発表 (20%), 出席と参加 (40%), 期末試験 (30%)		
テキスト	Nice Talking with You 1 - Student's Book (Cambridge University Press, 2011) (ISBN:978-0-521-18808-1)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	In this class we will be doing lots of pair work and group work activities. Please come prepared to cooperate and to talk.		

授業科目名	英語表現 I		
担当教員氏名(助手氏名)	マイケル・ホーム (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【27年度入学生】生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免 (理科) 必修		
キーワード	英語, 英会話, スピーキング, リスニング, コミュニケーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>さまざまな日常生活の場面を想定し, 定型的・慣用的な表現が自由に使えるよう, スピーキング及びリスニング能力の基礎的なコミュニケーション能力の養成を目的とする。自然な速度で話される英語を聞き取りその内容を理解する力, 及び日常話題について基本的な英語を用いて自発的に表現できる能力の習得を目指す。この科目は, 全学共通教育の外国語科目に区分されており, 県立広島大学の1年生として必要な基本的なコミュニケーション能力を養う科目として位置づけられる。</p> <p>In this class students will learn to both understand and produce natural conversation patterns in English, so that they will become good communicators. The aim of this class is to instill basic communicative strategies in the students through study and practice. This class belongs to the foreign language curriculum, and is a basic course for freshmen of the Prefectural University of Hiroshima.</p>		
授業の内容	<p>この科目では, 対話において, 十分な内容を伴う受け答えをし, 自らも問いを発するなど会話を発展させる方策を学び, 十分な自己表現ができることを目指した演習を行う。</p> <p>The course will cover common situations where short informal conversations are likely to occur. In this class students will learn positive strategies for developing their communication skills.</p>		
成績評価の方法	An explanation of assessment will be given during class.		
テキスト	Nice Talking with You 1 - Student's Book (Cambridge University Press, 2011) (ISBN:978-0-521-18808-1)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	In this class we will be doing lots of pair work and group work activities. Please come prepared to cooperate and to talk.		

授業科目名	英語表現Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	ロナルド・ジェフリー・スチュワート		
研究室の場所	庄原キャンパス 2402研究室		
オフィスアワー	木曜日3限と4限		
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【27年度入学生】生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(理科)必修		
キーワード	英語, 英会話, スピーキング, リスニング, コミュニケーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>さまざまな日常生活の場面を想定し, 定型的・慣用的な表現が自由に使えるよう, スピーキング及びリスニング能力の基礎的なコミュニケーション能力の養成を目的とする。自然な速度で話される英語を聞き取りその内容を理解する力, 及び日常話題について基本的な英語を用いて自発的に表現できる能力の習得を目指す。この科目は, 全学共通教育の外国語科目に区分されており, 県立広島大学の1年生として必要な基本的なコミュニケーション能力を養う科目として位置づけられる。</p> <p>In this class students will learn to both understand and produce natural conversation patterns in English, so that they will become good communicators. The aim of this class is to instill basic communicative strategies in the students through study and practice. This class belongs to the foreign language curriculum, and is a basic course for freshmen of the Prefectural University of Hiroshima.</p>		
授業の内容	<p>この科目では, 対話において, 十分な内容を伴う受け答えをし, 自らも問いを発するなど会話を発展させる方策を学び, 十分な自己表現ができることを目指した演習を行う。</p> <p>The course will cover common situations where short informal conversations are likely to occur. In this class students will learn positive strategies for developing their communication skills.</p>		
成績評価の方法	出席と参加 (30%), グループ発表 (20%), クイズx5 (20%), 期末会話テスト (30%)		
テキスト	Nice Talking with You 1 - Student's Book (Cambridge University Press, 2011) (ISBN:978-0-521-18808-1)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	In this class we will be doing lots of pair work and group work activities. Please come prepared to cooperate and to talk.		

授業科目名	英語表現Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	マイケル・ホーム (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【27年度入学生】生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(理科)必修		
キーワード	英語, 英会話, スピーキング, リスニング, コミュニケーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>さまざまな日常生活の場面を想定し, 定型的・慣用的な表現が自由に使えるよう, スピーキング及びリスニング能力の基礎的なコミュニケーション能力の養成を目的とする。自然な速度で話される英語を聞き取りその内容を理解する力, 及び日常話題について基本的な英語を用いて自発的に表現できる能力の習得を目指す。この科目は, 全学共通教育の外国語科目に区分されており, 県立広島大学の1年生として必要な基本的なコミュニケーション能力を養う科目として位置づけられる。</p> <p>In this class students will learn to both understand and produce natural conversation patterns in English, so that they will become good communicators. The aim of this class is to instill basic communicative strategies in the students through study and practice. This class belongs to the foreign language curriculum, and is a basic course for freshmen of the Prefectural University of Hiroshima.</p>		
授業の内容	<p>この科目では, 対話において, 十分な内容を伴う受け答えをし, 自らも問いを発するなど会話を発展させる方策を学び, 十分な自己表現ができることを目指した演習を行う。</p> <p>The course will cover common situations where short informal conversations are likely to occur. In this class students will learn positive strategies for developing their communication skills.</p>		
成績評価の方法	An explanation of assessment will be given during class.		
テキスト	Nice Talking with You 1 - Student's Book (Cambridge University Press, 2011) (ISBN:978-0-521-18808-1)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	In this class we will be doing lots of pair work and group work activities. Please come prepared to cooperate and to talk.		

授業科目名	Communicative Writing I		
担当教員氏名(助手氏名)	マイケル・ホーム (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英語, 作文, ライティング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>ライティングによる発信を行うための、基礎的な文章作成能力を身につけることを目的とする。基本的な語彙や文法、文型、表現等を再認識しながら、それらを用いて文字で自己表現する方法を学ぶとともに、情報や意見を明確に伝えるため、パラグラフ・レベルにおける論理的な文章作成の基礎を培う。本科目は、全学共通教育科目の外国語科目に区分されており、県立広島大学の2年生として必要な基礎的なライティング能力を養う科目として位置づけられる。</p> <p>The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write paragraphs containing basic logical sentences. This class belongs to the foreign language curriculum, and is a basic course for sophomores of the Prefectural University of Hiroshima.</p>		
授業の内容	<p>単に「書く」活動にとどまらず、考えをまとめたり、語彙を拡充したりするために「聞く」「話す」「読む」活動を取り入れ、総合的な英語表現能力を養う演習を行う。</p> <p>Students will learn the basics of paragraph writing. To enable students to acquire basic knowledge of writing and increase vocabulary, a variety of activities will be included such as listening, speaking, and reading. Students will also be introduced to tools available on computers and the internet that will help them write and refine their writing. The schedule and work covered during semester will be adjusted to the class pace.</p>		
成績評価の方法	宿題 (30%) , 参加度 (40%) , 期末試験 (30%)		
テキスト	“Writing for the Real World 1” (Oxford, 2004) (ISBN: 0-19-453814-1)		
参考文献	Please bring a suitable dictionary or electronic dictionary to classes.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>In this class we will sometimes do tasks as pairs or small groups, so please come prepared to actively participate. Please bring a suitable dictionary to class.</p> <p>* You MUST bring your textbook to every class to participate. (Used textbooks already written in are NOT acceptable.)</p>		

授業科目名	Communicative Writing I		
担当教員氏名(助手氏名)	ロナルド・ジェフリー・スチュワート		
研究室の場所	庄原キャンパス 2402研究室		
オフィスアワー	木曜日3限と4限		
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	英語, 作文, ライティング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>ライティングによる発信を行うための、基礎的な文章作成能力を身につけることを目的とする。基本的な語彙や文法、文型、表現等を再認識しながら、それらを用いて文字で自己表現する方法を学ぶとともに、情報や意見を明確に伝えるため、パラグラフ・レベルにおける論理的な文章作成の基礎を培う。本科目は、全学共通教育科目の外国語科目に区分されており、県立広島大学の2年生として必要な基礎的なライティング能力を養う科目として位置づけられる。</p> <p>The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write paragraphs containing basic logical sentences. This class belongs to the foreign language curriculum, and is a basic course for sophomores of the Prefectural University of Hiroshima.</p>		
授業の内容	<p>単に「書く」活動にとどまらず、考えをまとめたり、語彙を拡充したりするために「聞く」「話す」「読む」活動を取り入れ、総合的な英語表現能力を養う演習を行う。</p> <p>Students will learn the basics of paragraph writing. To enable students to acquire basic knowledge of writing and increase vocabulary, a variety of activities will be included such as listening, speaking, and reading. Students will also be introduced to tools available on computers and the internet that will help them write and refine their writing.</p> <p>*The schedule and work covered during semester will be adjusted to the class pace.</p>		
成績評価の方法	宿題 (30%) , 出席と参加 (40%) , 期末試験 (30%)		
テキスト	Charles LeBeau "Interactive Writing" (MacMillan, ISBN:978-4-7773-6476-3)		
参考文献	Please bring a suitable dictionary or electronic dictionary to classes.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>Importance is attached to participation in this class. We will also sometimes do tasks as pairs or small groups, so please come prepared to actively participate. Please bring a suitable dictionary to class.</p> <p>* You MUST bring your textbook to every class to participate. (Used textbooks already written in are NOT acceptable.)</p>		

授業科目名	Communicative Writing II		
担当教員氏名(助手氏名)	マイケル・ホーム (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>「Communicative Writing I」で獲得した技能の発展を目指し、実用レベルの文章作成能力を身につけることを目的とする。幅広い分野における文章構成のルールを確認するとともに、メールの返事や簡単なビジネスレター、電話に対応した内容のメモ、ポストカードや手紙など、さまざまな英文を書く練習を行ない、発進力の向上を目指す。本科目は、全学共通教育科目の外国語科目に区分されており、県立広島大学の2年生として必要なライティング能力を養う科目として位置づけられる。</p> <p>This is a follow-up course to Communicative Writing I. The aim of this class is to develop students' practical writing abilities. This class belongs to the foreign language curriculum, and is an intermediate course for sophomores of the Prefectural University of Hiroshima.</p>		
授業の内容	<p>伝えるべき情報や意見をまとめたり、的確に伝える表現方法を学んだりするために「書く」「話す」「読む」活動を取り入れ、総合的な英語表現能力を養う演習を行う。</p> <p>In order to develop overall writing skills, a variety of exercises will be employed. Students will participate in various practical writing activities (using textbook) to build on skills learned in first semester.</p> <p>Also in this class students will be introduced to academic writing and take part in a writing project, including a final presentation. The focus will be on structure and organization, as well as the editing process.</p>		
成績評価の方法	宿題 (30%) , 参加度 (40%) , 期末試験 (30%)		
テキスト	“Writing for the Real World 1” (Oxford 2004) (ISBN: 0-19-453814-1)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>In this class we will sometimes do tasks as pairs or small groups, so please come prepared to actively participate. Please bring a suitable dictionary to class.</p> <p>* You MUST bring your textbook to every class to participate. (Used textbooks already written in are NOT acceptable.)</p>		

授業科目名	Communicative Writing II		
担当教員氏名(助手氏名)	ロナルド・ジェフリー・スチュワート		
研究室の場所	庄原キャンパス 2402研究室		
オフィスアワー	木曜日3限と4限		
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>「Communicative Writing I」で獲得した技能の発展を目指し、実用レベルの文章作成能力を身につけることを目的とする。幅広い分野における文章構成のルールを確認するとともに、メールの返事や簡単なビジネスレター、電話に対応した内容のメモ、ポストカードや手紙など、さまざまな英文を書く練習を行ない、発進力の向上を目指す。本科目は、全学共通教育科目の外国語科目に区分されており、県立広島大学の2年生として必要なライティング能力を養う科目として位置づけられる。</p> <p>This is a follow-up course to Communicative Writing I. The aim of this class is to develop students' practical writing abilities. This class belongs to the foreign language curriculum, and is an intermediate course for sophomores of the Prefectural University of Hiroshima.</p>		
授業の内容	<p>伝えるべき情報や意見をまとめたり、的確に伝える表現方法を学んだりするために「書く」「話す」「読む」活動を取り入れ、総合的な英語表現能力を養う演習を行う。</p> <p>In order to develop overall writing skills, a variety of exercises will be employed. Students will participate in various practical writing activities (using textbook) to build on skills learned in first semester.</p> <p>Also in this class students will be introduced to academic writing and take part in a writing project, including a final presentation. The focus will be on structure and organization, as well as the editing process.</p>		
成績評価の方法	宿題 (30%) , 出席と参加 (40%) , 期末試験 (30%)		
テキスト	Charles LeBeau "Interactive Writing" (MacMillan, ISBN:978-4-7773-6476-3)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>Importance is attached to participation in this class. We will also sometimes do tasks as pairs or small groups, so please come prepared to actively participate. Please bring a suitable dictionary to class.</p> <p>* You MUST bring your textbook to every class to participate. (Used textbooks already written in are NOT acceptable.)</p>		

授業科目名	検定英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	笠本 晃代 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	読解, 聴解, 語彙, 文法, TOEIC		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	TOEIC (国際コミュニケーション英語能力テスト) においてスコアを取得するため, 聴解・読解の能力を発展させる。 本科目は, 全学共通教育科目の外国語科目に区分されており, 県立広島大学の1年生として必要な基本的英語運用能力を養う科目として位置づけられる。		
授業の内容	聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習をTOEIC形式での演習を含めて行う。 。速読速解, 速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行う。		
成績評価の方法	TOEICに対応できる力の習得, 英語コミュニケーションへの積極的態度, 等で評価する。 。TOEIC受験を求める。		
テキスト	寺西雅之, パトリック・ドーティ「TOEIC Test Success」南雲堂		
参考文献	適宜, 紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	検定英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	ロナルド・スチュワート		
研究室の場所	庄原キャンパス 2402研究室		
オフィスアワー	木曜日3限と4限		
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	読解, 聴解, 語彙, 文法, TOEIC		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC (国際コミュニケーション英語能力テスト) において350~500点を取得する。 ・TOEICのスコアで自分の英語力を客観的に把握し, 具体的な目標を設定することにより, 聴解, 読解, 英語構文理解などの能力を伸ばす。 <p>位置づけ:</p> <p>本科目は, 全学共通教育科目の外国語科目の選択科目であり, 選択した学生が目標を持って主体的に学習していくことが求められる。</p>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・速読速解, 速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行う。 ・TOEIC350点以上を取得した履修生の単位を認定する。 ・習熟度や内容に応じたクラス編成を行い, 学習者に応じた能力の向上をはかる。 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に出席した上で, 学期末に実施する TOEIC IP 学内試験を受験し, 350点以上取得した履修生の単位を認定する。 ・500点以上はA+, 450点以上500点未満はA, 400点以上450点未満はB, 350点以上400点未満はCとする。 ・学期中のTOEIC公開テストの得点で代用することもできる。 		
テキスト	授業の目的に適ったテキストを選定し, 使用する。		
参考文献	適宜, 紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	初回の授業時に説明会を実施し, 習熟度および到達目標に応じたクラス分けを行う。		

授業科目名	検定英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	笠本 晃代 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	演習形式		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	読解, 聴解, 語彙, 文法, TOEIC		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	TOEIC (国際コミュニケーション英語能力テスト) においてスコアを取得し, 英語運用能力を総合的に高めるため, 聴解・読解の能力を発展させる。 本科目は, 全学共通教育科目の外国語科目に区分されており, 県立広島大学の1年生として必要な基本的英語運用能力を養う科目として位置づけられる。		
授業の内容	聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習を行う。速読速解, 速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行い, TOEICに対応できる力を養う。		
成績評価の方法	TOEICに対応できる力の習得、英語コミュニケーションへの積極的態、等で評価する。 。TOEIC受験を求める。		
テキスト	寺西雅之, パトリック・ドーティー 「TOEIC Test Success」 南雲堂		
参考文献	適宜、紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	検定英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	ロナルド・スチュワート		
研究室の場所	庄原キャンパス 2402研究室		
オフィスアワー	木曜日3限と4限		
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	TOEIC500～750点レベルを目標とする。英語の資格の中でTOEICを英語学習に活用し、TOEICのスコアで自分の英語力を客観的に把握し、また具体的な目標を設定することにより、聴解、読解、英語構文理解などの発展的な能力の養成を目指す。 本科目は、全学共通教育科目の外国語科目の選択科目であり、選択した学生が目標を持って主体的に学習していくことが求められる。		
授業の内容	速読速解、速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行う。TOEIC500点以上を取得した履修生の単位を認定する。また、習熟度や内容に応じたクラス編成を行ない、学習者に応じた能力の向上をはかる。		
成績評価の方法	学期末に実施するTOEIC IP 学内試験の成績によって評価を行う。650点以上はA+, 600～649点はA, 550～599点はB, 500～549点はCとする。なお、学期中のTOEIC公開テストの得点で代用することもできる。		
テキスト	未定		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	初回の授業時に説明会を行う		

授業科目名	資格英語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	馬本 勉		
研究室の場所	庄原キャンパス 2401研究室		
オフィスアワー	木曜日5限		
授業の形式・方式	単位認定科目		
単位数(時間数)	1単位 (0時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度入学生】生命科学科，環境科学科 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC, TOEFL, 自学自習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	実用的なコミュニケーション能力を習得し，TOEICまたはTOEFL等でスコアを取得する。 本科目は，全学共通教育科目の外国語科目の選択科目である。		
授業の内容	単位認定科目		
成績評価の方法	TOEIC550点以上，またはそれに相当するTOEFLスコアで単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	CALL教室ウェブサイト“Shobara CALL”(http://www.pu-hiroshima.ac.jp/~shobara/call/)では，自学自習に役立つサイトを紹介している。eラーニングも積極的に活用すること。		

授業科目名	資格英語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	馬本 勉		
研究室の場所	庄原キャンパス 2401研究室		
オフィスアワー	木曜日5限		
授業の形式・方式	単位認定科目		
単位数(時間数)	1単位 (0時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度入学生】生命科学科，環境科学科 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	TOEIC, TOEFL, 自学自習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	実用的なコミュニケーション能力を習得し，TOEICまたはTOEFL等でスコアを取得する。 本科目は，全学共通教育科目の外国語科目の選択科目である。		
授業の内容	単位認定科目		
成績評価の方法	TOEIC700点以上，またはそれに相当するTOEFLスコアで単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	CALL教室ウェブサイト“Shobara CALL”(http://www.pu-hiroshima.ac.jp/~shobara/call/)では，自学自習に役立つサイトを紹介している。eラーニングも積極的に活用すること。		

授業科目名	中国語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	張 健 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面の講義形式で行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	日本と異なる中国の文化を知って, 簡単な日常会話が話せるよう。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	中国語の基本的な文法を学び, 初歩の読本を通して初歩的な読解力を養成するとともに, 簡単な会話が理解できる能力を養成する。		
授業の内容	中国語の基礎を身につける。言語を音声として理解する初歩的段階に重点を置いて発音の習得から始める。 続いて, 発音表記や漢字表記の特徴を踏まえながら, 単語の音(読み)と意味と漢字表記とがそれぞれ結びつくように練習する。 さらに簡単な会話文を用いて, 基本的な語彙・語法の習得を目指す。 「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能をバランスよく習得できるよう, 練習を繰り返し, あいさつや自己紹介程度の会話ができるようにする。		
成績評価の方法	出席, 学習態度と期末試験により総合的に評価する。 (出席20点: 欠席は4回まで, 欠席1回につき5点減点, 学習態度20点: 私語や居眠り, 宿題を無視するなど1回につき5点減点, 期末試験60点, 計100点)		
テキスト	テキストは最初の授業で指定する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	自分でこまめに辞書を引くことで, たくさんの言い回しにふれる。こうして見つけた表現を積極的に口に出し会話してみるという, 目と耳と口とを総合させた学習方法を採用の姿勢が欲しい。		

授業科目名	中国語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	張 健 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面の講義形式で行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	日本と異なる中国の文化を知って, 簡単な日常会話が話せるよう。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	中国語Ⅰで学ぶことを基本にして, 初級・中級の読み物を通して中国の文化に触れるとともに, 中国語での簡単な日常会話や手紙などが理解できる能力を養う。		
授業の内容	中国語の基本的な語彙・語法の習得を目指す。 簡単な会話文を用いて練習を繰り返し, 中国語の特徴を踏まえた初歩的な日常会話ができるよう鍛錬する。 また, 文の基本的な構造(文型)を, 動詞述語文・形容詞述語文・複文による慣用的表現などを中心に理解し, 文法面での基礎を固める。 一言語としての理解に止まらず, 日中文化の発想の相違に注意して日本語訳を試みたり, コミュニケーションに求められる音声表現の重要性を認識させることなどを通じて, 受講者各自の関心の範囲に応じた能力の伸長を図る。		
成績評価の方法	出席, 学習態度と期末試験により総合的に評価する。 (出席20点: 欠席は4回まで, 欠席1回につき5点減点, 学習態度20点: 私語や居眠り, 宿題を無視するなど1回につき5点減点, 期末試験60点, 計100点)		
テキスト	テキストは最初の授業で指定する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	自分でこまめに辞書を引くことで, たくさんの言い回しにふれる。こうして見つけた表現を積極的に口に出し会話してみるという, 目と耳と口とを総合させた学習方法を探る姿勢が欲しい。		

授業科目名	ドイツ語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	大草 輝政		
研究室の場所	庄原キャンパス 2408研究室		
オフィスアワー	①授業前後, 教室で ②木曜13:00-14:00		
授業の形式・方式	対面演習型授業		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	「性・数・格」, 人称変化		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>[到達目標]</p> <p>(1) ドイツ語の単語や簡単な文を発音できる。</p> <p>(2) 冠詞や名詞などについて「性・数・格」を判断できる。</p> <p>(3) 現在形で書かれた簡単な文を和訳できる。</p> <p>[位置づけ]</p> <p>全学共通教養科目の外国語教育科目である。</p>		
授業の内容	ドイツ語のアルファベートを覚え, 発音, 人称変化, 格変化の基本を習得する。		
成績評価の方法	基本的なドイツ語(語彙, 文法, 音声等)に対する理解度, 平易な文章の理解度等で総合的に評価する。毎回の課題提出(45%)および学期末テスト(55%)		
テキスト	Wera und Werner, 朝日出版社 (¥2400+税)		
参考文献	『初級者に優しい独和辞典』(¥2600+税), 『アクセス独和辞典』第3版(¥4100+税)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	各回, 1-2時間に相当する授業外自主学修を確保するつもりで授業に臨むこと。		

授業科目名	ドイツ語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	大草 輝政		
研究室の場所	庄原キャンパス 2408研究室		
オフィスアワー	①授業前後, 教室で ②木曜10:40-11:40		
授業の形式・方式	対面演習型授業		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	話法の助動詞, 動詞の三基本形, 現在完了形, 受動文, 関係文, 接続法, 比較表現, zu不定詞句		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>[到達目標]</p> <p>(1) ドイツ語の文章を発音できる。</p> <p>(2) 辞書を使ってドイツ語の文章を和訳できる。</p> <p>(3) 簡単な独作文ができる。</p> <p>[位置づけ]</p> <p>全学共通教養科目の外国語教育科目である。</p>		
授業の内容	ドイツ語Iに続いて, 話法の助動詞, 動詞の三基本形, 現在完了形, 受動文, 関係文, 接続法, 比較表現, zu不定詞句などを習得する。		
成績評価の方法	毎回の課題提出 (45%) および学期末テスト (55%)		
テキスト	Wera und Werner, 朝日出版社 (¥2400+税)		
参考文献	『アクセス独和辞典』第3版 (¥4100+税)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎回独和辞書を持参すること (初回に指示する)。 各回の授業につき, 1-2時間程度に相当する授業外自主学修が最低限求められる。		

授業科目名	日本語 I		
担当教員氏名(助手氏名)	中石ゆうこ		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。毎週宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度入学生】生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 文法 聞く 話す		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②文法力を高めること、③日常生活で良く見られる対話場面での表現力を高めることである。		
授業の内容	生活に必要な語彙、表現に加えて、大学の学習活動に必要となる抽象的な語彙や表現を学ぶ。 日本語の文法に関する知識を確認し、それを運用に結び付ける。 他の人の意見や感想を理解し、自己の考えを聞き手に分かりやすく正確に表明する練習を行う。 ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 課題(宿題) (30%) 期末テスト (50%)		
テキスト	『聞いて覚える話し方日本語生中継初中級編1』(くろしお出版)を予定。 ※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	第1回目の授業に必ず出席すること。 日本語レベルによって内容を変更する。		

授業科目名	日本語Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	中石ゆうこ		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。毎週宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度入学生】生命科学科，環境科学科 1年次対		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 聞く 話す 発表		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②日常生活で良く見られる対話場面での表現力を高めること、③大学生活で必要とされる日本語力のうち主に聞き・話しの活動（講義やゼミ発表を聞く、課題について情報を集める、ゼミで発表するなど）の日本語力を高めることである。この「日本語Ⅱ」では、「日本語Ⅰ」の日本語力より、上のレベルに対応した活動を行う。		
授業の内容	生活に必要な語彙、表現に加えて、大学の学習活動に必要な抽象的な語彙や表現を学ぶ。 講義やゼミ発表を正確に聴き取り、その内容を的確な表現と方法を用いて報告する。 他の人の意見や感想を理解し、自己の意見を聞き手に分かりやすく表明する練習をする。 ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 課題(宿題) (30%) 期末テスト (50%)		
テキスト	『聞いて覚える話し方日本語生中継中～上級編』（くろしお出版）、 『聴解発表ワークブック』（スリーエーネットワーク）の2冊を予定。 ※学生の能力によって決定する。（第3回の授業で指示）		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	第1回目の授業に必ず出席すること。 日本語レベルによって内容を変更する。		

授業科目名	日本語Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	中石ゆうこ		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。毎週宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度入学生】生命科学科，環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 読む 書く		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②大学生生活で必要とされる日本語力のうち主に読み、書きの活動（専門書を読む、レポートや論文を書くなど）のための日本語力を高めることである。		
授業の内容	生活に必要な語彙、表現に加えて、大学の学習活動に必要な抽象的な語彙や表現を学ぶ。教科書に書かれた文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて、書く力を高める。様々な文章を読むことで、正確に、かつ効果的に、必要な情報を見つける演習を行う。 ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 課題(宿題) (30%) 期末テスト(またはレポート) (50%)		
テキスト	『留学生のためのここが大切文章表現のルール』(スリーエーネットワーク) 『中・上級のための速読の日本語』(The Japan Times)の2冊を予定。 ※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	第1回目の授業に必ず出席すること。 日本語レベルによって内容を変更する。		

授業科目名	日本語Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	中石ゆうこ		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。毎週宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度入学生】生命科学科，環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	語彙 漢字 読む 書く		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②大学生生活で必要とされる日本語力のうち主に読み、書きの活動（専門書を読む、課題について情報を集める、レポートや論文を書くなど）のための日本語力を高めることである。この「日本語Ⅳ」では、「日本語Ⅲ」の日本語力より、上のレベルに対応した活動を行う。		
授業の内容	大学の学習活動に必要な抽象的で専門性の高い語彙や表現を学ぶ。レポート作成ができる作文力を身に付けることを目標にして、教科書に書かれた文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて、書く力を高める。様々な文章を読むことで、正確に、かつ効果的に、必要な情報を見つける演習を行う。 ※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。		
成績評価の方法	小テスト (20%) 課題 (宿題) (30%) 期末テスト (またはレポート) (50%)		
テキスト	『留学生のためのここが大切文章表現のルール』(スリーエーネットワーク) 『中・上級のための速読の日本語』(The Japan Times)の2冊を予定。 ※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	第1回目の授業に必ず出席すること。 日本語レベルによって内容を変更する。		

授業科目名	情報リテラシー		
担当教員氏名(助手氏名)	船津誠也		
研究室の場所	広島キャンパス		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	<p>対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習1時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。</p>		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	
履修要件	生命科学科 1年		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。 具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力 ・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力 ・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力</p>		
授業の内容	<p>情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。 インターネット等を使った情報検索について学習する。 情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。 文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。 プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。</p>		
成績評価の方法	<p>4回以上の欠席は評価の対象外とする。 情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。</p>		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。 http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</p>		

授業科目名	情報リテラシー		
担当教員氏名(助手氏名)	中村 悟		
研究室の場所	三原キャンパス 2507研究室		
オフィスアワー	随時（メールまたは電話） 庄原キャンパスでは、木曜日12:30-13:00		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題（演習課題）を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【27年度入学生】環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免（理科）必修		
キーワード	情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。 具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力 ・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力 ・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力		
授業の内容	情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。 インターネット等を使った情報検索について学習する。 情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。 文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。 プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。		
成績評価の方法	3回以上の欠席は評価の対象外とする。 情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準（得点率55%）を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準（得点率65%）を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。 http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/		

授業科目名	情報リテラシー演習		
担当教員氏名(助手氏名)	船津 誠也		
研究室の場所	広島キャンパス		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	<p>対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習1時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。</p>		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科 1年		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力, 数値分析, データベース, 情報運用, 著作権, 個人情報, ウイルス・サイバー攻撃対策		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。 具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力 ・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力</p>		
授業の内容	<p>情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。 コンピュータを利用した数値分析の基礎について学習する。 データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法について学習する。 インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等について学習する。</p>		
成績評価の方法	<p>4回以上の欠席は評価の対象外とする。 情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。</p>		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。 http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</p>		

授業科目名	情報リテラシー演習		
担当教員氏名(助手氏名)	中村 悟		
研究室の場所	三原キャンパス 2507研究室		
オフィスアワー	随時 (メールまたは電話) 木曜日 12:30 - 13:00 (庄原キャンパス)		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習1時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【27年度入学生】環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力, 数値分析, データベース, 情報運用, 著作権, 個人情報, ウイルス・サイバー攻撃対策		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。 具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力 ・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力		
授業の内容	情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。 コンピュータを利用した数値分析の基礎について学習する。 データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法について学習する。 インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等について学習する。		
成績評価の方法	3回以上の欠席は評価の対象外とする。 情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。 http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/		

授業科目名	情報科学入門		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(レポート課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出、期末試験の受験が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【26年度以前入学生】生命科学科、環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	情報化社会と文化、社会生活におけるコンピュータ利用、情報倫理、 情報セキュリティ、コンピュータアーキテクチャ、表計算、データベース		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の情報科目に区分され、「情報リテラシーの向上」を目標としている。 具体的には、情報化社会におけるコンピュータシステム利用の実際に関する基礎的な知識および情報倫理と情報セキュリティに関する基礎的な知識を習得するとともに、コンピュータアーキテクチャに関する基礎的事項を理解する。さらに、社会生活におけるコンピュータ活用を目指し、表計算およびデータベース利用のための実践的なスキルを身に付ける。本科目の目指す到達レベルは、各項目の理解、表計算ソフトウェア利用、データベースソフトウェア利用において何れも中級者レベルにおく。		
授業の内容	情報や情報技術が社会生活で果たす役割や、社会生活に及ぼす影響を理解するため、まず、社会の情報化と情報に関連する法律、コンピュータと仕事の関わり、情報と基幹業務システムの関わり、エンドユーザコンピューティングの概要について講義する。次に、情報倫理と情報セキュリティの構築、コンピュータシステム導入と運用管理について講義・実習により学ぶ。また、コンピュータのハードウェアと周辺機器の理解、表計算とデータベースについて実習を多用して教授する。		
成績評価の方法	5回以上の欠席は評価の対象外とする。 出席状況および期末試験70%、課題レポート(宿題)30%の割合で評価する。 期末試験は、指定された試験の日時に、指定された教室(試験室)内で、ノート・教科書類持ち込み不可で実施する。主に練習問題の中から問題を作成し試問する。 レポート(宿題)の課題は学習単元毎の授業の最後に提示する。 各課題の提出期限は、通常、次回授業時間の開始時とする。 課題の提出方法等については、授業時間内に指示する。		
テキスト	FOM出版「よくわかるマスター ITパスポート試験対策テキスト 平成26-27年度版」富士通エフ・オー・エム(株) noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の際に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。 http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/ ”アルゴリズム”、”ハードウェアとソフトウェア”、”データベース”、”情報機器の発達の歴史”を中心に視聴しておくことと良い。		

授業科目名	ITパスポート検定		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って『ITパスポート試験』の学習カリキュラムに準拠したテキストを用いて講義を実施する。 また、自習についてはeラーニング教材を使用する。 学生は、授業への出席、期末試験の受験が義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (0時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度入学生】生命科学科，環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	国家試験，ITパスポート試験，ストラテジ系基礎知識，マネジメント系基礎知識，テクノロジー系基礎知識		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。ITに関する知識にとどまらず、企業活動、経営戦略、会計や法務など、ITを活用する上で前提となる幅広い知識をバランス良く習得することを目的として、国家試験である『ITパスポート試験』の学習内容を身に付ける。		
授業の内容	本講義では、『ITパスポート試験』の合格に必要なストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系基礎知識について学習する。これらの学習を通して、以下にあげることが身に付く。 ・企業活動と法務の基本について理解し、経営科学の各手法についての基礎知識を備え、企業や組織の経営に資する情報システムの戦略立案に活かすことができる。 ・情報システムの開発技術およびソフトウェア開発管理手法の基礎について理解し、プロジェクトマネジメントおよびサービスマネジメントの基礎知識を備え、情報システムの開発および運用に活かすことができる。 ・情報科学を支える基礎理論について理解し、コンピュータシステムの構成要素の仕組みについての基礎知識を備えている。さらに、データベース、ネットワーク、セキュリティに活用されている技術の要諦を踏まえ、適切なコンピュータシステムの運用ができる。		
成績評価の方法	集中講義を受講し、期末試験に合格した者については、得点に応じ、評定値C以上A未満の評定値を与える。履修期間中、LMS上のeラーニング教材で学習し、集中講義が始まる前までに『ITパスポート試験』に合格した者については、その得点に応じ、評定値を上方修正する。また、LMS上のeラーニング教材への取組状況が良好な者に対しても評定値を上方修正する。		
テキスト	FOM出版「よくわかるマスター ITパスポート試験対策テキスト 平成26-27年度版」富士通エフ・オー・エム(株)		
参考文献	LMS上のeラーニング教材については、講義の際に指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	LMS上のeラーニング教材を用いて予習と復習をしっかりと行うこと。 ITパスポート試験の受験案内も行うので、積極的に受験し取得して欲しい。		

授業科目名	体育実技 I		
担当教員氏名(助手氏名)	楠堀 誠司		
研究室の場所	庄原キャンパス 2405研究室		
オフィスアワー	火曜日4限以降		
授業の形式・方式	対面(実技)：学内の運動施設を使って、体を動かしながら学習を進めます。ただし、「単にスポーツを行って終わり」という授業ではなく、スポーツを通じて自分自身や他者について考える学習の時間であり、記録を取るなどの時間があります。スポーツ活動の結果を振り返りながら学びへとつなげる時間とします。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【27年度入学生】生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	目標設定(goal setting), trail & error, チャレンジ, チーム・ビルディング, 自己と他者の理解, 体験・勝敗に学ぶ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>実際に体を動かし、スポーツを体験するという過程・勝敗そのものに学びながら学習を進め、新たに始まる大学生活をより良いものにするためのヒントを探し、どうすればより良い自分に近づけるのか、これらのことを目指していきます。具体的に以下のことをねらいとします。</p> <p>I. 練習やゲームにおけるtrial&errorを通じて、目標設定の意義を理解でき、修正することができる。</p> <p>II. ゲームを行いながら、チャレンジすることができる。</p> <p>III. より良い「学びの場」作りについて貢献できる。</p> <p>IV. (特に集団競技では、) 団体戦を通じてチームビルディングを行いながら、チーム内の資源の有効利用について考え、実践できる。</p> <p>「まずはやってみよう！」というスタンスを大切にしたいと考えています。</p>		
授業の内容	<p>1～2週：オリエンテーションと体ほぐし(簡単な遊びの実施), 3～5週：基礎的技術の習得およびミニゲーム, 6～13週：応用技術の習得とゲーム, 14～15. ゲームの実施。</p> <p>いずれの授業においても、できるだけゲームを行います。ゲームを行い、結果を導き、その結果をどのように考え、修正し、次のステージに自分が進むことができるのか、この実践サイクルを繰り返していきます。その過程で自分を振り返り、自分に必要なこと、何をすべきかを考え、実践していきます。</p> <p>実践スポーツとしては、バドミントン, バレーボール, バスケットボール, ソフトボール, などを用意しています。</p>		
成績評価の方法	<p>出席 40点, レポート 20点, 技能 20点, 参加度 20点。</p> <p>全出席したとしても単位が保証されるわけではないことに注意して下さい。</p> <p>また、レポートを提出しないと評価対象としません。</p> <p>欠席および遅刻は、一回につきそれぞれ-4点, -2点とします。</p> <p>見学についてはその都度相談して下さい。</p>		
テキスト			
参考文献	中村俊介：『夢をかなえるサッカーノート』, 文藝春秋社, 東京, 2009 <+4163717404+>		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>身体運動の実施にあたっては、スポーツウェア, シューズ(屋内用, 野外用)など適切な服装で臨むこと。ラケットやボール, グローブなど必要な器材はすべて大学にて用意する。愛用の道具があれば、それを使うことは好ましい。また、学生カード用の写真が必要になる。疾病, 傷害などで通常の身体運動が困難な場合は診断書を提出して申し出ること。貴重品の管理は各自で厳重に行うこと。</p> <p>資料を配付するので、クリアファイルなどを用意し、保管できるようにしておくこと。配付資料によって事前学習を指示することがある。</p>		

授業科目名	保健体育理論		
担当教員氏名(助手氏名)	楠堀 誠司		
研究室の場所	庄原キャンパス 2405研究室		
オフィスアワー	火曜日4限以降		
授業の形式・方式	演習形式講義(座学)と運動実践の繰り返しです。実際に体を動かし、運動する時間があります。座学での学習を前提にして、運動実践の時間を持ちます。また、課題についての発表時間もあります。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択、ただし【26年度以前入学者】必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(理科)必修		
キーワード	健康の必要性, 生活習慣病, 運動と健康, 運動負荷, エクササイズ, 実践, 身と心		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	近年, 生活習慣の変化に伴う疾病が国内で蔓延し, それは若年齢者を含めた若者世代へも拡大しています。このような問題に対し, どのように運動を実施し, 生活を改善しながらより豊かな日常を送ることができるかが問われています。本講義では, 運動と健康の関係について解説し, それらのことを踏まえながら実際に体を動かし, 体験し, 理論を実践につなげ, 日常の運動習慣の涵養にしたいと考えています。単に運動に関する理論を座学で学ぶだけでなく, 実際に体験し, 自分にとって必要な運動時間, 運動強度を確認し, 認識していくことを目指します。基礎的なトレーニングとともに, ジョギングやウォーキングなどを実際に行ってみます。また自分自身について考える時間も設定します。		
授業の内容	座学では, 「健康の必要性」, 「生活習慣をふりかえる」, 「運動と健康の関係」, 「運動処方」, 「自分をふりかえる」などを, 運動実践では, 「基礎的なトレーニングとトレーニング機器の使い方」, 「ウォーキングとジョギング」, 「スポーツ実施」などです。基本的には, 座学を踏まえて運動実践を行い, 自らに必要な運動を体験的につかんでいくことを目的としています。座学-運動実践-座学-運動実践の繰り返しです。30分間のジョギング体験も行います。また, 課題について取り組みをグループ毎に行い, 発表し, 相互に評価する時間も持ちます。おおむね, 座学2週, 運動実践2週の繰り返しです。		
成績評価の方法	出席40%, 参加度30%, レポート20%, 発表10%。レポートを提出しない者は評価しません。見学等については相談してください。		
テキスト	出村慎一監修, 島田茂, 池本幸雄編著: 『健康・スポーツ科学の基礎』, 杏林書院, 東京, 2009 <+9784764411050+>		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	身体運動の実施にあたっては, スポーツウェア, シューズ(屋内用, 屋外用)など適切な服装で臨むこと。座学ばかりでないことを忘れずに。 資料を配付するので, クリアファイルなどを用意し, 保管できるようにしておくこと。 ・配付資料によって事前学習を指示することがある。		

授業科目名	キャリアデベロップメント		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 淳		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。講義形式による解説を行い、必要に応じて適宜、演習を実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 能力開発, 目標設定, 情報収集, コミュニケーションスキル, 対人関係スキル, 課題発見力, 問題解決力, 感情コントロール, ストレスコントロール		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、全学共通教育科目の「キャリア科目」の中で、最初に学ぶ科目として位置づけられている。大学生生活を充実させ、社会で活躍するためには、自立的・主体的に考え行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。それには、目標設定、情報収集、効果的なコミュニケーション、対人関係スキル、課題発見力、問題解決力、感情のコントロール、ストレスへの対処、意思決定などの能力が含まれる。これらの能力は、在学中だけでなく、社会に出てからも継続的に高めていくことが重要である。本講義の目的は、受講者がこれらの能力の重要性について認識し、必要なスキルや有用な手法について理解し、能力を高める方法を知ることである。受講者が理解を深めるための演習を適宜実施し、その過程で受講者自身が自己についての理解を深めることが可能である。</p>		
授業の内容	<p>1) 社会で活躍するために必要な能力, 2) セルファイメージと目標設定, 3) 情報収集と要約のスキル, 4) コミュニケーションと対人関係のスキル, 5) 論理的に説明するスキル, 6) 問題解決・発想法, 7) 感情とストレスのコントロール</p>		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する		
テキスト	講義資料は毎回配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 淳		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター (原田)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面形式。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発、基礎的・汎用的能力、論理的思考、プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	前半は、社会で必要とされる能力や資質を理解するための講義を行い、後半は、「グローバルビジネスと商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションも実施する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名(助手氏名)	学部教員		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つけようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。		

授業科目名	哲学		
担当教員氏名(助手氏名)	大草 輝政		
研究室の場所	庄原キャンパス 2408研究室		
オフィスアワー	①授業前後, 教室で ②木曜13:00-14:00		
授業の形式・方式	対面授業。毎回小レポートを課す。適宜ディスカッションをおこなう。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	科学, 心, 身体, 他者, 自由, 正しさ, 功利主義, 定言命法, 知識		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>[到達目標]</p> <p>(1) 哲学の基本問題を理解する。 (2) ひとつの問題に対して複数の視点を持ち, 分析的・論理的に考えを展開できる。 (3) 問題の解決方法はどのようなものでありうるかについて, 自分なりの考えを文章にすることができる。</p> <p>[位置づけ]</p> <p>全学共通教養科目の基幹科目の一つである。</p>		
授業の内容	<p>テキストを読み, 議論の構成の把握に努めながら, 哲学的な考え方を学ぶ。</p> <p>第1-5回: philosophia, 科学, 因果 第6-8回: 心, 身体, 他者 第9-11回: 自由, 正しさ, 功利主義, 定言命法 第12-15回: 知識</p>		
成績評価の方法	学んだ知識や技術の習得度の評価は, 毎回の小レポート(45%)と期末テスト(55%)による。		
テキスト	ブレンダン・ウィルソン『自分で考えてみる哲学』, 東京大学出版会(¥2400+税)		
参考文献	Simply Philosophy		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	各回, 3-4時間の授業外自主学修を確保するつもりで授業に臨むこと。授業では受講者の積極的な参加(発言, 質問等)を期待しています。		

授業科目名	倫理学		
担当教員氏名(助手氏名)	大草 輝政		
研究室の場所	庄原キャンパス 2408研究室		
オフィスアワー	①授業前後, 教室で ②木曜10:40-11:40		
授業の形式・方式	対面授業。毎回小レポートを課す。適宜ディスカッションをおこなう。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	文化相対主義, 徳, 快樂, 幸福, 善悪, 正不正, 帰結主義, 義務論, 生殖補助医療, エンハンスメント, 動物の権利, 安楽死, 脳死, 死生学, 自然, 科学技術, 環境		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>[到達目標]</p> <p>(1) 倫理学の基本問題を理解する。 (2) ひとつの問題に対して複数の視点を持ち, 分析的・論理的に考えを展開できる。 (3) 問題の解決方法はどのようなものでありうるかについて, 自分なりの考えを文章にすることができる。</p> <p>[位置づけ]</p> <p>全学共通教養科目の基幹科目の一つである。</p>		
授業の内容	<p>テキストを読み, 議論の構成の把握に努めながら, 倫理的問題について考える。</p> <p>第1-3回: イントロダクション (倫理学のいくつかの基本問題を紹介する) 第4-15回: 読解とディスカッション</p>		
成績評価の方法	学んだ知識や技術の習得度の評価は, 毎回の課題 (小レポートや口頭発表) (45%) と期末レポート (55%) による。		
テキスト	ピーター・シンガー『実践の倫理 [新版]』, 昭和堂 (¥2,850+税)		
参考文献	『現代倫理学入門』		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	各回の授業に対し, 3-4時間の授業外自主学修が最低限求められる。授業では受講者の積極的な参加 (発言, 質問等) を期待しています。		

授業科目名	心理学		
担当教員氏名(助手氏名)	坪田 雄二		
研究室の場所	庄原キャンパス 2407研究室		
オフィスアワー	木曜日 4コマ		
授業の形式・方式	対面授業 授業日程に従い、講義形式で実施		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	知覚, 認知, 学習, 思考, 人間関係		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	心理学を初めて学習する者に対して、これまで心理学の領域で明らかにされてきた人間の心や行動の仕組みに関して、解説する概論である。共通教育科目の基幹科目の位置づけである。 取り上げた心理学の領域における知見を理解できること、そしてその知見を使って人間の行動を説明できるようになることが目標である。		
授業の内容	ものを見たり、考えたり、人と話をしたりといった日常生活における様々な経験が、人間の精神機能とどのようにかかわっているのかを明らかにする。それらをもとに、人間の精神機能の特質について心理学的観点から考察し、人間の心理・行動を心理学的に理解するために必要な知識を紹介する。また、講義の中では、多様に分化した心理学の領域の中から、歴史、知覚、認知、学習、記憶、思考、人間関係、社会的影響などのトピックを取り上げる予定である。		
成績評価の方法	授業回数の3分の2以上出席した学生に対し、期末試験を実施する。その結果に基づき評価をおこなう。		
テキスト	教科書は使用しない。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	歴史学		
担当教員氏名(助手氏名)	遠藤 伸治		
研究室の場所	庄原キャンパス 2406研究室		
オフィスアワー	毎週金曜日14時から16時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に講義形式で実施する。原則として隔週レポート課題を課し、提出させる。学生は、授業に出席し、レポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	近代、翻訳、国民国家、国語、帝国主義、戦争、メディア、都市化、大衆化、マルクス主義、民族主義、民主主義		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、生命科学科、環境科学科の2年次生を対象にして、近代以降「国語」が作られていく歴史的過程、「国語」と外国語との関係、「国語」と他のさまざまな文化現象との影響関係などについて基本的内容を講義する。 本科目の目標は、まず、履修生が「国語」を歴史的なものとして理解すること、そして、「国語」を他のさまざまな歴史的事象との関係の中で捉えなおすことである。		
授業の内容	常識化している日本の「単一性」を問い直し、多様性に注目することが見直されている。近代以降の「国語」形成史を通して統一への流れを確かめるとともに、日本列島の東と西に生きている人々の社会・生活・文化の違いに注目し、その違いが歴史の中にどのような作用を及ぼしてきたのかを明らかにすることによって、常識化した日本像の再検討をしていく。これは必然的に地域(近隣諸外国)との関係について問い直すことになり、相互理解を促進することになる。		
成績評価の方法	期末試験60%、課題レポート40%の割合で評価する。期末試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポートの課題は授業中に提示する。課題レポートの用紙(A4・罫線有り)は授業時に配布する。		
テキスト	プリントを使用する。参考文献については授業時に指定する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	文学		
担当教員氏名(助手氏名)	遠藤 伸治		
研究室の場所	庄原キャンパス 2406研究室		
オフィスアワー	毎週金曜日14時から16時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に講義形式で実施する。原則として隔週レポート課題を課し、提出させる。学生は、授業に出席し、レポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	現代、社会、時代、仕事、家族、ジェンダー、グローバル化、作者、読者、生き方		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、文学と人の生き方との関わり、日本文学と外国文学との関係、文学と他のさまざまな文化現象との影響関係などについて基本的内容を講義する。 本科目の目標は、まず、履修学生が文学作品を鑑賞することを楽しむこと、そして、文学に関する基本的な概念、基礎的内容を理解することである。これによって文化研究の専門的内容を理解するための素地を身に付けることができる。		
授業の内容	現代日本の社会状況に深く根ざし、時代の推移と社会の変貌につれ、その時々課題に取り組んできた、時代を捉える指標になると思われる作品をテキストとし、現在の我々を考える上で必須の、家族、性、グローバル化などの問題がどのように表わされているかを読み取っていく。そして、それらの表象がその時々読者にどのように理解されてきたのかを考察する。それを通じて、自らがどのような時代的変化を内包した現在の状況の中で生きているのかを理解し、その中で生き方を確立していくための問題提起と手がかりとする。		
成績評価の方法	期末試験60%、課題レポート40%の割合で評価する。期末試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポートの課題は授業中に提示する。課題レポートの用紙(A4・罫線有り)は授業時に配布する。		
テキスト	プリントを使用する。参考文献については授業時に指定する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	日本語表現		
担当教員氏名(助手氏名)	遠藤 伸治		
研究室の場所	庄原キャンパス 2406研究室		
オフィスアワー	毎週金曜日14時から16時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って実施する。原則として毎週レポート課題を課し、提出させる。学生は、授業に出席し、レポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	段落、接続語、指示語、例示、論点設定、構成、反論、論理展開		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、特に論理的表現について基本的内容を講義し、練習する。本科目の目標は、履修学生の基礎的な論理的表現力を高めることである。具体的には、接続語、指示語を使いこなす能力、適切な例示を行う能力、効果的に反論する能力、与えられた条件の中での的確な論理構成と論理展開を行う能力、有効な質問を発する能力などを養成する。これによって論理的表現を行うための素地を身に付けることができる。		
授業の内容	表現するという行為を、ことばで思考し認識するという内的にして知的な行為と捉え、それを口頭や文章で具現化する力を「日本語表現力」と規定し、表現力養成プログラムを明確にする。それによって学習することにより、事実を厳密に把握し、考察を論理的に組み立て、相手に分かるように筋道をたてて表現できるようになる。		
成績評価の方法	期末試験60%、課題レポート40%の割合で評価する。期末試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポートの課題は授業中に提示する。課題レポートの用紙(A4・罫線有り)は授業時に配布する。		
テキスト	プリントを使用する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	芸術		
担当教員氏名(助手氏名)	佐々木 悠 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書と映像資料などを用いた講義形式で実施する。1回の講義につき、1章の講義を想定し、授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【25年度以前入学者】生命科学科, 環境科学科 3年次対象 【26年度入学者】生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	音楽、芸術、美学、音楽学、音楽社会学、音楽文化学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本授業科目では、音楽(ポップスを含む)についてこれまで専門的にほとんど学習していない学生を対象にして、音楽を聴く際に必要な基礎知識(歴史など)の内容を講義する。本科目の目標は、履修学生に音楽史の基礎知識を理解させ、音楽への興味関心を抱かせることにある。さらに、単に歴史を知るだけでなく、音楽社会学の観点から様々な作品を考察することによって、「音楽はなぜ必要なのか」「音楽は時代の何を映し出しているのか」という問題の一端を考えさせたい。そして、現代社会が抱える文化の貧困という課題に対して、能動的に考える力を付けさせたい。		
授業の内容	現代の私たちが普段耳にしている様々なジャンルの音楽(クラシックやポップスなど)は、2000年以上前にまでその起源を遡ることができる。本科目では、その長い歴史を社会的観点から考察し、音楽の必然性、音楽の社会性について講義する。具体的には、クラシックとポップスの作品 — 交響曲、歌曲、オペラ、ピアノ曲、ジャズ、ゴスペル、洋楽、J-Pop、ミュージカル — を時代ごとに「聴き・観る」ことを通して、各々の歴史的背景を考察する。		
成績評価の方法	期末試験レポート(授業最終日の日に提出、課題は第1回目授業時に提示する。パソコン入力によるものとし、印刷したものも提出。1800字以上2000字以上) 50%、毎回の予習課題 40%、授業への参加度 10%		
テキスト	なし		
参考文献	岡田暁生 2005 『西洋音楽史』中公新書 岡田暁生 2009 『音楽の聴き方』中公新書 川井學監修 2012 『音楽の謎』小学館(名探偵コナン推理ファイル)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、シラバスを精読し、1回目の授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。宿題、試験などにおいて、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	法学		
担当教員氏名(助手氏名)	岡田 高嘉		
研究室の場所	広島キャンパス		
オフィスアワー	金曜日12時10分～13時00分, 14時30分～15時30分 庄原キャンパス2号館3階 非常勤講師控室		
授業の形式・方式	対面授業。授業は、教科書・レジュメ・資料を用いて、講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	法と裁判, 民法(財産法, 家族法), 刑法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【目標】 知識・理解の観点 法とは何か, 市民生活にかかわる法の概要について説明できる。 思考・判断の観点 現代の社会問題を法と関連づけて考察することができる。 関心・意欲の観点 テレビや新聞等で見聞きする社会問題に関心を持つことができる。 技能・表現の観点 直観に頼らず, 法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。 態度の観点 専門分野にとらわれず, 幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 法律系科目の基礎科目</p>		
授業の内容	<p>まず, 法とは何か, 法の役割や用い方を明らかにする。これらは法を学ぶ上での基本的な知識である。次いで民法や刑法など, 市民生活と密接に結びついた法の概要について解説する。具体的には, ①契約や財産に関するルール, ②家族制度, ③犯罪と刑罰に関するルールなどを取り上げる。</p> <p>これらを通じて, 市民生活と法の密接な結びつきを理解し, 社会生活に付随する現代的問題を法的な思考に基づいて解決しうる能力を養うことを目指す。</p>		
成績評価の方法	<p>成績評価は, 定期試験の結果を第一次的な評価対象とし, それに授業態度, 小テスト等の成果を考慮して総合的に判断する。大まかな内訳は以下のとおり。</p> <p>(1) 定期試験 (60%) (2) 授業態度 (10%) (3) 小テスト (30%)</p> <p>定期試験は論述形式であり, おおむね法学の基本的な知識を確認する問題と, それを基礎とした論理的な法的思考力を評価するための問題で構成される。</p>		
テキスト	法学六法'15 (信山社, 2014)		
参考文献	杉光一成『理系のための法学入門』(法学書院, 1995年) 真田芳憲『法学入門』(中央大学出版部, 1996年)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	新聞やニュース・報道番組を意欲的に見聞きし, 国内外で何が話題になっているのかを把握しておくことが望ましい。 本科目の履修にあたり, 「日本国憲法」を履修済みであることが望ましい。		

授業科目名	日本国憲法		
担当教員氏名(助手氏名)	岡田 高嘉		
研究室の場所	広島キャンパス		
オフィスアワー	金曜日12時10分～13時30分 庄原キャンパス2号館3階 非常勤講師控室		
授業の形式・方式	対面授業。授業は、教科書・レジュメ・資料を用いて、講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科) 必修		
キーワード	立憲主義, 基本的人権, 三権分立, 国民主権, 精神的自由, 経済的自由, 法の下での平等		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【目標】 知識・理解の観点 憲法の存在意義, 憲法が保障する基本的人権の内容について説明できる。 思考・判断の観点 現代の社会問題を憲法と関連づけて考察することができる。 関心・意欲の観点 テレビや新聞等で見聞きする社会問題に関心を持つことができる。 技能・表現の観点 直観に頼らず, 法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。 態度の観点 専門分野にとらわれず, 幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 法律系科目の基礎科目</p>		
授業の内容	<p>ニュースや新聞等では, しばしば憲法にかかわる社会問題が取り上げられる。この授業では, 憲法の核である人権保障および統治の原理の概要を習得し, 現代社会が直面している憲法問題を考察する法的思考能力の一端を養うことを目指す。</p> <p>授業のおおまかな内容は, 憲法を支える立憲主義の思想の歴史的展開を概観し, 次いで日本国憲法が規定する基本的人権の具体的内容について解説する。</p>		
成績評価の方法	<p>成績評価は, 定期試験の結果を第一次的な評価対象とし, それに授業態度, 小テスト, レポート等の成果を考慮して総合的に判断する。大まかな内訳は以下のとおり。</p> <p>(1) 定期試験 (60%) (2) 授業態度 (10%) (3) 小テスト, レポート等 (30%)</p> <p>定期試験は論述形式であり, おおむね日本国憲法の基本的な知識を確認する問題と, それを基礎とした論理的な法的思考力を評価するための問題で構成される。</p>		
テキスト	西村裕三編『リーガル・マインド入門』(有信堂, 2013年)		
参考文献	(1) 渋谷秀樹『憲法への招待』(岩波書店, 2001年) (2) 長谷部恭男『みんなの憲法入門』(講談社, 2008年)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	新聞やニュース・報道番組を意欲的に見聞きし, 国内外で何が話題になっているのかを把握しておくことが望ましい。		

授業科目名	経済学		
担当教員氏名(助手氏名)	式部 信		
研究室の場所	広島キャンパス		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業・講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	社会科学・実在性・経済構造・資本主義		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目は全学共通教育科目として経済や社会の仕組みに関する教養的知識を得るための科目である。		
授業の内容	この科目では現代の経済がどのような仕組みで動いているかを知るために必要な基礎的知識を学ぶ。最初に、経済全体の仕組みをつかまえるための基本的な概念を理解する。その上で、経済の動きを把握するためにつくられた簡単なモデルによって現代経済の基本的な特徴と構造を理解する。それとともに、経済や社会を学問として学ぶためにどのような点に注意しなければならないかを考え、経済や社会について高校時代よりも一段深い知識をめざす。		
成績評価の方法	期間中に課す宿題と期末の試験期間中に実施する最終試験の得点結果に基づいて評価する。最終試験では論述形式の問題を出題する。		
テキスト	ロイ・バスター『自然主義の可能性』晃洋書房。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講者には各回の授業内容を要約したレジュメを用意するので、授業に持参すること。宿題には上記の文献(これは必読の文献である)を読んで5000字程度の論文を書く課題が含まれるので、留意すること。論文のテーマと提出期限は授業の際に伝える。		

授業科目名	社会学		
担当教員氏名(助手氏名)	山本 努		
研究室の場所	広島キャンパス		
オフィスアワー	メール予約にて随時		
授業の形式・方式	遠隔（発信キャンパスは、広島キャンパス）講義の予定。テキストを用いて講義を行うので、学生は必ず、テキスト持参にて出席する事。講義では参考文献を出来るだけ数多くあげるが、その内のいくつかは是非、自費にて購入して（やむをえない場合は、図書館の本を利用するのもいいが）、熟読して欲しい。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	社会構造、現代社会、社会、文化、日本社会		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	社会科学系の共通教育科目の一つとして、社会（科）学の学的認識の面白さを感じ取って欲しい（又、それを旨とした講義となる）。あわせて、本講義は、社会学の入門講義も兼ねているので、今後、2年次以降に開講の現代社会学や地域社会学や社会調査論を履修する希望のある学生は、是非、受講をしておいて欲しい。		
授業の内容	社会学の初歩を講義することで、社会への関心を培う。具体的には、1、「社会学の基本になるものの見方（概念や理論）」を講義する。例えば、行為、規範、文化、制度、地位・役割、社会関係、社会集団、社会構造、社会変動などの社会学の基礎を紹介し、「社会」についての理解を深める。2、又、「社会学による現状分析」の成果を講義する。例えば、家族や地域や組織や階層・階級や逸脱行動などの社会学の個別問題領域の研究を紹介し、「現代社会」についての理解を深める。		
成績評価の方法	授業への出席状況を加味して、レポート等の課題提出（ないし試験）の結果で評価する。授業への出席が不振な学生には単位を認定しない。		
テキスト	山本努・辻正二・稲月正『現代の社会的解読』学文社 *入手して授業に参加するように。 ること。		
参考文献	A, ギデンズ『社会学』而立書房		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	私語その他にて、講義に迷惑をかける学生には、退室を命じて、以後の出席を禁じる事があるので、注意して欲しい。授業に加えて自学自習を求める。		

授業科目名	人権論		
担当教員氏名(助手氏名)	岡田 高嘉		
研究室の場所	広島キャンパス		
オフィスアワー	金曜日12時10分～13時00分, 14時30分～15時30分 庄原キャンパス2号館3階 非常勤講師控室		
授業の形式・方式	対面授業。授業は、レジュメ・資料を用いて、講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科)		
キーワード	基本的人権, 自己決定権, 人種差別, 死刑制度, 社会的弱者		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【目標】 知識・理解の観点 人権とは何か, 多様な人権問題の概要, 発生原因について説明できる。 思考・判断の観点 現代の人権問題を多角的に考察することができる。 関心・意欲の観点 テレビや新聞等で見聞きする人権問題に関心を持つことができる。 技能・表現の観点 直観に頼らず, 論理的な思考を用いて説得力ある論述ができる。 態度の観点 専門分野にとらわれず, 幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 法律系科目の基礎科目</p>		
授業の内容	<p>人権思想の歴史, その発展過程を踏まえ, 今日, 我々に保障される自由・人権の内容を概観する。その上で, 日本の社会における人権問題を考察する。また, 人権の尊重は, 全人類にとって最重要課題の1つであるから, 外国で起こっている人権問題にも目を向ける必要がある。したがって, 外国の人権問題についても, 日本との関係を意識しつつ, 適宜, 取り扱っていく予定である。また, 人権問題に関わる映画を教材とする場合もある。</p> <p>主要な個別論点としては, ①人権思想の展開, ②自己決定権, ③差別問題, ④社会的弱者の人権, ⑤死刑制度などである。授業においては, 裁判例その他の参考資料を利用しつつ, グループワークを取り入れながら, 具体的な問題に即して深く考えることができるよう心がける。</p>		
成績評価の方法	<p>成績評価は, 定期試験の結果を第一次的な評価対象とし, それにレポートの成果等を考慮して総合的に判断する。大まかな内訳は以下のとおり。</p> <p>(1) 定期試験 (50%) (2) レポート (50%)</p> <p>定期試験は論述形式であり, おおむね人権に関する基本的な知識を確認する問題と, それを基礎とした論理的な思考力を評価するための問題で構成される。</p>		
テキスト	テキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	人見康子『女性と人権』(慶応義塾大学出版会, 1999年) 船橋邦子『ジェンダーと人権一問一答』(解放出版社, 2006年)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	新聞やニュース・報道番組を意欲的に見聞きし, 国内外で何が話題になっているのかを把握しておくことが望ましい。 本科目の履修にあたり, 「日本国憲法」を履修済みであることが望ましい。		

授業科目名	文化人類学		
担当教員氏名(助手氏名)	上水流 久彦		
研究室の場所	庄原キャンパス 3305地域連携センター		
オフィスアワー	随時 事前に連絡がある方が好ましい。		
授業の形式・方式	遠隔授業 (発信：三原C) 講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	フィールドワーク, 文化相対主義		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	私たちの身近な事柄について、人類学の方法論と人類学的思考を提示します。世界各地の多様な文化との出会いを通じて、私たちが「当たり前」と思っている考えや習慣の特殊性を理解するとともに、結婚や宗教などの意義への理解を深めます。		
授業の内容	「日本に生まれてよかった」と感じる時、そこに文化の優劣はないでしょうか。文化人類学では、文化に優劣はないという考えを基本としていますが、それは理想として語る「あるべき姿」なのでしょうか。それとも裏付けがあつてのことでしょうか。どうして文化に優劣はないと言えるのか、この問いを考えるために、第三の性の存在、一妻多夫等の多様な婚姻方法、迷信と思われがちな呪術などを事例として、文化を論じます。		
成績評価の方法	原則、期末試験で評価します。出席回数は加点の対象とします。		
テキスト	指定しません。参考図書は適宜授業で紹介します。		
参考文献	授業で紹介します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	私語には厳しく対処します。		

授業科目名	地球科学		
担当教員氏名(助手氏名)	山崎 博史 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	遠隔授業 (庄原キャンパス発信) 授業日程に従って、主に講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目	中一種免 (理科) , 高一種免 (理科) 必修		
キーワード	固体地球, 物質循環, 地球と生物の共進化, 長時間スケール, 自然観		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>自然環境を考える時, ローカルからグローバルまで様々な空間スケールがあるように, 時間スケールにおいても通常の時間スケールとは異なる長い時間スケールで捉えることも重要であろう。</p> <p>本授業科目では, 現在の自然環境の成り立ちを地球史という長時間スケールの中に位置づけ, 自然と人間の関係について考えるきっかけを与える授業としたい。</p> <p>なお, 高等学校で地学を履修していない学生にも充分理解が深まるよう配慮する。</p>		
授業の内容	<p>次の項目を取り上げ, 講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎時間 ◎地球の構造 ◎地層 ◎風化・侵食・運搬 ◎プレートテクトニクスとプルームテクトニクス ◎火山と噴火 ◎地震と断層 ◎日本列島の成立 		
成績評価の方法	<p>期末試験80%, 小課題20%の割合で評価する。</p> <p>期末試験は指定された試験日の授業時間 (90分) 内で実施する。</p>		
テキスト	数研出版編集部編『もういちど読む数研の高校地学』 (数研出版)		
参考文献	<p>西村祐二郎編著『基礎地球科学第2版』 (朝倉書店)</p> <p>酒井治孝著『地球学入門—惑星地球と大気・海洋のシステム—』 (東海大学出版会) 等</p> <p>なお, これらの購入を義務づけるものではない。</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>授業に関する連絡方法は, 正式には教学課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。課題, 試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則 (学則) に基づいて対応する。</p>		

授業科目名	科学史		
担当教員氏名(助手氏名)	榊井 秀雄 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。ときどき簡単なデモンストレーションや実験を交える。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【25年度以前入学者】生命科学科，環境科学科 3年次対象 【26年度入学者】生命科学科，環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	人類誕生，農耕開始，星座，暦，スメル文明，文字の使用，ギリシャの科学，エジプトの科学，イスラムの科学，中国の科学，紙の発明，ルネサンス，大航海時代，科学革命，産業革命，産業と科学，20世紀の科学，科学と政治，科学と倫理，21世紀の目指すもの。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	今日の科学の諸領域は過去に遡ると生きるための技術の開発を出発点とし，時代を経るに従い，人間の知的欲求の対象としての純粋科学に変わってきたことがわかる。その純粋科学が技術に取り入れられると，その技術の世界からまた新しい科学の発見が導かれ，それが技術の発達を促すという無限に続くスパイラルな発達をしていく。それに平行して社会の体制や生産方法，交通手段，市民の生活のしかた，環境などが変化していく。この講義から科学・技術と人間の生活が密接に関係していることを知って，今後の科学・技術はどうあるべきか，倫理をも含めて考える出発点としてほしい。		
授業の内容	この科目ではまず最初に400万年前の二足歩行を始めた猿人の登場から，3万年前の新人登場までの過程を概観する。次に農耕を開始した人類が農耕技術として星座，暦，測量法，記録法を考案した古代文明の叡智を紹介し，当時の人々の宇宙観，生命観を解説する。ついで，自然科学の基礎を築いたギリシャの科学について講じる。また，エジプトの科学，イスラムの科学，中国の科学に言及し，それらが科学に与えた影響について論じる。ルネサンスは科学の革命をもたらした近代科学が芽生える。そこでは，科学と技術が不可分の関係にあることを紹介し，両者が互いに刺激しあってその後の急激な科学・技術の発展をもたらした事実を捉え，その視点から近代から現代にかけての多くの発見が何故可能になったのかを解説する。最後に，近年の急激な科学・技術上の発展が私たちの生活をどのように変えてきたかを歴史的な事柄から学ぶとともに，科学の学習，研究そして利用のあり方，特に利用の倫理について様々な問題を提起し共に考える。		
成績評価の方法	毎回小試験を行う。期末にその得点を総合して成績を評価する。		
テキスト	テキストは用いない。		
参考文献	伊藤俊太郎・村上陽一郎共編『講座科学史』全4巻培風館1989，木村陽二郎『自然科学概論』裳華房1993 小山慶太『科学史年表』中央公論社2003，メイソン著矢島祐利訳『科学の歴史』上下2巻岩波書店1977 ヘンリー著東慎一郎訳『十七世紀科学革命』岩波書店2005		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	バイオと環境		
担当教員氏名(助手氏名)	入船 浩平, 五味 正志		
研究室の場所	庄原キャンパス 入船：5501研究室 五味：3403研究室		
オフィスアワー	随時(入船・五味)		
授業の形式・方式	【入船・五味 共通】対面授業(遠隔授業：庄原C発信)。授業日程に従って、講義形式で実施する。学生は授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。【五味】視覚機器を用いて講義中に配付するプリントに基づいて授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【26年度以前入学者】生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	【入船】微生物, 動物, 植物, ヒト, クローン, 遺伝子操作, 遺伝子診断, 再生医療, 組織培養, 細胞融合 【五味】生態系, 物質循環, 生物多様性, 内分泌攪乱化学物質(環境ホルモン), 温暖化, 温室効果ガス, オゾンホール		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	【入船】バイオテクノロジーは、日進月歩で急速に進展し、ともすれば社会の受け入れが追いつかないという状況にある。現代人は、バイオテクノロジーの恩恵を受け、かつ、一方でそのリスクと隣り合わせでもある。現代に生きる我々にとり避けては通れないほどその技術が浸透している。その一端を知り、現代社会を生きていくための一助となるよう講義する。【五味】近年、地球環境問題がクローズアップされており、その内容を十分に理解し、解決策を探ることが全人類に対して求められている。本講義では、地球環境問題の中の主要な課題を取り上げ、その原因、メカニズム、影響などについて基本的な内容を講義する。本講義の目的は、地球環境問題が地球上の全ての人間に関わる問題であり、現在および将来に重大な影響を及ぼす問題であることを理解させることにある。カリキュラム上では、全学生に必要とされる教養科目として、また理系学生の基礎科目として位置付けられる。		
授業の内容	【入船】バイオテクノロジーを広く定義し、ヒトの社会生活の営みとの関わりから始まって、近代・現代の先端的话题まで講義する。また、対象生物も微生物、植物、動物(ヒト)に至まで幅広く講義する。1. バイオの歴史 2. 微生物と環境 3. 微生物と食品 4. 植物と栽培・培養 5. 遺伝子組み換え作物 6. 受精卵操作とクローン動物 7. 再生医療近辺 【五味】環境科学について、生物と環境との関係から解説する。本講義では、まず生態系の持つ重要な機能であるエネルギーおよび物質の循環について理解させる。次に、さまざまな内分泌攪乱化学物質や温室効果ガスの増加に伴う温暖化などによって、どのような環境破壊が進行しているのか、またその環境破壊によって生物がどのような影響を受けているのかを概説する。環境破壊の原因と現状の理解を通して、地球環境保護の重要性を認識し、人間活動が環境に与える影響を軽減させるための対策とその実効性について理解を深める。		
成績評価の方法	前半担当教員【五味】については第8回講義に試験を実施し、試験90%と授業態度10%の割合で評価する。試験は指定された講義室(試験室)内において指定された講義時間(90分)内で、プリントやノート類の持ち込み不可で実施する。場合によってはレポートを課すこともある。レポートの記述量は、随時指示する。後半担当教員【入船】については期末試験期間中に試験を実施し、試験90%と出席10%の割合で評価する。試験は指定された講義室(試験室)内において指定された講義時間(90分)内で、プリントやノート類の持ち込み不可で実施する。場合によってはレポートを課すこともある。レポートの記述量は、随時指示する。		
テキスト	【入船・五味】 教科書は使用しない。		
参考文献	【入船】参考文献は、講義中適宜指示する。 【五味】参考文献 佐藤淳 著『環境ホルモンのしくみ』日本実業出版社 1999年、遺伝別冊 No. 17 『地球温暖化』裳華房 2003年		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修者は十分に予習・復習をして講義に臨むこと。授業に関する連絡方法は、教学課の掲示板に掲示するか、講義中に口頭や文書で指示する。講義中の私語は、他の受講者の迷惑となるので厳禁とする。講義の妨げとなる行為を注意され、その指示に従わない時は講義室から退室を命じる場合もある。レポート、試験等で本学規定の不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学規則(学則)に基づき対応する。		

授業科目名	食料とエコロジー		
担当教員氏名(助手氏名)	堀田 学, 前川 俊清 (非常勤講師)		
研究室の場所	庄原キャンパス 堀田: 1708研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業 (遠隔授業: 庄原C 発信) 講義形式 (オムニバス式)		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【26年度以前入学者】生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	生命, 食物連鎖, 食料生産, 食料流通, 商品, 市場		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人間の食料の大部分が動植物に起源することとその食料が商品として市場で取引されることについて, あらためて科学的・総合的に考える。		
授業の内容	オムニバス方式で, エコロジーから見た食料とエコノミーから見た食料を結びつけて講義する。生命の維持にとって食物連鎖がどのように有効であるのか, その中に一部の生命を増産するという変化を加えることがどういう意味を構成するのか, まして, その増産された生命がどのように商品化されるのか, そのようにして, 市場の価格形成にゆだねることが誰にも不可欠な食料に関してどこまで可能なのか, などについて論ずる。		
成績評価の方法	出席点とレポート点と試験の成績を総合評価する。		
テキスト	随時提示する。		
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	人間科学論		
担当教員氏名(助手氏名)	江島洋介, 猪木省三, 菅原芳明, 福場良之		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員が授業の中で提示する。		
授業の形式・方式	遠隔講義(広島C発信)。授業日程に従って, 各教員が授業を講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【26年度以前入学者】生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	生体分子, 遺伝, sanguine (快活な), phlegmatic (無気力な), melancholic (憂うつな), bilious (気むずかしい), 心の働き, 表と裏, 科学研究		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>目標: 人間の心と体及び健康と発達にかかわる科学研究の成果と方法についての知識を得るとともに氾濫する疑似科学に騙されない, 科学的・批判的態度を身につける。</p> <p>位置づけ: この科目は, 人間文化学部の学部共通科目である。国際文化学科と健康科学科という学科の専門分野を超えて共有すべき視点と知識を教授し, 諸課題に対して多角的に分析する態度が身に付けられるよう, 学部教員4人が, オムニバス形式で担当する。</p>		
授業の内容	<p>(菅原)「身体」- 自然や人体について, 人はどのように捉えて来たのか? 科学的側面と共に, 文化(学)的側面にも光を当てつつ, 「人」と「科学」, また「文化」について考える。</p> <p>(福場)「科学研究論」- 人間の健康に関する科学情報はどのようにして生み出されているのかを概説し, その判断の基礎となる考え方を具体的に説明する。</p> <p>(江島)「人体の化学」- 物質的, 化学的な視点から人体というものを考える。遺伝子と遺伝現象についても解説する。</p> <p>(猪木)「心の働き」- 人間の心の働きには, 日常生活を快適なものにするのに役立つ正の側面と, 逆にさまざまな問題を生む負の側面があることを理解させ, 人間理解の基礎となる視点を身につけさせる。</p>		
成績評価の方法	各担当教員が25点満点でレポートを採点し, 合計点で評価する。レポートの課題・分量・形式等は, 各担当教員が授業の中で提示する。レポートの締切は, 各担当教員の最終週の授業の2週間後の16時。提出先は教学課の提出箱。		
テキスト	共通のテキストは使用しない。各担当教員が適宜プリントを配布する。		
参考文献	各担当教員が授業の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	国際文化学科の学生は, 人間科学論, 共生社会論及び健康文化論から, 4単位以上履修すること。		

授業科目名	健康文化論		
担当教員氏名(助手氏名)	丸山浩明、高橋渡、谷本昌太、嶋本文雄		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	担当教員が指示する。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、1人の教員が3～4回の授業を講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科		
免許等指定科目			
キーワード	身体健康・社会的健康・精神健康、文化としての健康意識、リスク論・食の安全、生活習慣病、		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康をテーマに、諸課題に対して多角的に分析する態度が身に付けられるよう、人間文化学部教員がオムニバス形式で担当する。		
授業の内容	<p>(丸山)「健康のとらえ方」:健康の定義を確認し、身体健康のために注意すべきこと、社会生活の上での飲酒文化、そして精神健康のために考えるべきことについてとりあげる。</p> <p>(高橋)「病」や「死」は忌まわしきものとして排除しようとされるが、人間が必ず直面しなければならないものでもある。また、過度に忌避しようとすると、そこに差別が生じることもある。本講義では文学作品や思想書をもとに、「健康」に対する「死」と「病」の問題を考察する。</p> <p>(谷本)「食生活の安全と健康」:安全・安心かつ健康な食生活を実践するために必要な内容(食中毒のその防止、食品添加物・残留農薬とリスクコミュニケーション、遺伝子組み換え食品・健康食品と特定保健用食品)について解説する。</p> <p>(嶋本)「生活習慣病」:「生活習慣病」とは、「食運動休養喫煙飲酒」などの生活習慣が、その発症・進行に関与する病気で、国民に健康的な生活習慣の重要性を喚起し、生涯を通じた生活習慣改善のための個人の努力を促すために提唱されたことについて詳述する。</p>		
成績評価の方法	各担当教員毎に課す課題レポートによって評価する。レポートの課題提出期限分量等については、各担当教員がそれぞれ指示する。期末試験は実施しない。		
テキスト	共通のテキストは使用しない。各教員が適宜プリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	共生社会論		
担当教員氏名(助手氏名)	酒川 茂, 三浦朗, 吉本和弘, 原理		
研究室の場所	広島キャンパス		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	遠隔講義(広島C発信)。授業日程に従い, 基本的に1人の教員が3回の授業を主に講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【26年度以前入学者】生命科学科, 環境科学科		
免許等指定科目			
キーワード	地域文化, 食文化, 継承, 組織, 健康, 自立, 運動不足, スポーツ, 休養, 植民地主義, 言語支配, 自由, 民主主義, 法治主義, 移民, 多文化主義, 民族主義		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は, 全学共通教育の複合科目に位置付けられる。国際文化学科と健康科学科という学科の専門分野を超えて共有すべき視点と知識を教授し, 諸問題に対して多角的に分析する態度が身に付けられるよう, 人間文化学部教員4人がオムニバス形式で担当する(担当者の順番の変更が生ずる場合があります)。		
授業の内容	国際社会と地域社会において必要とされる共生社会を目指すために以下の多面的な角度からアプローチする。(酒川)地域の文化が継承され, 発展していく過程で, 人々はともに活動する場や組織を創り出す。さらには地域を越えてつながる機能的関係について, 主に「食文化」の面から考察する。(三浦)健康であることは, 他者と共に生きていく上で重要なことのひとつである。まず, 現代社会における健康阻害要因を理解する。その上で, 生涯を見据えた健康づくりのプランを「運動・スポーツ」と「休養」という観点から学ぶ。(吉本)英語圏の主要な冒険物語に描かれた文明と野蛮の衝突を検証しながら, 支配と被支配について考察する。また現代における英語帝国主義とは何かを考える。(原)自由や平等は一般的に人類普遍的な価値観だといわれている。そして政治体制としては民主主義が最善かつ最終的形態だと考えられている。これらの観点から共生社会を考える。		
成績評価の方法	各担当教員毎に課す課題レポートによって評価する。レポートの課題, 提出期限, 分量等については, 各担当教員がそれぞれ指示する。期末試験は実施しない。		
テキスト	共通のテキストは使用しない。各教員が適宜プリントを配布する。		
参考文献	参考文献については, 開講時に教員が指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	国際文化学科の学生は, 共生社会論, 人間科学論及び健康文化論から, 4単位以上履修すること。		

授業科目名	経営と現代社会		
担当教員氏名(助手氏名)	小原 久美子		
研究室の場所	広島キャンパス		
オフィスアワー	メールで予約してもらい、その上で実施する。 遠隔授業のため、質問等はメールで対応したり、授業時間に対応する。		
授業の形式・方式	遠隔授業：広島C発信授業日程に従って、主に下記の教科書各章に関する内容を講義形式で実施する。1回の講義の授業時間は1時間3分である。また、教科書以外に適宜プリント資料も用いる予定である。必要によって、質問と回答の時間を設ける。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【26年度以前入学者】生命科学科，環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	現代企業の社会的責任 (CSR)，ステイクホルダーと企業との関係，企業倫理，企業と地球環境問題，労働とCSR，人権とCSR，消費者とCSR，コミュニティとCSR，金融機関とCSR，CSRマネジメント，現代経営者の役割，共に生きるとは，コーポレート・ガバナンス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、全学共通教育科目の中の複合科目の1つとして位置づけられる。</p> <p>1. CSR (企業の社会的責任) 論の学習を通じて、現代社会及び企業の今後の課題と方向性を見極める。</p> <p>2. 現代社会と企業の組織経営との関わり方、つまり、企業とそれを取り巻くステイクホルダー (利害関係者および利害関係者集団) からなる社会とのよりよい相利共生関係を考え、実践的スキルを養う。</p> <p>3. 現代社会に生きるわれわれ人間は、企業という組織体の経営にどのように関わって生きるべきか、現代社会におけるわれわれ人間の生き方について考える。</p>		
授業の内容	<p>現代社会は、企業組織や企業組織やその他の組織体 (学校、政府、銀行、病院、地方自治体、NPOなど) の経営が営まれる多元的相利共生社会である。したがって、いかなる組織体といえども、自らを取り巻く各々の組織体やステイクホルダーとの関係を無視して、その事業目的を達成し存続することは不可能である。</p> <p>本授業では、現代社会の特質と変化・方向性を鋭く直視し、とりわけ、現代社会と企業組織との相互依存関係に着目し、現代の企業の社会的責任に関する理解を深める。さらに、現代社会に生きるわれわれ人間は、企業という組織体の経営にどのように関わり生きていくか、現代社会におけるわれわれ人間の生き方について考えてみる。</p>		
成績評価の方法	授業参画度 (平常点) 小テスト 50%，期末試験 50%の割合で総合的に評価する。試験は指定された教室内で、持ち込み可で実施する。期末試験は、指定された試験日の授業時間 (90分) 内で実施する。問題形式は、多肢選択問題および論述形式を採用する。		
テキスト	谷本寛治著『責任ある競争力—CSRを問い直す』エヌティティ出版、2013年4月発行。 その他、適宜、自作のプリント教材も配布する。		
参考文献	小原久美子『経営学における組織文化論の位置づけとその理論的展開』白桃書房、2014年1月発行。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	本授業は、これからの企業と社会のあり方を考える上で重要である。①本授業は遠隔授業であるため、遠隔受講している学生の出席は各キャンパスごとに行い、それをもって出席とする。(学籍番号、氏名、日付を記すこと) ②本授業では、平常点も含めて総合的に評価するので、出席等も評価点となる。③質問等も積極的に応じるつもりである。メールでの質問を積極的にして欲しい。		

授業科目名	科学と医学		
担当教員氏名(助手氏名)	沖 貞明, 住居広士, 林 優子, 藤巻康一郎, 安武 繁, 原田俊英, 土師知行		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	沖 貞明: 水曜日の昼休み		
授業の形式・方式	遠隔講義(三原発信)		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【26年度以前入学者】生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	医学史, 小児医療, 精神医療, 感染症, 脳科学, 神経変性疾患, 福祉, 医療倫理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は, 専門領域理解の基礎となる科目で, 当該学科では必修科目として位置づけられている授業です。今後, 医学系の専門科目を学んでいく上で, その成り立ちと現代における課題を知っておくことはとても重要です。この講義では, いくつかのトピックスに焦点をあてながら, それらの事項を学んでいきます。これらの学習を通して, 医学における様々な課題に対して, 問題意識が持てる態度が持てるようにすることを目標とします。		
授業の内容	医学の歴史に加え, 現代医療の課題を, 多面的な立場で科学的側面から解説します。(沖 貞明)「医学の歴史」, 「人工関節の歴史と現状」, 「医療における安心と安全: 医療事故と医療過誤」をテーマとして講義します。(住居広士)「科学と医学のめざす理念と現代」, 「科学と医学がたどる保健医療福祉」をテーマにして講義します。(林 優子)「小児科医からみた生殖補助医療」, 「小児科に関わる臨床遺伝学」をテーマとして講義します。(藤巻康一郎)「精神医学序論I」, 「精神医学序論II」をテーマとして講義します。(安武 繁)人類と感染症との関係について歴史的な観点から論じ, 新型インフルエンザなど新しい感染症への科学的な対応のあり方について考察します。(原田俊英)「アルツハイマー病の病態や治療に関する新知見」, 「パーキンソン病の病態や治療に関する新知見」をテーマとして講義します。(土師知行)「話すことを科学する」, 「聴こえの障害とその治療: 最近の進歩」をテーマとして講義します。		
成績評価の方法	各教員の課すレポートを総合して評価します。		
テキスト	特に指定はありませんが, 必要に応じて講義中に別途指示します。		
参考文献	特に指定はありませんが, 必要に応じて講義中に別途指示します。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は, 正式には教学課の掲示で行いますが, レポートの課題については授業内での通知によって行います。		

授業科目名	福祉と社会問題		
担当教員氏名(助手氏名)	横須賀 俊司		
研究室の場所	広島キャンパス		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	遠隔授業（広島キャンパス発信）。授業日程に従って，講義の初回に提示する内容に関して講義形式で実施する。一つのテーマについて2～3回の講義を想定し，授業時間2時間（1回）と学生の自習4時間を想定した授業を行う。学生は試験を受けることが義務づけられる。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【26年度以前入学者】生命科学科，環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	福祉，平等，公正，社会問題，差別		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では，社会福祉についてこれまでほとんど学習していない学生を対象にして，社会福祉の理念，価値，法律，制度といった基本的内容について講述する。この科目の目標は社会福祉というものを学習することによって，いかにして社会（的）問題を解決することができるか，どのようにして生活問題を抱えている人を支援していくか，といったことを理解していくことになるだろう。この科目は全学共通教育科目の中の複合科目として位置づけられている。		
授業の内容	社会福祉とは，生活問題がもたらされている人びとに対して支援をしていくことと言える。そこで，この科目では現代社会において，どのような生活問題が生じているかを取り上げ，検討していくことにする。社会福祉の主要な法律に基づけば，社会福祉は低所得者・児童・障害者・高齢者・女性を対象に構成されている。したがって，この5つのテーマに関して講義を進めていく予定である。この講義を通して，どのような生活問題があるかを知り，それをどのようにして解決していくことができるのかを考えられるようになり，そして，実際に問題解決に取り組めるような人材となっていけることを望む。		
成績評価の方法	期末試験で評価する予定である。試験は指定された教室（試験室）内で，持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間（90分）を超えない時間で実施する。		
テキスト	教科書は指定しない。		
参考文献	参考文献については，適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	県大生として学ぶ広島と世界		
担当教員氏名(助手氏名)	上水流 木本		
研究室の場所	上水流 (庄原キャンパス地域連携センター) 木本 (広島キャンパス 2117)		
オフィスアワー	上水流 木本	随時 随時	
授業の形式・方式	講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度入学生】生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	ありません		
キーワード	県立広島大学 留学 国外事情		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	県立広島大学の基本理念「地域に根差した、県民から信頼される大学」に基づいて、本学が立脚する広島県という地域、及び本学が協定を結んでいる大学のある国や地域について、基本的な事項を学びながら、自身に関わりを持つ広島と世界の概要を知ることが目標とする。		
授業の内容	地域の諸問題への取り組みや国際交流活動において中心的な役割を果たしている教員の講義、及び留学経験者等の話を聴くことを通して、地域に立脚した県立広島大学の歴史と現状、協定校のある中国、韓国、ハワイ、イギリス、インドネシア、タイ、台湾、ドイツ、フィンランドなどの社会や文化について基本的な知識を修得し、地域での活動や、留学への関心を高める。		
成績評価の方法	広島県という地域や本学、本学が関わりを持っている世界各地の社会や文化について、どれほど関心と理解度を深めたか、論述式の定期試験によって評価する。		
テキスト	ありません。		
参考文献	授業時に必要に応じて提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	迷惑行為について厳しく対処する。		

授業科目名	地域の理解		
担当教員氏名(助手氏名)	オムニバス：五條小枝子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業と遠隔授業を組み合わせ実施し、フィールドワーク（1ヶ所）への参加を課す。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科，環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	広島県，自然環境，歴史，文化，産業，地域の実態，地域の課題		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>まずは，地域の特性や課題について，様々な観点からの知見を得る。ついで，地域の実態を自分の眼で観察し，課題を発見し，その解決策を模索する。最後に，フィールドワークで得られたことをグループワークでまとめ，発表する。これら一連の流れの中で，地域に関する基礎知識を身につけるとともに物事に主体的に向き合う姿勢を培う。</p> <p>。本科目は，全学共通教育の複合科目に位置づけられる。</p>		
授業の内容	<p>本科目では，我々が生活する地域（広島県）に注目し，1）「広島」をいろいろな視点から見つめる，2）「広島」の現状を理解し，その実態を肌で感じ取る，3）「広島」の問題や課題を発見し，それについて考察を加える。これらにより，広島県に対する関心や理解を深め，課題を議論できる素養を身につける。プログラムは，講義・フィールドワーク・合同発表会で構成される。広島県の自然環境，地域性，歴史，文化，産業など多岐にわたる情報を得て，地域の特性を基礎知識として身につけるとともに，フィールドワークでは，地域の実態と課題を把握し，その解決策についてグループワークで討論する。その成果を学期末の合同発表会で報告し，相互評価する。</p> <p>。具体的なプログラムについては，後期開始時に掲示で通知する。 （注）シラバスは，前年度の実施内容。</p>		
成績評価の方法	<p>①授業レポート計3回（50%） ②合同発表会における相互評価及び教員評価（40%） ③授業・フィールドワークへの取組姿勢（10%）で評価する。</p>		
テキスト			
参考文献	参考文献は，必要に応じて，担当者から紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>単位認定の要件として，上述のとおり，レポート提出の他，フィールドワーク（指定された地域の中から1ヶ所選択）と合同発表会への参加を課す。 受身では成果は得られない。自らが進んで地域の実態に触れ，そこにある問題に気づき，解決にはどうしたらよいか考え悩むこと。身近な問題を深く考えることによって自分自身を成長させるという能動的な取組姿勢が求められる。</p>		

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名(助手氏名)	(講師) 中国新聞社記者・スタッフ (学内担当) 五條小枝子, 塩川満久, 馬本 勉		
研究室の場所	馬本: 庄原キャンパス2401研究室		
オフィスアワー	木曜 5 限		
授業の形式・方式	対面授業。前期集中講義 (8月31日～9月4日, 3コマ×5日間)。サテライトキャンパスで実施。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	全学科 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 中国新聞社の寄付講義であり, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	本科目では, 新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 今年度は, 「原爆ドームの過去・現在・未来」をメインテーマとし, 被爆70周年を迎えた広島を「これまで」と「これから」をめぐる議論を題材として取り上げる。記事を読み, 現地へ出向いて取材を行った上で, 口頭で意見を述べたり, 記事として文章にまとめるなどの発信方法を学ぶ。さらに, グループで問題解決への提案をまとめ, プレゼンテーションを行う。		
成績評価の方法	①授業レポート (50%) ②ディベート, ディスカッション, プレゼンテーションを含む, 授業への参加度 (50%)		
テキスト	必要な資料をプリントで配布する。		
参考文献	適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。		

授業科目名	ボランティア活動		
担当教員氏名(助手氏名)	手島 洋		
研究室の場所	三原キャンパス		
オフィスアワー	最初の授業の時に連絡。可能な限り随時対応。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	講義と実習とを組み合わせた形で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	ボランティア, 地域福祉活動, 市民福祉活動, NPO		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	社会や人に関心のある社会人としての感性を磨き, 将来積極的に社会貢献に参加して行く人材を養成するために, 社会福祉分野でボランティア活動を学ぶ。実践的に学べるよう, ボランティア活動の実践者による講義・演習や学生の実習を主な内容とする。		
授業の内容	(1) 集中講義・演習 ①ボランティア概論(1)・(2) ②ボランティア活動の実際 ③ボランティア活動を知る(1)・(2) ④先輩からの報告・注意事項説明 ⑤ボランティア活動報告 ⑥ボランティア活動で得たものとまとめ (2) 実習(6月～8月) ⑦ボランティア実習 実習条件(予定): 福祉分野でのボランティア活動, 実働30時間以上, 活動終了後にレポート提出が必須		
成績評価の方法	授業の出席, ボランティア実習, レポートにより評価		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	参加するボランティア実習により食費, 交通費等の負担がある場合もある。庄原キャンパスと三原キャンパスの学生には, 受講にかかる交通費が支給される場合があるので, 各キャンパスの教学課に確認すること。		

授業科目名	留学生と学ぶ広島		
担当教員氏名(助手氏名)	柳川順子, 五條小枝子		
研究室の場所	広島キャンパス1713, 2218研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	遠隔授業・フィールドワーク・対面形式の合同発表会		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命環境学部1～4年次(平成27年度入学生)		
免許等指定科目			
キーワード	異文化間コミュニケーション, 広島地域の歴史・文化・産業・自然, 「広島スタディツアー」		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	全学共通教育科目の「広島と世界」枠に位置づけられる。文化的背景の異なる留学生と日本人学生とが, 広島という地域への理解を深めながら, 異文化間コミュニケーションの基礎を体得することを目標とする。		
授業の内容	留学生と日本人学生が, 広島の歴史・文化・産業・自然をともに学ぶ「広島スタディツアー」に参加し, 多様な視点からのディスカッションを通して, このフィールドワークで得た知見を深め, その成果をレポートやグループ発表によって表現する。ディスカッションは少人数のグループで行い, 成果の発表に向けても, グループを単位とした共同作業を行っていく。合同発表会は, 広島・庄原・三原の学生が一堂に会して行う。		
成績評価の方法	レポート2本(50%), 合同発表会における相互評価及び教員評価(40%), 授業への参加度(10%)により, 総合的に評価する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	10月3日(土), 12月5日(土)に開催予定の「広島スタディツアー」には, 必ず参加すること。		

授業科目名	海外研修 I		
担当教員氏名(助手氏名)	片山 圭巳		
研究室の場所	庄原キャンパス 2403研究室		
オフィスアワー	水曜日4講時目と木曜日3講時目		
授業の形式・方式	本科目は、認定科目であり、授業は開設しない。		
単位数(時間数)	2単位 (0時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度入学生】生命科学科，環境科学科 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して，文化の多様性を知り，共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。本科目は，全学共通教育科目に位置付けられる		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し，その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合，この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で，語学研修やその他の活動に自主的に参加した後，所定の書類と研修や活動に関する報告（A4用紙1～2枚，1200字以上）を提出し，所属学部の教授会で，その内容が，90時間の学修（2単位分）に相当すると判断されれば，単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については，各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。		

授業科目名	海外研修Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	片山 圭巳		
研究室の場所	庄原キャンパス 2403研究室		
オフィスアワー	水曜日4講時目と木曜日3講時目		
授業の形式・方式	本科目は、認定科目であり、授業は開設しない。		
単位数(時間数)	2単位 (0時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【27年度入学生】生命科学科，環境科学科 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	海外での研修を通して，文化の多様性を知り，共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。本科目は，全学共通教育科目に位置付けられる		
授業の内容	海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し，その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合，この科目名で単位を認定する。		
成績評価の方法	海外で，語学研修やその他の活動に自主的に参加した後，所定の書類と研修や活動に関する報告（A4用紙1～2枚，1200字以上）を提出し，所属学部の教授会で，その内容が，90時間の学修（2単位分）に相当すると判断されれば，単位を認定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については，各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。		

授業科目名	数学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	疋田 瑞穂		
研究室の場所	庄原キャンパス 2410研究室		
オフィスアワー	水曜日 2 時限目		
授業の形式・方式	講義 毎回出席もかねて小テストを実施		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1 年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	極限 微分 積分		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	数学特有の抽象的な議論を通じて, 論理的な思考力を養う。		
授業の内容	<p>集合, 論理, 論理記号, 任意と適当。極限の厳密な定義とその性質。 級数, 関数の極限, 連続関数。最大値の定理。導関数とその性質。 平均値の定理とテーラー展開。積分とその性質。置換積分, 三角関数の積分。 部分積分, 様々な積分。多変数関数と偏導関数, 多変数関数の平均値の定理。 多変数関数の合成関数の微分と陰関数。極座標の重積分, 正規分布曲線。 ラプラス変換による微分方程式の解法。</p>		
成績評価の方法	毎回の小テスト, 適時課するレポート及び, 期末テストにより評価する。		
テキスト	基礎と実践 大学新入生のための微分積分		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	数学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	疋田 瑞穂		
研究室の場所	庄原キャンパス 2410研究室		
オフィスアワー	水曜日 2時限目		
授業の形式・方式	講義 毎回出席をかねて小テストを行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	線形代数学 ベクトル 行列連立方程式 線形空間 線形写像 消去法 行列式 固有値		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	具体的な計算から, 抽象的な議論に移行することで, 抽象化の威力を学ぶ。		
授業の内容	ベクトルとその演算。行列と線形写像。その積。消去法による連立方程式の解法。消去法による逆行列の計算。行列式とその計算。余因子と行列式の展開。余因子による逆行列の表示。クラメル公式。線形空間。1次独立と従属。基底。階数と線形写像。KerとIm。固有値と固有ベクトル。行列の対角化。固有値の応用。		
成績評価の方法	毎回の小テスト, 適時課するレポート, 期末試験により評価する。		
テキスト	基礎と実践 大学新入生のための線形代数		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	数学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	疋田 瑞穂		
研究室の場所	庄原キャンパス 2410研究室		
オフィスアワー	水曜日 2時限目		
授業の形式・方式	講義 出席を兼ねた毎回の小テストと随時課するレポート。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	微分 積分 偏微分 重積分 微分方程式		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	与えられた公式を使用する演習を通じて, 専門科目を履修するのに必要な計算力を養う。		
授業の内容	べき関数, 積・分数関数の微分。指数・対数関数の微分。 三角関数と逆三角関数の微分。テーラー展開。不定形の極限, 曲線の概形。 積分, 置換積分。部分積分, 部分分数分解。面積, 極座標。偏微分。 多変数関数の極値。重積分。極座標の重積分。変数分離形微分方程式。 1階線形微分方程式。2階線形微分方程式。		
成績評価の方法	毎回の小テスト, 随時課するレポート, 期末試験により評価する。		
テキスト	基礎と実践 大学新入生のための微分積分		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	化学		
担当教員氏名(助手氏名)	江頭 直義, 長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 江頭: 5403研究室 長尾: 4504研究室		
オフィスアワー	水木曜日は随時		
授業の形式・方式	対面授業, 主に下記の教科書(テキスト欄参照)に沿って講義を進める。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	元素, モル濃度, 分子, 周期律表, 化学結合, 酸, 塩基, 水素イオン, pH, 平衡定数, 溶解度積, 活性化エネルギー, 化学平衡, 熱力学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	化学は共通基礎科目に位置づけられる生命環境学部の根幹をなすものである。高校の化学と大学の化学を結びつける役目をするので導入部分では高校での知識を確認しながら進めていく。様々な資格を勉強するときの基礎科目でもあるので是非理解を深めてほしい。		
授業の内容	原子, 元素, 分子, モル濃度などの基本的な知識を確認した後, 周期律表及び化学結合についての歴史的経緯及び入門的な結合論を説明する。次に, 強酸及び強塩基, さらに弱酸及び弱塩基についての水素イオン濃度(pH), 平衡定数, 溶解度積などを含む化学平衡論を理解し, 活性化エネルギー及び反応速度定数を用いる反応速度論について触れる。学習を進めるときは身の回りの事象を化学の観点から見直す内容を取り入れ, また, 基本的な化学計算についても十分な説明を行い科目の関心を高めるように講義を進める。		
成績評価の方法	期末試験60%, 中間試験30%, 出席点10% (欠席1回2%減, 遅刻1回1%減, 当然3分の2以上の出席が必要)の割合で評価する。 試験は指定された教室内で, 持ち込み不可で実施する。		
テキスト	岩本悦郎・江頭直義・柿並孝明・日色和夫, 三苦好治『化学が見えてくる』三共出版		
参考文献	①大野惇吉 著, 『大学生の化学』三共出版, 2002年 ②丸山一典ら, 『化学の扉』朝倉書店, 2000年 など		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	①無遅刻, 無欠席をめざそう。 ②基本的な科目なのでしっかり勉強しよう。理解できないときは早く教員(江頭)に相談すること。 ③テストはすべて記述式である。文章になっていない答えは減点される。		

授業科目名	化学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	有馬 寿英 松本 拓也		
研究室の場所	庄原キャンパス 有馬：5201 松本：5205		
オフィスアワー	事前連絡の上で適宜実施		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・形式；対面形式 ・方式；内容説明、及び演習 ・必要に応じてプリント配布 		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【20年度以前入学者】 生命科学科 環境科学科 2年次対象 【21年度以降入学者】 生命科学科 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科) 高一種免(理科) 食品衛生		
キーワード	(1) アボガドロ数・モル・モル濃度・規定度・パーセント濃度・ppm・ppb (2) 強酸・強塩基・中和・弱酸・弱塩基・緩衝溶液・pH (3) 酸化・還元		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	講義によって得られる化学に関する基礎知識は、一般的に学生実験あるいは研究に利用出来るほど整理・統合されていない。本演習を通じて、実践的な基礎知識を確かなものとするとともに、実験等に対応可能となる基礎的な能力を習得することを旨とする。		
授業の内容	以下の項目について基礎的な内容を中心とした演習を行い、応用可能となる基礎知識を習得するとともに、四則演算を含む基本的な計算力を身につけることを旨とする。 (1) 四則演算・単位；加減乗除、及び単位変換 (2) 分子量・モル・モル濃度・規定度；試薬調製や分析などにおいて、必須となる濃度計算 (3) パーセント濃度・ppm・ppb；試薬調製や分析などでの基本となる濃度計算 (4) 四則演算・有効数字；加減乗除や対数などにおける有効数字の配慮 (5) 強酸・強塩基・pH・中和；中和反応、及びpH計算 (6) 弱酸・弱塩基・pH・緩衝溶液；緩衝液調製において必要な弱酸・弱塩基の取扱い、及びpH計算 (7) 酸化・還元；酸化剤、及び還元剤についての取扱い (8) その他		
成績評価の方法	(1) 指定した試験日に実施する試験結果等で評価する。 (2) 出欠状況は特に評価対象とはしない。 (3) 原則、レポートによる評価、再試験・追試験等を行わない。 単位変換を含む試薬調製、及び有効数字に配慮したpH計算等が、学生実験において利用可能となる事がその評価基準の一つである。その詳細については、講義開始時に提示する。		
テキスト	講義内容に沿った資料プリントを随時配布する。 テキスト・参考文献等は特に指定しない。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	(1) 成績評価には、講義への出席等に関する加点評価は原則行わない。 (2) 講義中の迷惑行為(私語、携帯電話・スマートフォン・タブレット端末等の取扱(メール機能等を含む))等については、講義室からの退出を即時に命じる。さらに、他の受講生への影響を考慮し、その後の受講を一切認めない可能性がある。(3) 演習・試験等において、不正行為を一切禁止する。		

授業科目名	生物学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	入船 浩平		
研究室の場所	庄原キャンパス 5501研究室		
オフィスアワー	随時、場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、予習一質疑応答・予習テストー補足講義一作問・グループディスカッション形式で実施する。教科書は次回分を毎回配布する。配布された教科書を次回講義までに読みこんで講義に臨む。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	基礎生物, 細胞, オルガネラ, 生体高分子, 生化学, 代謝, 酵素, エネルギー, 遺伝, 核, ゲノム, 遺伝子		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、高校で生物学として得た細胞・生理・遺伝などに関する知識をより根元的に掘り下げ、生物物理化学的な基礎的事象として理解を行うとともに、今後の生命科学、環境科学における専門分野への橋渡しの入門科目として位置づけられている。		
授業の内容	<p>生命の基本的概念を構築することを目的に、「生物学 I」では、生命が持つ普遍的な仕組みについて概説する。生命の基本単位である細胞を取り上げ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生体膜, 核, オルガネラ, 細胞内小器官等その基本的な構造と機能 2) 生命を構成する水や有機物などの物質的特性とその生化学的意義 3) 生命を維持するためのエネルギーの獲得や変換のシステムとこれにかかわる酵素の生理学的機構 4) 細胞周期、細胞分裂の機構 		
成績評価の方法	期末試験80%, 出席20%程度の割合で評価する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。成績不良者に対する補充試験等を行わない。		
テキスト	「キャンベル生物学」(小林興 監訳)丸善, 毎回必要部分を配布する。必携の必要はないが、生命科学を志す者はなるべく手もとに於いて欲しい本である。キャンベルは、2年次の遺伝学(生命科学科対象)でも使用する。その他必要な資料は、プリント配布する。		
参考文献	参考図書については、講義で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	高等学校で「基礎生物・生物(生物 I, II)」を修得している者を対象とする。		

授業科目名	生物学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	斉藤 靖和		
研究室の場所	庄原キャンパス 3601研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。 *履修者は、生物学演習を履修していることが望ましい。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	学生便覧参照
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	生物, 生命, 環境, 動物, 植物, 微生物, 細胞, 遺伝子, タンパク質, バイオテクノロジー, 遺伝子操作, 医療, 健康, 食品		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、高校および生物学Ⅰで得た生物学の知識をより根元的に掘り下げることで、今後進んでいく生命科学・環境科学の各専門分野への橋渡しの入門科目として位置づけられている。また、生物学Ⅰではふれなかった内容についても学習することで、より広範な生物学の知識を習得することを目標とする。目指す具体的な到達目標としては、1. 生命体の構造と働き, 2. 細胞の情報伝達, 3. 細胞増殖, 4. 免疫, 5. 細胞の再生と死, 6. 遺伝子工学技術 などについてその仕組みを理解し、的確なキーワードを使って具体的、体系的に説明できるようになることである。		
授業の内容	生命の基本的概念を構築することを目的に、「生物学Ⅱ」では、「生物学Ⅰ」での共通概念の理解の上に、さらに知識の幅を広げるべく、生命を知る上で基礎となる、1) 生命体の構造と働き, 2) 細胞の情報伝達, 3) 細胞増殖, 4) 免疫, 5) 細胞の再生と死, 6) 遺伝子操作やクローン技術といった先端的バイオテクノロジーについて概説する。また、こういった先端的技術が環境、生物、人間社会にもたらす恩恵や問題点等についても概説する。		
成績評価の方法	試験成績で評価する。試験は教科書・プリント・ノート類などの一切の持ち込み不可で指定された試験日の授業時間内で実施する。前述の他に、小テスト、レポートを課す場合もある。		
テキスト	「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第2版」和田勝著 羊土社 ISBNを使用する。その他必要な資料は、プリント配布する。参考図書は、講義中に紹介する。		
参考文献	改訂第2版 はじめの一步のイラスト生化学・分子生物学 羊土社 ISBN		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	(1) 履修者は、授業記憶がフレッシュなうちに復習を充分に行なうと共に、主だった今回の授業内容の要点を把握して授業に臨むこと。特に、高等学校で生物を修得していない学生は、十分な予習・復習を行い、授業内容の理解に努めること。 (2) 授業に関する連絡方法は、教学課の掲示板に掲示するか、講義中に口頭あるいは文書で指示する。		

授業科目名	生物学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	大田 毅, 藤田 景子		
研究室の場所	庄原キャンパス 大田: 5202研究室, 藤田: 5203研究室		
オフィスアワー	随時(大田, 藤田(景))		
授業の形式・方式	授業日程に従って, 対面で演習を行う。学生は授業に出席し, 期末試験を受けることが義務付けられる。配布プリントを中心に教員が解説し, 生物学の研究や調査を実践する実力を養成する。 *履修者は, 生物学Ⅱを履修していることが望ましい。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	学生便覧参照
履修要件	【20年度以前入学者】生命科学科, 環境科学科 2年次対象 【21年度以降入学者】生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	生物学, 生化学, 分子生物学, 遺伝子工学, バイオテクノロジー, 動物, 植物, 微生物, 生物学実験法, バイオ技術者認定試験		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この授業は, 生命環境学部を構成する生命科学と環境科学という2本柱を学ぶための基礎教科としての生物学を広い視野から演習によって学ぶ授業である。高校で生物学を履修しなかった学生にも, 生物学をより理解できるように生物学Ⅰ, Ⅱと並ぶ基礎入門科目として位置づける。また, 生物学Ⅰ, Ⅱで学んだ内容やそれに関連した内容について講義形式だけでなく演習形式で取り組むことにより, 生物学の基礎を実践的に体得し, 専門分野への橋渡しとなる科目として位置づける。具体的な到達目標としては, 各回の授業で学んだ内容を理解し, それぞれの回でのテーマに関連する演習問題(バイオ技術者認定試験中級レベル程度を想定)を正解率60%以上で解答することができる力を身につける。		
授業の内容	(1)初回の授業に, この授業の意義と方針, 授業を受ける学生の心得, 全体の授業内容の予定, 成績判定方法などを序論としてガイダンスを行なう。 (2)前半2-8回は大田, 後半9-15回は藤田(景)が担当する。 (3)前半2-8回の演習内容は, 中級バイオ技術者認定試験出題範囲のバイオテクノロジー総論および生化学を中心に, 生物学Ⅰ, Ⅱで学んだ内容や学生の理解度を考慮しながらすすめる予定である。 (4)後半9-15回の演習内容は, 中級バイオ技術者認定試験出題範囲の, 微生物学, 分子生物学および遺伝子工学を中心に生物学Ⅰ, Ⅱで学んだ内容や学生の理解度を考慮しながらすすめる予定である。 上述の予定は弾力的に随時変更する場合がある。		
成績評価の方法	(1)期末試験の成績により評価する。 (2)試験は, 教科書・プリント・ノート類などの一切の持ち込み不可で実施する。 (3)前述の他に, 小テスト, レポートを課す場合もある。		
テキスト	随時プリント配布。授業内でも取り上げることがあるが, 中級・上級バイオ技術者認定試験問題集(日本バイオ技術教育学会編/IBS出版)を参考テキストとして学習すれば, より高い学習効果を得ることができる。図書館内に所蔵がある。		
参考文献	中級バイオ技術者認定試験対策問題集(土屋書店, 中級バイオ技術者認定試験問題研究会 編)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	(1)履修者は, 主だった次回の授業内容の要点を簡易でもよいので, 授業記憶がフレッシュなうちに復習を充分に行なうこと。 (2)授業に関する連絡方法は, 教学課の掲示板に掲示するか, 講義中に口頭あるいは文書で指示する。 (3)講義中の私語は, 他の受講者の迷惑となるので厳禁とし, 必ず, 講義の妨げとなる行為を注意され, その指示に従わない時は講義室から退室を命じる場合もある。レポート, 試験等において, 本学で規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	物理学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	加藤 一生		
研究室の場所	庄原キャンパス 4202研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。 1回の講義につき1ないし2テーマの講義を想定し、授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	国際単位系, 質量, 時間, 長さ, 速度, 加速度, 運動量, 角運動量, 力, エネルギー, 温度, 圧力, 波動, 電場, 磁場, 光, 原子, 原子核, 放射線		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	自然科学の学習に必要な基礎物理学の学力を身につけることができる。特に、基礎的な物理法則への理解ならびに物理量の簡単な取り扱い方法が習得できる。 生命環境学部では自然現象への理解とその応用としての分析・計測に関係した多くの専門教育科目が配置されており、本授業はそれらの内容を理解するための素地を身につける上で不可欠な科目の1つとして位置づけられている。 また、本授業の内容は物理学IIならびに物理学実験で学ぶ内容を理解する上で役立つ内容を多く含んでいる。		
授業の内容	物理学の目的と方法を解説した後、古典物理学から近代物理学までの概要を講義する。特に、力学と電磁気学の中で、物理学に関する事柄を自力で学ぶ力を身につける上で欠かせないと考えられる基礎的な事柄を詳しく解説する。解説では、考えている現象について理解を深めるための簡単な実験も演示する。さらに、近代において電子と光の基本的な性質を解明する上で重要な役割を果たした実験物理学の諸研究の概要を紹介する。物理学がどのように広く自然科学, 工学, 医学などの発展に役立てられているか解説する。また、物理量を扱う上で単位についての理解は不可欠であり、その基本的な説明は繰り返し行う。		
成績評価の方法	期末試験80%, 出席状況とレポート20%の割合で評価する。レポートの課題は授業中に示す。期末試験は指定された教室(試験室)内で、指定された試験日の授業時間(90分)内に実施する。		
テキスト	加藤 一生 著 『はじめての物理学 第2版』 大学教育出版, 2009		
参考文献	町田 茂 著 『現代物理読本』理工学社, 1994 国立天文台 編 『理科年表平成27年』丸善, 2014		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	教科書だけでなく授業内容に関連する本を数多く読み、自ら問題発見に取り組み、自ら考えて解決していくように心がけること。講義担当教員に積極的に質問することは問題解決の糸口を得る、あるいは新たな問題を発見する上で大いに役立つでしょう。		

授業科目名	物理学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	加藤 一生		
研究室の場所	庄原キャンパス 4202研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。 1回の講義につき1ないし2テーマの講義を想定し、授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	【20年度以前入学者】必修 【21年度以降入学者】選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	万有引力, 剛体, 熱, 電磁気学, 量子力学, 特殊相対性理論, 原子・原子核		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本授業では物理学Ⅰに続いて、生命科学と環境科学に関わる自然科学上の学習に必要な物理学の基礎学力を培うことができる。また、物理学と生活との関わりを理解し、物理学の知識を生活環境の改善等に実際に活用する上で役立つ事柄を学ぶこともできる。生命環境学部の専門科目で必要となる自然科学上の基礎学力を充実させる上で不可欠な科目の1つとして位置づけられている。		
授業の内容	物理学の歴史的発展に関する主な出来事を紹介し、物理学と生活の関わりについて説明する。古典物理学が、太陽系の惑星の運動、空気抵抗のある中での物体の運動あるいはコマなどの形がある物体の運動の解明にどのように役立ったか詳細に説明する。次に、熱力学の基礎を解説し、それらと現代生活との関わりを考える。また、波動、特に音波と電磁波について説明し、相対性理論と量子力学の成立の過程を解説する。さらに、それらがどのように微視的世界ならびに恒星や宇宙など極大の世界の理解に役立ってきたか、これまでに物理学で理解されてきた事柄の概要を解説する。尚、講義時間までに重要な物理学上の発見があれば、その内容を講義内容に加えることがある。		
成績評価の方法	期末試験80%, 出席状況とレポート20%の割合で評価する。レポートの課題は授業中に示す。期末試験は指定された教室(試験室)内で、指定された試験日の授業時間(90分)内に持ち込み不可で実施する。		
テキスト	加藤 一生 著 『はじめての物理学 第2版』 大学教育出版, 2009		
参考文献	町田 茂 著 『現代物理読本』理工学社, 1994 国立天文台 編 『理科年表平成27年』丸善, 2014		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	教科書だけでなく授業内容に関連する本を数多く読み、自ら問題発見に取り組み、自ら考えて解決していくように心がけること。講義担当教員に積極的に質問することは問題解決の糸口を得る、あるいは新たな問題を発見する上で大いに役立つでしょう。		

授業科目名	物理学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	加藤 一生, 崎田 省吾		
研究室の場所	庄原キャンパス 加藤: 4202研究室 崎田: 4204研究室		
オフィスアワー	最初の講義時に連絡する。		
授業の形式・方式	授業日程に従って、演習形式で実施する。1回の演習につき1ないし2テーマで問題演習を行う。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定して授業を行う。学生は、授業に出席し課題の問題を解いたレポートを提出すること、ならびに期末試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【21年度以降入学者】生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	【23年度以降入学者】中一種免(理科), 高一種免(理科) 以降入学者(環境) 23年度以降入学者】食品衛生		【(生命) 22年度
キーワード	速度, 加速度, 力, 国際単位系, 運動方程式, 運動量, エネルギー, 万有引力, 剛体, 流体, 振動, 波動, 熱, 電磁気, 光, 特殊相対性理論, 量子, 原子, 原子核, 素粒子		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本授業では生命科学と環境科学に関わる自然科学上の学習に必要な物理学の基礎学力を培うことができる。また、将来、理工系分野、自然科学教育分野、など物理学の知識が欠かせない道を目指す学生がその学習に役立つ物理学の基礎学力を充実させることもできる。履修内容は物理学Iで履修した内容と強く関連している。同時に開講されている物理学IIも履修し、演習内容をその理解に役立てることを想定している。		
授業の内容	主に次の内容に関する問題演習を行う。 ①ニュートンの運動の法則と万有引力, ②剛体の力学, ③流体, ④波動, ⑤熱力学, ⑥電磁気学, ⑦光学, ⑧特殊相対性理論, ⑨量子論, ⑩原子核と素粒子。 課題の内容は高校で物理学を学習しなかった学生でも物理学Iを履修し、同時に物理学IIを受講していれば微積分などの数学の基本的な事柄を使いながら十分に理解できると考えられるものである。		
成績評価の方法	レポート50%, 期末試験50%の割合で評価する。レポートの課題は授業中に示し、授業中に解いて提出する。期末試験は指定された教室(試験室)内で、指定された試験日の授業時間(90分)内に持ち込み不可で実施する。		
テキスト	プリント教材を授業時に配布する。		
参考文献	後藤憲一, 小早川恵三, 國友正和『基礎物理学演習』, 共立出版, 1986. 南部陽一郎『クォーク 第2版』, 講談社, 1998. 加藤一生『はじめての物理学 第2版』, 大学教育出版, 2009. 原康夫『基礎物理学(第3版)』, 学術図書出版社, 2006. 阿部龍藏『はじめて学ぶ電磁気学』, サイエンス社, 2007. 町田 茂『現代物理読本』, 理工学社, 1994.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	参考書だけでなく授業内容に関連する本を数多く読み、自ら問題発見に取り組み、自ら考えて解決していくように心がけること。講義担当教員に積極的に質問することは問題解決の糸口を得る、あるいは新たな理解を得る上で大いに役立つでしょう。		

授業科目名	生命環境統計学		
担当教員氏名(助手氏名)	橋本 温		
研究室の場所	庄原キャンパス 4302研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面・プロジェクターを用いた講義形式，演習		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【26年度以降入学者】生命科学科，環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	生物現象の多様性，分布，推定と検定，相関と回帰		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>自然の様々な現象の中でも，特に，生物の関わる現象は多様性(変動性)を有する。本講義の目標はこの多様性を定量的にとらえ，比較し，推定するためのツールである統計学の基礎を理解することである。また，このツールである統計的手法を用いて，調査・実験・研究のデータの解析に学生自らが実際に利用できるようにする。</p>		
授業の内容	<p>はじめに，生物現象の多様性，変動性について講義し，それらを定量的に記述する基本的な統計量の表し方について学ぶ。次いで，幾つかの確率分布について講義し，それらを踏まえて統計的な推計・検定について講義する。また，データの相関・回帰について概説し，基本的な相関や回帰分析について演習する。最後に，実験や調査，研究などでの実用的な使用について講義する。それぞれの項目について，講義中に適宜演習問題を取り入れ，各自で実際に解いてみることで理解を深める。</p>		
成績評価の方法	期末試験の結果(70%)，授業中の積極的な態度(30%)で評価する。		
テキスト			
参考文献	打波・野地著 すぐできる生物統計，羊土社， 菅著 Excelで学ぶ統計解析，オーム社， 小川著 環境のための数学，朝倉書店など		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	生命科学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	小西 博昭, 田井 章博, 達家 雅明, 荻田 信二郎, 堀内 俊孝, 稲垣 匡子, 八木 俊樹, 齊藤 靖和, 阪口 利文, 菅 裕, 矢間 太, 山下 泰尚, 大田 毅		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに従うこと。		
授業の形式・方式	応用生命コース所属の教員が1人1コマを担当するオムニバス形式。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【26年度以降入学者】生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	IVF, ICSI, ET, クローン, iPS細胞, 卵胞発育, 排卵, 遺伝子改変動物, 肉眼解剖学, 組織学, 光学・電子顕微鏡, プロテオーム解析, タンパク質, 細胞情報伝達, ノックアウト (KO) マウス, 酵素反応, 生体内触媒, 酵素利用, ビタミン, 健康, サプリメント, 医薬品, 化粧品, 自然免疫, 獲得免疫, 食, 感染防御, 老化, 細胞死, 活性酸素, 皮膚, DNA, RNA, 染色体, 有糸分裂, 細胞周期, ストレス応答, 情報学, 分子進化, ゲノム, DNA, 微生物学, バイオミネラルゼーション, バイオセンサー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	1年生に向けて分かりやすく教員の専門領域や研究内容について解説する。応用生命コースの全体像や教育研究分野の特徴を理解してもらおうと共に、本コースに対する関心・興味を深めてもらうことを目的とする。また、新カリでは、2年次よりコースに分かれることになるため、学科(コース)内教員の顔ぶれや各々の専門領域、研究内容について知ることができる時間をつくることで、学生に対してコース選択の判断材料を提供する。		
授業の内容	生命現象や生体機能の解明と応用は、医薬、医療、健康など多くの分野において人類の生存や繁栄に大きく貢献する力をもっている。生命科学概論では、応用生命コースの教員の各々の研究領域に基づき、遺伝子、タンパク質、生体構造、生体機能といった様々な視点で生命の誕生から成長、生存、死に至るまでの生命活動のしくみについて広く学び。また、生命構造や生命機能の解明やその利用がどのように世の中の役立つのかについても併せて学ぶことで、生命科学分野に関する幅広い知識を修得し、分野に対する理解を深めることを目的とする。		
成績評価の方法			
テキスト	テキストは使用せず、プリントなどを配布する。		
参考文献	講義の中で随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	生命科学科のコース分けの参考となる科目であり、また、生命科学コースの基礎となる科目である。生命科学コースへの配属を検討している学生はできる限り履修すること。また、毎回講義中にレポートなどを課すので遅刻せずに講義に参加すること。他の受講生の迷惑になる行為(私語など)は、退出を命じることもあります。試験における不正行為については学則にしたがって対処します。		

授業科目名	環境科学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 浩幸		
研究室の場所	庄原キャンパス 3701研究室		
オフィスアワー	定期 水曜日 5 3 コマ目がないときの昼休み 事前連絡の上であれば、随時対応可能		
授業の形式・方式	対面授業，課題レポートなどを取り入れたもの		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	学生便覧参照
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	ECO検定		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>環境に関する技術やモノづくりは日々研究が進み，社会としてのシステムづくりも着々と進められている。この講義では環境に関する幅広い知識をもとに率先して環境問題に取り組み、環境と経済を両立させた「持続可能な社会」を促進に貢献できる「人財育成」を目的としている。</p> <p>2014年より庄原市商工会議所で環境社会検定（エコ検定）が実施されるので，この検定に合格できる知識を身につけることを目的とする。</p>		
授業の内容	<p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 持続可能な社会に向けて 2) 地球人としてのわたしたち（わたしたちの地球と自然環境；環境問題の実態） 3) 環境と経済・社会（環境をめぐる世界の動き；環境と社会；環境と形成；環境と商品） 4) わたしたちの暮らしと環境（個人の暮らしと環境問題；豊かな食事と環境の関係；自然と共生して住環境；生活と環境） 5) 環境と共生するために 		
成績評価の方法	定期試験で6割り以上をとるか あるいはECO検定を受検し、自主最低点6割以上を認定する		
テキスト	ECO検定公式テキスト 東京商工会議所		
参考文献	ECO検定 公式過去・模擬問題集 東京商工会議所		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>初年度の前期に開講される専門科目であり，高校までの受け身の授業態度では十分な理解が得られないことから，積極的に勉強する姿勢を身に付ける様に心がけること。 履修予定者は教科書や講義資料を精読して授業に臨むこと。 授業に関する連絡方法は，正式には教学課の掲示，学生に対する授業内での連絡によって行なう。 課題や試験等において，本学において規定された不正行為を禁止する。 不正行為が明らかになった場合は，大学規則（学則）に基づいて対応する。</p>		

授業科目名	食品資源学概論		
担当教員氏名(助手氏名)	入船、奥、五味、黒木、福永、甲村、長尾、野下、津田、堀田、増田、村田、吉野、藤田(景)、未定		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに従うこと。		
授業の形式・方式	対面授業。コース教員で分担してひとつの講義科目とする。テキスト、板書や当日配布するプリントなどに従って授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【26年度入学者】生命科学科，環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	農学，農芸化学，食品科学，農業経済，育種，品種，バイオテクノロジー，組織培養，遺伝子組換え，野菜，果樹，栽培，加工，土壌・肥料，植物栄養，植物保護，植物病理，昆虫，防除，温暖化，天然物有機化学，医薬品，食品，食品化学，食品工学，地域食材，食品副産物利用，微生物，機能性食品，流通，マーケティング，6次産業，世界の食料生産と貿易		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>毎日我々が食べている食品について，材料となる作物の種子(品種)の成り立ちから栽培・収穫，生産物の加工や保存，さらにはそれが食卓に届き我々が食べるところまでを，多面的かつ平易に概説する。受講生が普段何気なく食べている食品の成り立ちについて農学・食品科学・農業経済などの観点から理解することを目標とする。</p> <p>生命科学科食品資源学コースを選択する学生には今後の学習の基礎となる。また，それ以外の応用生命科学コース・環境科学科の学生にも，日常生活や新聞記事やテレビのニュースでみる食に関わるさまざまな問題(例えば，遺伝子組換え食品や健康食品，食の安全安心，6次産業やTPPなど)について考えるきっかけとしてほしいと思う。</p>		
授業の内容	<p>最初の7回で農学の基本分野について概説する。この部分は，育種学(品種改良)やバイオテクノロジーの発展と成果，園芸学などの栽培学や土壌学・植物栄養学，昆虫学や植物病理学から構成される。そののちに，天然物化学や食品科学，食品加工，微生物と食品の関わり，さらには食品と健康の関わりについて5回にわたって概説する。最後の3回は農業経済の観点から，農作物の流通や，特産物や加工品のマーケティング，さらには世界的な食糧生産事情や貿易について解説する。これらさまざまな分野にわたる話ひとつひとつが関わりなく存在しているものではなく，食をめぐる有機的に結びついているのだということを理解してほしい。</p>		
成績評価の方法			
テキスト	テキストは使用せず，プリントなどを配布する。		
参考文献	講義の中で随時紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	生命科学科のコース分けの参考となる科目であり，また，食品資源学コースの基礎となる科目である。食品資源学コースへの配属を検討している学生はできる限り履修すること。また，毎回講義中にレポートなどを課すので遅刻せずに講義に参加すること。他の受講生の迷惑になる行為(私語など)は，退出を命じることもあります。試験における不正行為については学則にしたがって対処します。		

授業科目名	科学英語		
担当教員氏名(助手氏名)	八木俊樹, 矢間太, 稲垣匡子, 吉野智之, 津田治敏, 奥尚, 村田和賀代		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに従ってください。		
授業の形式・方式	対面授業。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自然科学, 最近のトピックス, テクノロジー, 科学英語		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	3年次学生は研究室配属先が決まっているため, 配属研究室と専門の近い教員が本講義を担当するように受講者を割り振る。各担当者は, それぞれの分野において研究室で普段よく用いられている英文教科書や英文プロトコル, またはぜひとも読んでおきたい英語文献や英語で書かれた自然科学のトピックスなどを題材にして授業を進める。そして, 受講者それぞれが, 今後専門分野において研究を遂行するために必要な基礎的英語力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	<p>【八木】主に細胞生物学領域において必要な英語力を身につけるための内容 【矢間】主に生殖科学領域において必要な英語力を身につけるための内容 【稲垣】主に基礎生命科学領域において必要な英語力を身につけるための内容 【吉野】主に食農領域において必要な英語力を身につけるための内容 【津田】主に食品成分領域において必要な英語力を身につけるための内容 【奥】主に植物遺伝学領域において必要な英語力を身につけるための内容 【村田】主に社会科学領域において必要な英語力を身につけるための内容</p> <p>それぞれの担当教員が10-23名程度の対し講義する。講義の進め方等は初回授業において各教員から説明する。</p>		
成績評価の方法	授業への参加状況, 小テスト, 課題レポート, 期末試験の結果などから総合的に評価する。また適宜, 小テスト, 課題レポート等も参考にします。予習, 受講態度についても評価の対象になります。		
テキスト	教科書については, それぞれの担当教員から指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎回の授業には英和辞書(もしくは英々辞典)を持参すること。また, 授業に先立ち, 教材の予習は必ずしておくこと。例年この姿勢がみられない学生が多く, わからない, また進度が速すぎるという苦情があるが, 予習を充分やっていたらそのようなことはありません。勉強は自分のために行うもので, 他人のためではありません。		

授業科目名	科学英語		
担当教員氏名(助手氏名)	卒論担当教員全員		
研究室の場所	卒論担当教員の各研究室		
オフィスアワー	事前連絡の上で適宜実施。 場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、ゼミナール形式で実施する。1回の講義は、授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	環境科学科 3年次		
免許等指定科目			
キーワード	環境科学, 英語論文, 環境白書, 専門用語		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本講義では、環境科学に関する専門用語を理解すると共に、内容の理解や要約等を通して卒業論文履修時における英語の研究論文等を読む上で躊躇の無いように、環境科学に関する科学英語にふれる機会とする。		
授業の内容	環境科学分野の英語文献の概訳、環境科学に関する英語表記や専門用語の英単語等を学ぶ。		
成績評価の方法	出席・授業への参加、課題、小テスト及び期末試験の結果等から総合的に評価する。授業への参加で採点する。		
テキスト	各担当教員から「複写資料教材」を授業開始時に無料で配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	有機化学		
担当教員氏名(助手氏名)	野下 俊朗		
研究室の場所	庄原キャンパス 5401研究室		
オフィスアワー	月曜18:00-19:00 (他の時間も可。その場合、事前に連絡のこと。)		
授業の形式・方式	対面講義を基本とする。小試験を実施する場合もある。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	化学結合 構造 官能基 命名法 立体化学 反応性と反応機構 ハロゲン化アルキル アルカン アルケンとアルキン 芳香族化合物 カルボニル化合物 アルコール フェ ノール 含窒素化合物		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本講義の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機化学の基礎概念, (化学結合, 混成軌道, 共鳴など) を説明できる。 ・有機化合物の分類と基本的な命名ができる。 ・代表的有機化合物の物理的および化学的性質を概説できる。 ・代表的有機化合物の反応, 合成法などの概要を説明できる。 ・生命に関連する低分子化合物の化学的諸性質を概説できる。 ・食品成分の化学的諸性質を説明できる。 <p>カリキュラムとの関連生命現象に深く関わっている有機化合物に関する知識を習得することで, 関連した生命科学分野の諸科目の理解を深めることができる。また有機化合物を取扱う実験・研究に必要な基礎知識を身につけることから実験科目にも関連する。</p>		
授業の内容	<p>以下の諸項目に関して講義する。</p> <p>1回: 原子の構造と化学結合, 2回: 混成軌道および酸と塩基 3回: 官能基の構造とIUPAC命名法, 4回: アルカンおよびアルケンの反応および性質 5回: カルボニル化合物の反応①, 6回: カルボニル化合物の反応② 7回: 付加および脱離反応, 8回: 芳香族化合物の命名, 構造および求電子置換反応 9回: 芳香族求電子置換における反応性と配向性, 10回: 生物機能と有機化学 11回: 生体関連化合物の有機化学, 12回: 食品関連化合物の有機化学 13回: 生理活性化合物, 14回: まとめ</p>		
成績評価の方法	試験の成績で評価する。		
テキスト	テキスト: 畔田, 樋口, 川淵, 高木 共著「これでわかる基礎有機化学」三共出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	特になし		

授業科目名	無機化学		
担当教員氏名(助手氏名)	西本 潤		
研究室の場所	庄原キャンパス 4502研究室		
オフィスアワー	随時できる限り対応するが、都合が悪い時もあるのでメール等で予約をとって来室することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって、下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	学生便覧参照
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	量子数, 軌道, 周期性, イオン化エネルギー, 電子親和力, 電気陰性度, 原子価結合法, 分子軌道法, 化合物の構造, 無機固体, 典型金属, 非金属, 遷移金属, 錯体, 電気化学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	無機化学で対象としている元素は100個程度あり, 様々な特徴を持つ化合物やそれらが関与する反応が数多く存在するため, この授業時間内にそれらを理解することは難しい。そのためこの授業では, 無機化学として重要な基礎となる事項について理解することを目指す。この授業は1年生の必修科目である「化学」の次のステップにあたる授業の一つである。		
授業の内容	量子数と電子の軌道, 元素の性質と周期性, 原子価結合法と化合物の構造分子軌道法, 無機固体とその結合, 酸と塩基の硬さと軟らかさ, 電池(標準還元電位を決める要因), 溶質-溶媒相互作用, 錯体について概説する。		
成績評価の方法	試験90%, 出席態度10%の割合で評価する。試験は指定された教室内で, 持ち込み不可で実施する。		
テキスト	合原眞編著『新しい基礎無機化学』三共出版		
参考文献	久保田真理著『興味が湧き出る化学結合論』共立出版		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は, 正式には教学課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行なう。試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	基礎分析化学		
担当教員氏名(助手氏名)	西本 潤		
研究室の場所	庄原キャンパス 4502研究室		
オフィスアワー	随時できる限り対応するが、都合が悪い時もあるのでメール等で予約をとって来室することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって、主に下記の教科書に沿って講義形式で実施する。統計に関してはプリントを配る。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	学生便覧参照
履修要件	【26年度以降入学生】生命科学科，環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	中一種免（理科），高一種免（理科），食品衛生		
キーワード	定性分析，定量分析，沈殿平衡，酸塩基反応，酸化還元反応，錯形成反応，滴定，平衡反応		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では，分析化学についてこれまでほとんど学習していない学生を対象にして，物質中の濃度平衡の取扱等の基本的内容を講述する。本科目の目標は対象試料中に存在する様々な成分の質や量を把握するために行なわれる化学分析に関する基本的な概念を理解してもらうことである。この授業は1年生の必修科目である「化学」の次のステップにあたる授業の一つである。		
授業の内容	分析化学は，対象とする試料の質を把握するために必要不可欠なツールである。定量分析において濃度の理解および化学量論は重要であり，種々の単位の理解と濃度計算の習得を図る。データがどの程度信頼できるかを明らかにするために簡単な統計処理についても教える。また，定量分析に先立って行なわれる種々の前処理操作等は，目的成分に見合った手法の選択が必要である。沈殿平衡は，試料の前処理や重量分析の基礎であり，酸塩基反応，酸化還元反応，錯形成反応は，試料の前処理や容量分析等の基礎となることから，これら平衡の取扱と化学種の濃度計算について学ぶ。		
成績評価の方法	試験90%，出席態度10%の割合で評価する。試験は指定された教室内で，関数電卓のみ持ち込み可で実施する。		
テキスト	今泉洋他共著 『基礎分析化学』 化学同人		
参考文献	J. C. Miller/J. N. Miller著 宗森信訳 『データの取り方とまとめ方』 共立出版		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	簡単でよいので教科書を読んでから授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は，正式には教学課の掲示，学生に対する授業内での連絡によって行なう。試験等において，本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は，大学規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	微生物学		
担当教員氏名(助手氏名)	阪口 利文		
研究室の場所	庄原キャンパス 3302研究室		
オフィスアワー	随時、メールなどで確認してください		
授業の形式・方式	液晶プロジェクター (power point, ppt file) も用いて、授業を行う。 基本的に板書はしない。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	微生物分類, 微生物生態, 微生物培養, 顕微鏡観察		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	生物学の基盤, 対象なる生命体が動物, 植物, 微生物の3種である。本講義では生命体の基本構造を有し, 幅広い自然界に存在する微生物について, その概要から, 認知, 観察, 取扱いをはじめ, 分類・生理・生態から応用の外観にいたるまでを解説, 講義する。なお, 積極的に取り組まぬ者は単位未習となっても, 救済措置を取らないので過年度生となることを自己責任と理解すること。本講義は環境微生物学, 応用微生物学, 基礎バイオレメディエーションなど, 遺伝子工学, 分子生物学系他講義と密接に連携していることをよく理解して講義に参加・取組まれたし。大教室であるからと言って絶対に寝るな。		
授業の内容	大きな講義会場を用いて生命, 環境両学科学生を対象に講義を実施するが演者は講義会場全体を使って講義する予定である。受講者の数が多く, 完全なアクティブ型講義ではないが, 受講者の参加を質問などで求めることが多いことを理解すべし。したがって居眠りなどをする学生には退場を求めることもある(欠席扱い)。ただし積極的な参加者には多くの点数を差し上げたい。パッシブ型の講義ではパワーポイントを使用しながらいわゆる講演会ベースな授業を行う。必要に応じてプリントなどを配布する。これらの講義手法を用いて微生物学のアウトラインの理解, 習得を目指す。本講義ではライブ感を大切に授業を実施したい。		
成績評価の方法	ほぼ全ての回の出席を要求する。受講回数が10回に満たない場合, 試験自体を受ける資格がないものと判断し, ほぼ自動的に評価を行わない。また, 単位認定に際し, 過年度生などに対しては一切の救済措置はとらないので留意すること。テスト(受験制限を設ける)を基本的に様々な小テストなどを参考に点数化する予定である。まず講義に参加せよ。		
テキスト	ppt fileによるpower pointも用いる。		
参考文献	Brock Biology of Microorganisms (邦題:ブロック 微生物学 OHM社 ISBN4-274-0248 8-1)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	ほぼ全ての回の出席を要求する。受講回数が10回に満たない場合, 試験自体を受ける資格がないものと判断し, ほぼ自動的に評価を行わない。また, 単位認定に際し, 過年度生などに対しては一切の救済措置はとらないので留意すること。本講義は必修であることに自覚をもつこと。積極的に取り組まぬ者は単位未習となっても, 救済措置を取らないので過年度生となることを自己責任と理解すること。本講義は環境微生物学, 応用微生物学, 基礎バイオレメディエーションなど, 遺伝子工学, 分子生物学系他講義と密接に連携していることをよく理解して講義に参加・取組をされたし。		

授業科目名	生物化学		
担当教員氏名(助手氏名)	小西 博昭		
研究室の場所	庄原キャンパス 5301研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って生化学の主要な事項について教科書の内容も含め、多角的に解説しながら講義形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	生命現象, 細胞, 水, タンパク質, アミノ酸, 糖質, 脂質, 核酸, 代謝, 遺伝, 生体恒常性, エネルギー転換		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では, 生命環境学部の学生が学ぶ上で最も重要で基本となる, 『生命現象を物質レベルで理解する姿勢を養う』ことを目的としている。したがって物質を実体として理解する化学の基礎的な概念(モル濃度の概念, 化学平衡についての基本的理解等)に併せ, 高校生物で学ぶ程度の生命事象についての知識を有していることが前提となる。1年次の化学, 生物学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を踏まえて, それらを融合して生命の仕組みについて考えるような講義を進めていきたい。		
授業の内容	生体の主要な構成成分である水, タンパク質, 糖質, 脂質, 無機塩類, 核酸等に関し, 各物質の構造, 生体における基本的な機能について学習する。併せて物質間の相互作用やエネルギー産生と物質代謝, さらに恒常性や代謝制御機構等についての幅広い知識の習得を図る。特に, 代謝欠陥と疾病との関わり, 環境諸因子の生理機能への影響等について具体的な事例を詳説し, 生命現象を物質レベルで把握する認識を醸成する。以上の学習を通し, 最終的には, 生命科学を学ぶ上で必要な生物化学の基礎的な知識と事象について理解することを目的とする。		
成績評価の方法	期末試験80%, 出席20%の割合で評価を行う(若干変更する場合もある)。授業の後半(9回目以降)から期末試験用の例題を宿題として課し, その回に答え合わせと解説を行う。試験前には特に重点的に復習すること。		
テキスト	プリントは適宜配布する予定。		
参考文献	ベーシック生化学(化学同人), マッキー生化学, 栄養科学イラストレイティッド生化学(羊土社)		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日常の新聞・雑誌等において生命現象についての疑問や興味, 関心を抱くことが講義への興味につながる。講義中の質問以外にもメール等で様々な疑問や講義での内容についての受け付け, 双方向の機会を多くしたいと考えている。		

授業科目名	分子生物学		
担当教員氏名(助手氏名)	達家 雅明		
研究室の場所	庄原キャンパス 5303研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	【20年度以前入学者】選択 【21年度以降入学者】生命科学科 必修, 環境科学科 選択
履修要件	【20年度以前入学者】生命科学科 2年次対象 【21年度以降入学者】生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生【生命科学科のみ】		
キーワード	生命科学, DNA, 核酸, 遺伝子, ゲノム, 染色体, RNA, 発現, 蛋白質, 複製, 転写, 翻訳, 変異, 遺伝子組換え, 遺伝子発現制御, 細胞分化, メンデル, ワトソン・クリック, 岡崎フラグメント, DNAポリメラーゼ, RNAポリメラーゼ, ヘリケース, 制限酵素, 原核生物, ウイルス, プリオン, 真核生物		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	生物学および化学の基本的な内容を習得した学生を対象に, 生命の基本的な営みの1つである遺伝現象を分子の観点から理解させることを目標としている。特に, 遺伝暗号の仕組みとその解読をする方法, そして, 生物学的に解読されたたんぱく質となる仕組みを学習すると同時に, その発見の経緯や歴史, 発見に至った実験内容などについても学ぶ。その結果, 医薬品, 遺伝子組換え食品, テーラーメイド医療, 遺伝子治療, DNA鑑定などの日常しばしば話題になっている事項を専門的に理解出来る能力が身につけられて, 生命や生命科学, バイオテクノロジーへの興味が培われることを期待している。		
授業の内容	生物は個々の細胞に含まれる膨大な遺伝情報を発現させることによって機能している。ヒトの遺伝情報は3万種類程度の遺伝子と呼ばれる機能単位に分割して保持されているが, この遺伝子の構造と機能, また遺伝子の機能が発揮されるメカニズムについて講義する。さらにそれらの事実の発見に至った歴史的な背景についても論ずる。全般的な理解を助け, 興味を深めるために, ビデオ教材や練習問題による学習も随時併用すると共に, 学習した事項がどのようにバイオテクノロジーへ応用されているかについても言及する。		
成績評価の方法	授業終了時に試験を実施する。また, 出席についても成績評価に加味する。		
テキスト	テキスト: 『理系総合のための生命科学 第3版-分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ』東京大学生命科学教科書編集委員会/編(羊土社 ISBN 978-4-7581-2039-5) 参考文献(1): 『生命科学』東京大学教養学部理工系生命科学教科書編集委員会/編(羊土社 ISBN 4-89706-115-6)。参考文献(2): 『ゲノム工学の基礎』野島博/著(東京化学同人 ISBN 4-8079-0554-6)。参考文献(3): 『分子生物学の軌跡-バイオニアたちのひらめきの瞬間』野島博/著(化学同人 ISBN 978-4-7598-1094-3)。参考文献(4): 『Biochemistry (Board Review Series)』Dawn B. Marks/Author (William & Wilkins ISBN 0-683-30491-7)。参考文献(5): 『Cell Biology』T. D. Pollard and W. C. Earnshaw/Authors (Elsevier ISBN 1-4160-2388-7)		
参考文献	1) Watson, J.D. Crick, F.H. Molecular structure of nucleic acids; a structure for deoxyribose nucleic acid. Nature 171:737-738 (1953) 2) Okazaki R, Okazaki T, Sakabe K, Sugimoto K. Mechanism of DNA replication possible discontinuity of DNA chain growth. Jpn. J. Med. Sci. Biol. 20:255-260 (1967)		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修予定者は, 授業に関する連絡を正式には教学課の掲示または授業内での連絡によっておこなうので注意をすること。試験においては, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	食品衛生学		
担当教員氏名(助手氏名)	津田 治敏		
研究室の場所	庄原キャンパス 4402研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	学生便覧参照
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	食品衛生法, 食中毒, 食品添加物, 安全管理, 食品表示		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	食品衛生の維持には、種々の要因のリスクを正しく理解し、適切に制御することが必要である。本講義では、食品衛生に関する基本的知識を身に付け、食中毒等のリスク評価や防止技術の原理を理解することを目標とする。生命科学科・環境科学科の学科専門科目であり、生命科学・食品科学分野を目指す学生には必須となる科目である。また、食品衛生管理者および食品衛生監視員になるための重要な科目でもある。		
授業の内容	「食品衛生学(第1版, 新スタンダード栄養・食物シリーズ8)」に従って授業を進める。すなわち、第1章 序論, 第2章 食品衛生行政と法規, 第3章 食品と微生物, 第4章 食中毒と感染症, 第5章 有害物質による食品汚染, 第6章 食品添加物, 第7章 食品と寄生虫, 第8章 食品と異物・害虫 および第9章 食品衛生対策の項目を全て説明する。食品の衛生管理の基礎と法体系について理解を深める。		
成績評価の方法	中間試験および期末試験結果をもとに評価する。なお、試験を受けなかった場合はその理由により学則に則って対応する。 評価項目と割合(%) : 期末試験(100)		
テキスト	「食品衛生学(第1版, 新スタンダード栄養・食物シリーズ8)」一色賢司編, 東京化学同人		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	受講者は教科書を十分に活用し、予習をして授業に臨み、さらに復習することで理解度を深めるよう努めること。		

授業科目名	生態学		
担当教員氏名(助手氏名)	五味 正志		
研究室の場所	庄原キャンパス 3403研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、配布するプリントを用いて講義形式で実施する。授業の内容および進度は、学生の予習および復習を前提としたレベルを設定する。学生は、授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。場合によっては、レポートの作成・提出を求めることもある。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	学生便覧参照
履修要件	【21年度以降入学者】生命科学科，環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	【環境科学科のみ】中一種免（理科），高一種免（理科）		
キーワード	生態系，一次生産，群集，ニッチ，種間競争，島嶼生物学，生物多様性，個体群，齢構造，採餌戦略，対捕食者戦略，進化的安定戦略，性選択		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	現在，地球規模で生物多様性が減少しており，生態学についての知識は，生物多様性を保全するために必要不可欠な知識である。また，人類とそれ以外の生物との関わりを理解するためにも，生態学の知識は重要である。本講義のカリキュラム上の位置付けは，基礎教育と専門教育との間の橋渡しの役割を担うことである。専門教育を学ぶ上で，生態学的な視点から問題解決に取り組むことは，生命科学だけではなく環境科学においても重要性が増している。本講義において，生態学について十分に理解し，今後の教育・研究の基礎となる知識を習得することが本講義の目標である。		
授業の内容	本講義では，主に動物生態学についての基礎的な理論や考え方を中心に講義する。生態学では，基本的に個体レベル以上の現象を扱う。まず最初に，生態系について講義した後，群集，個体群，個体という階層レベルに沿って講義を進めて行く予定である。生態系では，一次生産力とエネルギー循環などを取り扱う。群集生態学では，保全生物学に深い関わりをもつ島嶼生物学や多様性に関する様々な問題などを取り扱う。個体群生態学では，個体群成長，齢構造などを取り扱う。個体の生態学では，採餌戦略，対捕食戦略，進化的安定戦略や性選択の理論，などについて取り扱う。また，生態学は生物進化と非常に密接に関係していることから，進化学の中で必要な部分について，講義内容と関連させながら紹介して行く。		
成績評価の方法	期末試験期間中に試験を実施し，試験90%と授業態度10%の割合で評価する。試験は指定された講義室（試験室）において指定された時間（90分）内で，プリントやノート類などの持ち込み不可で実施する。中間試験を実施し，場合によってはレポートを課すこともある。		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	嶋田正和・山村則男・粕谷英一・伊藤嘉昭 著『動物生態学 新版』海游舎，2005年 日本生態学会編『生態学入門』東京化学同人，2004年		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修者は，十分に予習・復習をして授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は，教学課の掲示板に掲示するか，講義中に口頭あるいは文書で指示する。		

授業科目名	遺伝子工学		
担当教員氏名(助手氏名)	奥 尚		
研究室の場所	庄原キャンパス 5402研究室		
オフィスアワー	前もって連絡の上, 随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って, 教科書等により講義形式で実施する。適宜教員のノートに従って内容の理解を図る。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	学生便覧参照
履修要件	【20年度以前入学者】 生命科学科 3年次対象 【21年度以降入学者】 生命科学科, 環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	遺伝子, 核酸, 発現, 組み換えDNA, ベクター, 形質転換		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	1970年代に確立した組み換えDNA技術は, 真核生物の遺伝子を大腸菌の中で増幅することを可能にし, さらにそれと共に発達してきた遺伝子操作技術により真核生物の分子生物学は急速に進歩した。即ち, 遺伝子操作は分子生物学の基礎領域のみならず, 生物機能を有効に利用する応用領域においても, 基本的な技術となっている。 本講義では遺伝子工学の分子生物学的背景と原理, 技術について述べると共に, どのように応用されているかについて述べる。これらを通じて, バイオテクノロジーの重要な柱である遺伝子操作技術を理解し, これを実際に利用するための知識を修得することを目標とする。		
授業の内容	1. 核酸の発見 2. 核酸の構造と研究法 3. DNAの複製 4. 遺伝子の発現 5. 細菌の遺伝的組み換え 6. 組み換えDNA実験 7. 植物における異種遺伝子の発現 などについて, 原理と応用例を交えながら平易に解説する。		
成績評価の方法	定期試験の成績(85%)ならびに出席状況(15%)で評価する。		
テキスト	遺伝子工学概論, 魚住武司著, コロナ社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	公衆衛生学		
担当教員氏名(助手氏名)	烏帽子田 彰 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	一般講義12時間 (レクチュアスタイル) 及びワークショップ3時間		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【20年度以前入学者】 生命科学科 3年次対象 【21年度以降入学者】 生命科学科, 環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	公衆衛生(学)の理念と実際を通して健康と社会について学ぶとともに、栄養と食品・食品安全が個人のみならず社会や国家・世界に果たす役割と重要性を理解すること。併せて医学・医療・健康に資するべく、環境衛生についての教養を深める。		
授業の内容	医学・医療の目指す一義的目標(狭義)とされる「健康と長寿」の基本理念である“正義(Justice/社会経済健康等の格差の是正の思想と方法論等)”を軸として、公衆衛生(Public Health/共同体としての組織的努力による「社会の健康の処方等」を描くこと)を学ぶ。このため、社会・地域の健康を予防・疫学・制度等の視点で捉えつつ、総体としての健康を担う社会医学の手法・実際などにつき講義・実習ならびに演習(ワークショップ)等により学習する。健康政策の最終目標(広義)である“生命の質・日々の生活の質・人生の質(=QOL/quality of life)の保障による個人～社会の満足・幸福・達成感等”について認識と理解と理解を深める。		
成績評価の方法	試験による評価(A, B, C, D)及び県立広島大学則に従う (ただし講義中の質疑及びワークショップ等と加味しA+とする)		
テキスト	NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第3版2012 南江堂		
参考文献	適宜配布する(パワーポイント及び配布資料等)。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話使用を控えること ・飲食物の机上留置などを控えること ・シラバスに従って予習を行うこと 		

授業科目名	応用微生物学		
担当教員氏名(助手氏名)	阪口 利文, 有馬 寿英		
研究室の場所	庄原キャンパス 阪口 : 3302研究室, 有馬 : 5201研究室		
オフィスアワー	随時, メールなどで確認してください		
授業の形式・方式	対面		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目	食品衛生, 【23年度以降入学者, 環境科学科のみ】中一種免(理科), 高一種免(理科)		
キーワード	醸造工業, 食品加工, 酵素, 農業生産, エネルギー, 元素資源		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	微生物が関与する産業, 人間生活について学び, 日常生活に関与し続ける微生物の利用内容と実情について理解することを目的とする。環境科学科では環境微生物学やキノバイオレメディエーションなどに深く関与する科目である。		
授業の内容	食品生産に活用される微生物の存在は有名である。本講義では食品生産をはじめ, 医療・衛生・環境・産業・農業に関与する微生物のイメージを紹介するとともに, 具体的な活用事例を講義で取り上げながら人間生活に関与し続ける微生物の利用内容について理解することを目的とする。なお, 受講生の人数によってはアクティブ型講義に変更することも考えているので受講意思の高い学生の履修を希望する。場合によっては履修制限(いわゆる足きり)も視野に入れている。少人数であればあるほど良い。アクティブ型の場合, 受講者数が35名以内20名前後であることが望ましい。初回講義に参加しなかったものは科目申請していても受講の意思なしと判断したい(とにかく初回講義への参加が重要である)。		
成績評価の方法	全講義出席は必須であるとともに最終試験を主要要素に, 各段階試験・レポートなどにより評価する。(出席が10回を切る受講生は自動的に試験採点を行わないので留意にこと), やる気のない者は初回講義からどんどん落としたい。		
テキスト	Brock Biology of Microorganisms (Brock 微生物学 Ohmsha)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	微生物学(必修)を履修していること(必須)		

授業科目名	化学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	江頭 直義, 橋本 温, 松本 拓也		
研究室の場所	庄原キャンパス 江頭: 5403研究室 橋本: 4302研究室 松本: 5205研究室		
オフィスアワー	江頭: 水, 木は随時 橋本: 随時対応 (要事前連絡) 松本: 随時対応 (要事前連絡)		
授業の形式・方式	実験室で2~4名の班をつくり, 各自実験を行う。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年生対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生【生命: 22年度以降入学者, 環境: 23年度以降入学者】		
キーワード	定性分析, 陽イオン, 沈殿, 濾過, 安全教育, ガラス器具, 天秤, タンパク質, ペプチド, アルデヒド, ケトン, アルコール, アミン		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>高校時代に自らの手で化学実験を行った経験がほとんどない学生のための入門実験の一つとして実施する。</p> <p>化学実験の基本的な定性・定量分析実験を実施しながら, 事故の防止対策と応急処置, 廃棄物の取り扱い, 実験結果の記録とレポートの書き方, そして天秤, 試薬とガラス器具の取り扱いなど専門実験に必須の技術, 知識の習得を目標とする。</p> <p>また, 実験について講義を行い, 実験課題の目的と操作の理解を徹底する。</p>		
授業の内容	<p>江頭教授: 化学実験に必要な安全知識, 天秤あるいはガラス器具の取扱(簡単なガラス細工を含む), 試料調整法, 滴定などに関する基本的な化学操作について説明し実習する。</p> <p>橋本准教授: 官能基の性質と有機定性試験について学び, 実際に有機物試料の定性試験に関する実験を行なうことにより, その原理を修得する。食品中の成分として卵白と牛乳のタンパク質成分を用い, それらの熱, 酸, アルカリそして金属イオンに対する反応を観察し, ペプチド結合, 窒素, 硫黄を含むタンパク質成分の基本化学反応を学習する。</p> <p>松本助教: 陽イオンの第一族から第六族を含む試料の定性分析を通じて, 呈色・沈殿反応と系統的分析の原理を理解し, 沈殿生成・濾過の基本的な化学操作を習得する。</p>		
成績評価の方法	出席及び実験レポートにより評価するので, レポートについては実験, 結果, 考察にわたる丁寧な記述が望まれる。出席点40点, レポート点60点とする。ただし出席しなかった場合はレポートを提出しても0点とする。		
テキスト	1回目の授業の時にプリントを配る。		
参考文献	レポートの書き方: 木下是雄『理科系の作文技術』中公新書 1981年		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>①実験は休まずに出席し, 積極的に取り組む必要がある。</p> <p>②実験内容を事前に予習し, 把握して実習に臨み, 効率的な操作が行なえるよう心掛ける。</p> <p>③異常が起こったときは直ちに教員に報告すること。</p> <p>④実験でおきる変化を注意深く観察することが大切である。</p> <p>⑤レポートは丁寧に書き, 期限までに必ず提出すること。</p>		

授業科目名	生物学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	堀内 俊孝, 大田 毅, 藤田 景子		
研究室の場所	庄原キャンパス 堀内：3501研究室 大田：5202研究室 藤田：5203研究室		
オフィスアワー	堀内・大田・藤田：随時		
授業の形式・方式	対面授業。実験書に従って、グループ別に実験を実施する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	学生便覧参照
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	生物, 基礎実験, 植物, 動物, バイオ, 顕微鏡, 酵素活性測定, 電気泳動, 希釈法, 検量線作成		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本実験は、教養基礎科目「生物学」での知識の体系付けを目的として、実験系基礎と位置づけ、基本的な生物実験の手法を楽しく学習させる。高校において生物学を履修していなかった学生にも理解できるように、基本的な実験手法を習得させる。本実験は、バイオ系・動物系・植物系の実験からなる。顕微鏡の基本的な使用法、科学実験における器具機材の基本的操作法を習熟させる。バイオ系実験では、ピペットマン操作、試薬調整、分光光度計の使用法、酵素活性の測定を学ぶ。動物系では、動物及び植物の基本的な構造と機能とファージDNAの分離と観察、植物系で、植物の光合成や環境応答を学習させる。		
授業の内容	3名の教員が実施するオムニバス形式の授業である。バイオ系と動物系の実験各2回と植物系の実験1回の合計5回の実験を行う。バイオ系の実験として、第1回目はピペットマン操作、バッファーの作製法、希釈標準溶液の調整および検量線の作成を行う。第2回目は酵素化学の実験として、サンプル調整法、分光光度計の使い方、酵素活性測定法およびデータ処理の方法を学ぶ。動物系の実験として、第3回目は動物と植物を形作る種々の細胞を光学顕微鏡で比較・観察し、細胞の形と役割、細胞機能の維持と細胞分裂を学ぶとともに、生物顕微鏡の操作方法を習得する。第4回目では、制限酵素によるDNAの切断と様々なサイズのDNAによる分離と観察方法を学ぶ。植物系の実験として、第5回目の実験では、ペーパークロマトグラフィーによる緑葉中の光合成色素の分離を通して、光合成について学ぶとともに、色素分離の原理や有機溶媒使用時の注意点を学ぶ。また、様々な光条件下で栽培した植物の形態を観察し、植物の器官の特徴や環境応答を学ぶ。		
成績評価の方法	出席状況と実験ごとに提出させるレポートあるいはスケッチを総合的に判断し成績評価する。		
テキスト	実験の開始時に実験書を配布する。適宜、実験ごとに参考文献を指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	5回とも出席すること。やむをえない理由で欠席する、あるいは欠席した場合には、すみやかに連絡すれば対処する。レポートは自力で書くこと。		

授業科目名	物理学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	加藤 一生, 原田 浩幸, 崎田 省吾		
研究室の場所	庄原キャンパス 加藤: 4202研究室 原田: 3701研究室 崎田: 4204研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	6人~7人で1グループをつくり実験を行う。グループ実験で得られた結果をもとに各人がレポートを作成し提出する。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	【25年度以前入学者】 必修 【26年度以降入学者】 選択
履修要件	【25年度以前入学生】 生命科学科, 環境科学科 1年次対象 【26年度以降入学者】 生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	加速度, 振り子, 音波, 電場, 磁場, 電磁誘導, 気体, 真空, 干渉, 光電効果, 光, 表面張力, 放射線		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	物理学は全ての物質科学の基礎であり, 物理学実験はそれを体験的に深く学ぶための良い機会となる。物理的実験手法の基礎技術を修得すると同時に, 自然をより深く理解するための観察眼を養うことができる。生命環境学部の専門教育科目には環境試料あるいは生体試料などいわゆるバイオマテリアルの分析などで物理実験の手法を用いることが多い。本授業は物理学に関連した自然科学の幅広い知識を現実の問題解決に役立てる素養を身につける上で重要な役割を担っている。具体的には, 本授業での実験を通して物理学Iの内容を感覚的により深く理解することができる, さらにバイオサイエンスにも不可欠な物理学の基本的な考え方を学ぶことができる。		
授業の内容	力学, 電磁気学, 熱力学ならびに光学などの基礎的な実験を行い, そのデータ解析と結果の考察を行う。いずれも比較的簡単な実験であるが現代の多くの高度な科学技術の基本原則となっており, それらを学ぶことで自然をより深く理解する技量を習得できる。たとえば, 身近でありながらふだん実感することのない重力加速度, 表面張力ならびに放射線の測定実験を行う。また, 現代の生活から切り離せない電気磁気的作用を電磁石の作成と磁束密度の測定, 簡易発電機の原理に関する実験, などを通して学ぶ。また現代科学を学ぶ上で必要となる波動についての基礎的な理解を音に関する実験行い深める。冷蔵庫やクーラーなど冷却機の原理に関する気体の基礎的な性質を実験的に理解する。また, 電子顕微鏡, 超遠心機, 質量分析器など精密機器の作動原理を理解するために真空に関する実験も行なう。さらに, 光の干渉実験, 光電効果の実験を通して物理学だけでなく微量元素分析, バイオテクノロジーなど多くの分野で利用されている光の基本的な性質を理解していく。		
成績評価の方法	レポートで評価する。		
テキスト	実験内容の説明を書いた複写資料教材を無料で配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実験内容を十分に理解してから開始しなければ, 実験に失敗するばかりでなく危険でもある。実験中の事故を防ぐために, 授業開始時に質問の時間を設けるので, 疑問点は必ず質問しておく。グループの全員でよく相談し, 実験の「目的」を明確に設定してから実験を始めること。実験データは各自で記録し相互に確認しあうこと。実験の「結果」は全員の議論を通して各人の理解を深めることが大切であるが, 「考察」は他者と異なる独自の考え方を披露すること。他者とまったく同一の文章がある場合は双方を減点する。		

授業科目名	地学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	林 武広 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	受講者自らが各課題に沿った観察、実験を行う実習形式の対面授業。夏期休業中または休日等に集中で実施する。実習課題毎にワークシートを提出。		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【20年度以前入学者】 環境科学科 1年次対象 【21年度以降入学者】 生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科)		
キーワード	地球, 宇宙, 大気, 天体の運動, 星座, 惑星, 天体観測, 天体望遠鏡, 気象観測, 天気図, 岩石・鉱物, 地形, 地層, 古生物, 偏光顕微鏡観察, 野外観察, コンピュータ実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	中・高等学校教員免許(理科)取得科目であることを前提として, 中・高等学校の理科・地学分野の学習に関連する実験・実習を包括的に扱い, さらに発展的な内容についても実験・実習を行う。加えて地学に関する情報処理についても実習も行い, 中・高校理科を指導するための素養を高めるとともに地学的な自然の見方, 考え方を深める。 本授業科目は生命科学科・環境科学科の2年次専門科目に位置づけられているので, 自然環境を学ぶ上での基礎的・基本的知識と観察・実験技能を身につけることもねらいとしている。 なお, 本授業は高校での「地学」未履修を考慮し, 地学の基礎を理解するための解説もふんだんに取り入れる。		
授業の内容	天体, 気象, 地形・地質およびコンピュータ活用に関する各種の実験と実習を行う。主な内容(課題)は次の通りである。 (1) 天体関連: 太陽黒点およびプロミネンスの観測, 月の満ち欠け(作図題), 太陽の南中高度(作図題), 金星の運動(作図題), 日射計による太陽エネルギー測定, 簡易分光器の製作と光の観察。 (2) 気象関連: 露点の測定, 気圧の実験, 気象通報データによる天気図作成, 雲の発生に関するモデル実験, ハイビジョン映像による雲の観察, 大気の上昇に伴う温度変化(作図題) (3) 地形・地質関連: 地震の走時曲線と震源の推定(作図題), 化石の観察, 鉱物の観察, 各種岩石(火成岩, 堆積岩, 変成岩)の観察と鑑定実習, 偏光顕微鏡による岩石プレパラートの観察。 (4) コンピュータ活用: 岩石の化学成分に関するデータ処理とグラフ化, google earthを活用した地球の大地形の観察, 天体シミュレーションソフト(フリーソフト)。 なお, 野外実習は天候の状況によって日程および内容を一部変更する場合がある。		
成績評価の方法	受講者自ら観察・実験を行う実習形式の授業であるので試験は課さず, 出席(60%)と各課題毎の提出物(40%)によって評価する。		
テキスト	スクエア最新図説地学(第一学習社)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	地学の基礎的理解に関する解説を必要に応じて行うので, 必ずテキストを持参すること。また, 野外実習では活動しやすい服や靴などを用意することが望ましい。やむを得ず欠席した場合には, 必ず申し出て, 欠席のため未習となった課題を行うこと。		

授業科目名	フィールド科学		
担当教員氏名(助手氏名)	学部教員		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。教科書は特に定めない。オムニバス形式。授業内容に関連のある本学の教員，または，授業内容に関連する地域専門家，行政担当者等。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	学生便覧参照
履修要件	【22年度以降入学者】生命科学科，環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	フィールド，中山間地域，地域振興，地域資源，地域自然，食文化，環境保全，6次産業		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域（特に備北地域）の自然，文化，環境保全，産業についての概要を説明できる。 2. 地域の課題について，その解決に向けて大学がどのように関わりを持っているか説明できる。 3. フィールド科学の実習に必要な技法（文献探索，調査法，データ分析，植物資源の栽培法，食品加工）についての知識を有する。 <p>カリキュラムとの関連フィールド科学教育分野の基幹科目であり，入門的内容である。次年度配当のフィールド科学実習で取り上げる実習内容の基礎を学び，実習に直接繋がる授業である。</p>		
授業の内容	前半は，大学が立地している備北地域の理解を目的にしている。地域の文化，食品，環境保全に関する実践的な取り組みについて，専門の本学教員および外部講師による講義を行う。なお，外部講師の都合により，日程および内容については若干の変更の可能性がある。第12回からの4回は，フィールド科実習に必要な基礎知識を習得することを目的としている。		
成績評価の方法	原則として第2回～第11回講義に関しては，毎回簡単なレポート（小テスト）を講義時間内（15～20分程度）に作成し講義終了時に提出する。第12回～第15回講義に関しては，期末試験を行う。 レポート60点，試験40点で総合評価とする。		
テキスト	教科書は定めない。毎回，プリント資料を配付する。参考文献等は，随時，紹介する。		
参考文献	講義の中で随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>日頃より地域の自然に親しみ，地域の文化や社会状況に関心を持つこと。 地域との交流事業などに積極的に参加し，地域理解に努めること。 講義には積極的に参加すること。 2年次配当のフィールド科学実習の履修には，本講義の単位修得が必須である。 遅刻は，厳禁であり，減点の対象とする。 講義中に講義とは無関係の私物を使用する等の場合は厳しく対処する。</p>		

授業科目名	フィールド科学実習		
担当教員氏名(助手氏名)	甲村浩之《奥尚, 西村和之, 崎田省吾, 福永健二, 村田和賀代, 吉野智之, 山下泰尚, 津田治敏, 藤田景子》		
研究室の場所	附属フィールド科学教育研究センター(6501)		
オフィスアワー	随時(事前に連絡のこと)		
授業の形式・方式	実習形式。受講者をa, bの2グループの日程(55名上限×2グループ)にわけ, 各グループは隔週で受講する。通年で15回開催される。 附属フィールド科学研究センターにおいて, 圃場, 水田, 食品加工場, 環境工学棟などの施設を活用し, 作物栽培技術, 食品加工, 環境課題に関わる技術について実地に習得する。さらに, 中山間地の実情や畜産関係施設, 地域活性化に取り組む事業などについて現場に出向き見学を行う。		
単位数(時間数)	3単位(90時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【22年度以降入学者】生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	フィールド, 作物栽培, 野菜栽培, 花き栽培, 水稻栽培, 果樹栽培, 牧草栽培, 食品加工, 地域資源, 食文化, 病害虫管理, 環境分析, 環境問題		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 野菜の栽培技術についての概要(土作り, 定植, 施肥, 栽培管理法)を説明できる。 2. 水稻の栽培技術についての概要(播種, 田植え, 栽培管理, 収穫, 品質評価)を説明できる。 3. 果樹(リンゴ, ナシ, ブドウ, カキ)の栽培技術についての概要(摘花・摘果, 収穫管理, 病害防除)を説明できる。 4. 1~3の一部については, 実地に作業ができる。 5. 身近な廃棄物である廃油を通して廃棄物処理・処分の必要性や水環境への影響, 廃棄物有効利用の是非を考察・説明できる。 6. 食品加工に関する基本技術が説明できる。 <p>地域産業の特色, 地域の課題, 6次産業について説明できる。 カリキュラムとの関連フィールド科学教育分野の基幹科目であり, 入門的内容である。 1年次の「フィールド科学」前半で学習した地域の実情について実際に見学をして, 地域産業の特色, 課題を学ぶ。また, 「フィールド科学」後半で学習した, 栽培, 加工, 環境分析に関わる基礎技術を学ぶ。</p>		
授業の内容	附属フィールド科学教育研究センターの野菜・花き・果樹圃場, 水田, 飼料畑, 食品加工場, 環境工学棟などの施設を活用し, 野菜類, 水稻, 果樹, 牧草などの基本的な栽培技術, 地域食材や伝統食材の加工法, 土壌環境の調査技術や廃油の再利用化等環境課題に関わる技術について実地に習得する。さらに, 中山間地の実情や畜産関係施設, 地域活性化に取り組む事業などについて現場に出向き見学, 調査等を行う。		
成績評価の方法	実習態度と毎回のレポートの総合点により評価する(実習態度40%, レポート60%)。		
テキスト	初回に実習の冊子資料を配付するので各回に持参すること。また, 必要により随時プリント資料を配布する。参考文献等は, 随時紹介する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>本実習は1年次配当の「フィールド科学」の単位修得を必須とするが, 履修状況を考慮する場合がある。ただし, 生命科学科食品資源科学コース専攻者は, 「フィールド科学」の単位修得に関係なく履修できるが, 後期に同講義を履修する前提で認める。なお, 実習の受講者が110名を超える場合は, 「フィールド科学」講義の成績を勘案して選抜を行う。また, 3年次「フィールド科学卒論」の着手には, 必須の科目である。</p> <p>野外での作業が多いので, 動きやすく汚れてもよい服装で参加すること。ハイヒール・スカートなどは禁止。長靴, 田靴, 軍手や雨ガッパ等はフィールド科学教育研究センターに準備している。また, 夏期は帽子を着用し, 各自飲料水やタオル等を持参するなどして熱中症の防止に努めること。秋・冬期も野外作業があるので気温を考慮して防寒に努めること。特に秋にはスズメバチが発生することもあり, 黒い帽子や服の着用は避ける。</p>		

授業科目名	遺伝学		
担当教員氏名(助手氏名)	入船 浩平		
研究室の場所	庄原キャンパス 5501研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面方式の授業である		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	核酸, メンデルの法則, 進化, 遺伝子, 細胞分裂, 染色体, 連鎖, 核型, 突然変異, ゲノム, 細菌, バクテリオファージ, 転写・翻訳, 分子遺伝学, 遺伝子制御		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	生命科学科の学科専門科目であり, かつ, 基幹科目の1つである。3, 4年次で生命科学のどのような方面に進むとしても生命科学の基盤的な科目として位置しており, 他の専門科目ときわめて深い関連があるため, なるべく修得することが望ましい科目である。		
授業の内容	<p>「キャンベル生物学」教科書の第3部遺伝学(第13章～第19章)におおよそ従って講義する。メンデル則と遺伝子, 遺伝の染色体的基礎, 連鎖と遺伝地図, 遺伝子構造と遺伝子発現機構, 細菌とバクテリオファージの遺伝学, 真核ゲノムの構造・調節等である。</p> <p>講義は, 教科書は, 講義分を配布する。次回までに予習しておく。講義では, 予習をもとに質問から入る。その後に予習テストをおこなう。補足講義をおこない, 練習問題を解く。最後に問題作成をおこなう。時間があればグループで相互に作成された問題について討議する。</p>		
成績評価の方法	試験の成績と出席(毎回の小テスト等)で評価する。補充試験は行わない。		
テキスト	キャンベル生物学(小林興監訳, 丸善)資料や練習問題は, この教科書から準備する。教科書は, 必ずしも必携ではないが, 購入を勧める。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	教科書や講義で不明の所は質問すること。自学のノートを作ること。成績不良者についてノートの状況により成績に加味する場合がある。		

授業科目名	生理学		
担当教員氏名(助手氏名)	山下 泰尚		
研究室の場所	庄原キャンパス 3603研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業です。授業日程にしたがい、講義形式で実施します。 講義スライドを用います。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	学生便覧参照
履修要件	生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	生命現象, 機能, 哺乳動物		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	生物には固有の形があり、活動しています。生物の固有の形については生体機構学と呼ばれる学問分野で論じられます。残されたもう一方の生物の活動について、その機能と目的について論じるのが生理学です。したがって、生命科学という学問体系においては、生体機構学で習得した生物の形態のイメージに、生理学で得られた機能的知識が加わって、生物のイメージが静止画から動画へと展開することになります。本講義では、生物の構造単位が如何にして制御・調節されるかについての基礎を習得することを目標とします。		
授業の内容	生理学は、1分子から群体までの様々な対象に対して論じられます。本講義では、主に、細胞生理、感覚、神経、消化・吸収、腎臓機能、血液、循環器、呼吸器系、生殖器などの器官ごとの生理的メカニズムについて論じます。		
成績評価の方法	期末試験(60点)＋小テスト(40点)＝100点で評価します。15回の講義の1/3より多く欠講した者(つまり6回以上の欠講)については、期末試験を受けても評価しませんので注意して下さい。欠席届を提出しても欠席扱いとします。		
テキスト	講義資料を随時配布します。		
参考文献	「生理学テキスト」文光堂第6版、「獣医生理学」文永堂第2版		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	細胞工学		
担当教員氏名(助手氏名)	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従い、主に下記テキストの各章に関する講義を行う。また、学生による課題発表形式を併用する。毎回、小テストおよびレポート課題を課す。講義出席、小テスト・レポート提出および定期考査を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【20年度以前入学者】 生命科学科 3年次対象 【21年度以降入学者】 生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	細胞培養, 有用物質生産, ガン細胞, 正常細胞		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	「細胞とは何か?」を動物・植物・微生物のそれぞれの細胞を対比させながら、その構造と機能について基本概念を講述する。そして、「細胞を調べる方法」として細胞培養技術に関して解説して、それらの基礎理論がバイオ産業においてどのように関連しているかを具体例を上げて解説する。キートピックとして「動物実験代替法」等を取り上げ、それぞれの基礎理論と応用技術を組み合わせることにより理解を深めて、さらに問題解決能力も身につくように講義を進めていく。		
授業の内容	細胞を扱うバイオ系研究者および技術者を養成する上で重要かつ実際的な研究手法や知識を体験的に習得することを指向する。それぞれの実験操作の原理を理解し、各種実験装置の操作方法を体得するとともに、実験データの評価判断法に習熟して、さらに研究法を工夫、開発できる応用力が身につくことを目指す。具体的には細胞培養技術や細胞内特定物質の解析法等について学習する。		
成績評価の方法	定期考査50%, 課題レポート30%, 小テスト20%の割合で評価する。出席状況は重視する。試験は指定された教室(試験室)内で持ち込み不可で実施し、指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。		
テキスト	主なテキストとして村上浩紀・菅原卓也 著 『細胞工学概論』 コロナ社 (1994)およびを授業開始時に配布する『複写資料教材』を使用する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	生物工学		
担当教員氏名(助手氏名)	阪口 利文		
研究室の場所	庄原キャンパス 3302研究室		
オフィスアワー	随時、メールなどで確認してください		
授業の形式・方式	概ね対面方式であるが、一部参加的な態度を要求する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	学生便覧参照
履修要件	【26年度以降入学者】生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目	バイオ技術者認定試験など		
キーワード	動植物細胞、遺伝子、テクノロジー、生体分子、微生物		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	全ての生命工学に関する技術の基盤となる講義を行う予定である。バイオ技術者試験を意識した講義を実施する予定であり、受講者がバイオ技術者試験を目指せることゴールとしたい。		
授業の内容	生物機能の工学的利用という生命工学の理解を様々な生命現象、生物種を用いた事例を通じてその範疇と技術を理解することを目的とする。各トピックとともにバイオ技術者試験の内容を中心に講義を進める予定である。		
成績評価の方法	記述式試験を考えているが、一般的なテストも随時行う。受講生の態度いかんでもある。毎回試験も「アリ」である。		
テキスト	生物工学基礎 講談社サイエンティフィック ISBN4-06-153503-Xなど		
参考文献	バイオ技術者試験の問題集なら何でも構わない		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	居眠り、遅刻者は厳しく排除する。何年でも再履修を受けていただきたく思う。それに伴う留年は自己責任であるため、一切の救済措置を取らないことを明記しておく。無断欠席3回で試験の受験資格を失うので注意すること。毎回の講義出席を要求する。当たり前であるが・・・		

授業科目名	植物組織培養学		
担当教員氏名(助手氏名)	荻田 信二郎		
研究室の場所	庄原キャンパス 4601研究室		
オフィスアワー	毎週金曜日9時から13時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約で対応。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主として講義形式で行う。一部、課題を設定して学生からの報告およびディスカッション形式を実施し、キーワードに関する専門知識の実践的理解を目指す。課題のディスカッションにおける疑問点や改善点に関するレポートを作成・提出することにより、積極的な知識の習得を行うことが義務付けられる。習得の達成度は期末試験で確認する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	学生便覧参照
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	全能性、植物細胞・組織培養、形態形成、代謝、遺伝子		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>植物の生長や分化、環境との関連性、資源利用などに興味を持つ学生を対象にして、植物の形態変化および代謝に関する基本知識を習得するとともに、植物細胞・組織培養技術の種類と利用形態を理解することを目指す。</p> <p>学生は次の2項目の習得を到達目標とする。</p> <p>① 植物の形態形成と代謝反応の基礎が理解できる。</p> <p>② 植物細胞・組織培養技術の確立手順について自ら考えることができる。</p>		
授業の内容	<p>植物バイオテクノロジー領域で基盤技術の一つである細胞・組織培養技術について、まず、技術背景から培養系確立までの流れを概説する。次に講義の中で植物の形態形成や代謝の仕組みならびに各種培養方法の詳細を解説し、植物組織培養系の確立をモデルとした課題のディスカッションをグループ毎に行い、学生に問題解決の意識を定着させる。</p>		
成績評価の方法	ディスカッションへの参加(30%)、レポート(30%)、期末試験(40%)により達成度を総合的に評価する。達成度60%以上をもって合格とする。		
テキスト	<p>図解 植物分子細胞生物学(オーム社) ISBN:4274197298</p> <p>組織培養辞典(学会出版センター) ISBN: 4762267368</p>		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>講義内容に関する疑問点等は、①上記図書を参考に学生相互で調べる。②オフィスアワー等を活用して担当教員に質問する。など、後回しにせず速やかな理解に努めること。遅刻は厳禁とする。</p>		

授業科目名	免疫学		
担当教員氏名(助手氏名)	稲垣 匡子		
研究室の場所	庄原キャンパス 5502研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	学生便覧参照
履修要件	生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	生体恒常性、生体防御、感染、自己と非自己、自然免疫、獲得免疫、免疫担当細胞、抗原・抗体、サイトカイン、自己免疫、移植		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	免疫学は、感染症に対する生体防御機構として位置づけられてきた古い歴史を持つ学問であり、現代では免疫反応は、がんや自己免疫疾患、移植拒絶のような感染とは直接あまり関係のない現象も制御することが明らかになっている。近年、分子生物学の発展とともに、免疫機構の詳細は分子・細胞・個体レベルで日進月歩の解明が進んでいる。そのため医療科学、生命科学、健康科学、食品・栄養科学において免疫学の知識は不可欠であり、その正しい理解の習得を目標とする。		
授業の内容	本講義では、「自己と非自己の識別」から複雑な免疫応答の仕組みを理解できるよう、前半は免疫担当細胞および液性因子の種類や機能、免疫応答の原理を重点的に講義を行う。後半では免疫機構の破綻による疾患の例を挙げながら、前半で学んだ免疫応答の重要性の理解がさらに深められるよう指導する。さらに抗体医療やワクチンなど身近な例を挙げ、社会の中でどのように免疫学が応用され役立っているかを学習する。		
成績評価の方法	評価は期末試験100%とする(持ち込み不可)。学期途中で行う小テストは、学生の習熟程度のチェックであり、評価には入れない。		
テキスト	講義内容に沿った資料プリントを配布する。授業の前の週に予習する項目を記載したプリントも配布するので、必ず予習をすること。 参考図書：エッセンシャル免疫学(メディカル・サイエンス・インターナショナル、監訳 笹月健彦)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	免疫学を学ぶことを通じ、生命科学、医療科学、健康科学、食品・栄養科学への興味と関心を高めるよう積極性を持ち受講すること。		

授業科目名	資源植物学		
担当教員氏名(助手氏名)	入船浩平, 福永健二, 甲村浩之, 野下俊朗, 藤田景子		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに従ってください。		
授業の形式・方式	対面授業。上記教員で分担してひとつの講義科目とする。テキスト, 板書や当日配布するプリントなどに従って授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	植物学, 農学, 食用作物, 飼料作物, 工芸作物, 繊維植物, 油料植物, 嗜好料作物, 香辛料作物, ハーブ, 糖料作物, 薬用植物, 遺伝資源, 分類, 起源, 品種改良, 食品, 食文化, 栽培, 加工, 利用		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	われわれは生活の中で様々な植物を直接的・間接的に利用している。本講義では、初回に人類の利用する植物の全体像を俯瞰するとともに栽培植物の起源と分類について理解する。二回目以降は、その中でも特に日常生活での関わりが深いものや世界的に見て重要な作物について植物学観点や現在の栽培や利用の現状といった観点から各論的に講義する。主要な作物や世界的に重要な作物について基本的なことが理解できることを目標としていきたい。日常生活の中で食べているものや使っているものがどうい植物に由来するものなのか理解を深めてほしい。本講義は2年次配当の生命科学科共通専門科目であり、1年次開講の食品資源学概論, 2年前期開講の基礎植物生理学などを受けた内容となっている。また、食品資源科学コースの農学系科目(作物学、植物遺伝育種学、植物病理学など)の基礎となるものであり、生物資源化学や食品関連の科目、農産物貿易論などの農業経済系の科目とも関連が深い。理解を深めるために2年次通年のフィールド科学実習も履修することを強く薦める。なお、公務員試験(農学)にも含まれる内容である。		
授業の内容	初回に人類の利用する植物についての概論と分類についてふれ、栽培植物の起源について概論する。二回目以降は各論的にさまざまな植物の植物学的な位置づけや国内外における栽培や利用の現状について解説する。具体的には、食用作物(イネ・麦類, トウモロコシ, 雑穀類, ジャガイモ・サツマイモなどのイモ類, ダイズなど豆類), 工芸作物(繊維植物, 油料作物, 嗜好料作物, 糖料作物, ハーブ・香辛料, 薬用植物), 飼料作物という内容となる予定である。		
成績評価の方法	試験100%		
テキスト	テキストは使用せず, プリントを配布する。		
参考文献	農文協農学基礎シリーズ (作物学の基礎I 食用作物) 「作物栽培の基礎」(堀江武ほか著, 農文協) 「小学館の図鑑 NEO 野菜と果物」, 今井 勝 / 平沢 正「作物学」 文永堂 など, 講義の中で随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	・他の受講生の迷惑になる行為(私語など)は, 退出を命じることもあります。試験における不正行為については学則にしたがって対処します。		

授業科目名	基礎植物生理学		
担当教員氏名(助手氏名)	福永 健二		
研究室の場所	庄原キャンパス 3203研究室		
オフィスアワー	随時（事前にe-mailなどで連絡のこと）		
授業の形式・方式	対面授業（配付資料とパワーポイントを使用）		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免（理科），高一種免（理科），食品衛生		
キーワード	植物生理学，形態，多様性，生活環，植物栄養，光合成，代謝，形態形成，植物ホルモン，環境適応，農学，植物学，ゲノムサイエンス，モデル植物		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	植物学の基礎である植物生理学とそれに関連する植物の形態や分類について理解し説明できるようになることを目標とする。植物の基本的な生活環や，生存に必要な養分，光合成のメカニズム，2次代謝物質，植物ホルモンなど，動物とは異なる植物の生理について理解し説明できるようになることを目標とする。また，モデル植物やゲノムサイエンスの知識を用いた近年の研究の成果についても学習し最新の植物科学にふれるきっかけとする。本講義は植物系の基礎となるもののひとつであり，他の植物関連の講義・実習とあわせて受講されたい。また，これを機会に関連する教科書・書籍などを読み理解を深めることを望む。		
授業の内容	植物は動物と異なり動くことができないので，動物とは異なった仕組みで環境に適応しなければならない。 本講義では，動物とは異なる植物の適応のメカニズムについて学習する。 内容としては，植物と動物の違い，植物の分類と学名の概説，植物の生活環（休眠，発芽，成長と分化，栄養成長と生殖成長，形態形成，花芽分化，光周性，春化，開花・結実，老化），植物と栄養（水，無機塩類，窒素固定，光合成），2次代謝，植物ホルモン（オーキシン，ジベレリン，サイトカイニン，エチレン，アブシジン酸，ブラシノステロイドなど）などである。農学的な応用についても学ぶ。また，モデル植物やゲノムサイエンスの知識を使った研究についても学ぶ。花成ホルモンや新しい植物ホルモン・ストリゴラクトンなどを含めた最新の研究にふれるきっかけとし，関連する書籍などで理解を深められるようにする。		
成績評価の方法	試験100%（持ち込み不可である）。試験は，記述や基礎的な用語に関する正誤問題で植物生理学の基礎の理解をはかる。授業の途中で覚えてほしいキーワードを示していくので試験に向けてまとめられたい。試験は110点満点のものとし60点以上を合格とする。		
テキスト	教科書は特に定めない。配布するプリントにそって講義をすすめる。参考図書・推薦図書など講義中に紹介する。		
参考文献	テイツ/ザイガー植物生理学<+9784563077846+> キャンベル生物学<+9784621078365+> ベーシックマスター植物生理学<+9784274206634+> しくみと原理で解き明かす植物生理学<+9784785352295+> 植物の生存戦略<+9784022599216+> など		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毎回，参考文献の対応する箇所を示すので予習復習をすること。 受講に当たっては社会常識と学則にしたがうこと。		

授業科目名	毒性学		
担当教員氏名(助手氏名)	稲垣 匡子		
研究室の場所	庄原キャンパス 5502研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【21年度入学者】生命科学科, 環境科学科 3年次対象 【20年度以前, 22年度以降入学者】生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	生体恒常性、生体防御、毒性、解毒、薬物代謝、薬効、食品添加物、医薬品、安全性評価、リスクアセスメント、		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	毒性学は、化学物質の有害性を研究する実践的な学問であると同時に、化学物質に対する生体防御反応を探る学問でもある。現在我々が日常的に接している医薬品・食品添加物・環境化学物質および天然化学物質が、生体に及ぼす影響を分子・細胞・個体レベルで理解することを目標とする。		
授業の内容	本講義では、生体異物に対する恒常性維持機構や有害物質に対する解毒機構、さらに毒性発現機構について基本的な知識を講義する。次に、医薬品・食品添加物・環境化学物質および天然化学物質の有害性について講義する。さらにこれらの有害性を予測する知識や技術について解説し、身につけられるよう指導する。		
成績評価の方法	評価は期末試験100%とする(持ち込み不可)。学期途中で行う小テストは、学生の習熟程度のチェックであり、評価には入れない。		
テキスト	講義内容に沿った資料プリントを配布する。授業の前の週に予習する項目を記載したプリントも配布するので、必ず予習をすること。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	毒性学を学ぶことを通じ、生命科学、健康科学、食品科学、環境科学への興味と関心を高めるよう積極性を持ち受講すること。		

授業科目名	タンパク質工学		
担当教員氏名(助手氏名)	小西 博昭		
研究室の場所	庄原キャンパス 5301研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	タンパク質, 酵素, アミノ酸, 遺伝子, ゲノム, プロテオーム, プロテオミクス, 活性制御, タンパク質相互作用, 翻訳後修飾, タンパク質分解		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>生物を形作るための設計図である遺伝情報をもとに多種多様なタンパク質が合成される。本講義では, 生命維持に不可欠な個々のタンパク質機能を発揮するための下記の条件について主に解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝情報からの正しいタンパク質の翻訳。 2. タンパク質の構造変化と活性制御。 3. タンパク質翻訳後修飾 (リン酸化, アセチル化, メチル化など)。 4. タンパク質分解。 <p>これらを理解した上で, 人為的タンパク質の改変 (エンジニアリング) について自らが発想し, 各々の研究面で応用するための基礎を習得することを目指す。</p>		
授業の内容	<p>タンパク質は生物種個々が持つ遺伝情報に基づき合成される。その個々のタンパク質それぞれが存在意義ならびに複雑な機能制御機構を有しているため, 原核生物からヒト由来のすべてタンパク質の機能制御機構に応用できるような概念を本講義内で示すのは困難である。そこで, これまでの専門である「細胞情報伝達」の領域において重要な役割を担うタンパク質群に焦点を絞り, あくまで工学や応用を意識した見地から下記について概説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々なリガンドに対する細胞膜上の受容体。 2. アゴニスト, アンタゴニストについて。 3. 細胞内におけるタンパク質複合体の機能的形成。 4. タンパク質リン酸化とリン酸化酵素。 5. リン酸化カスケード。 6. 情報の核内への伝達と遺伝子転写制御。 <p>また, 遺伝子工学を用いたタンパク質の人為的改変や構造解析, 質量分析装置によるタンパク質の網羅的解析や翻訳後修飾解析の概念と実例について解説する。</p>		
成績評価の方法	試験 80%, 出席 20%		
テキスト	特になし。授業のスライド資料の抜粋を毎回配布する予定。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	天然物有機化学		
担当教員氏名(助手氏名)	野下 俊朗		
研究室の場所	庄原キャンパス 5401研究室		
オフィスアワー	月曜18:00-19:00 (他の時間も可。その場合、事前に連絡のこと。)		
授業の形式・方式	対面, プリントと板書を中心に講義する		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	【20年度以前入学者】 必修 【21年度以降入学者】 選択
履修要件	生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	植物, 微生物, 二次代謝産物, 生物活性化合物, 天然物の分離・構造決定, 生合成, 分子構造と生物活性		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>講義の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天然物有機化学の果たして来た役割, 果たす役割を説明できる。 ・天然有機化合物を化学構造から分類し, それらの生合成経路を概説できる。 ・天然有機化合物の資源としての有用性について, 具体例をあげて説明できる。 ・天然有機化合物を介した生物間の相互作用を列挙できる。 ・天然有機化合物の代表的な抽出法, 分離精製法を概説できる。 ・天然有機化合物の構造決定法について概説できる。 <p>カリキュラム上の位置付け天然物有機化学は, 生命現象に関わる機能性物質の解析や, 生理現象発現における機能性物質の機能解明など分子・細胞レベルで生命科学に深く関わっている。</p>		
授業の内容	<p>1回:天然物有機化学概論①, 2回:天然物有機化学概論② 3回:ポリケチドの生合成について, 4回:代表的ポリケチド系天然物の化学構造と生物活性 5回:イソプレノイドの生合成について, 6回:代表的イソプレノイド系天然物の化学構造と生物活性 7回:フェニルプロパノイドの生合成について, 8回:代表的フェニルプロパノイド系天然物の化学構造と生物活性 9回:アルカロイドの生合成について, 10回:代表的アルカロイド系天然物の化学構造と生物活性 11回:海洋生物により生産される特異な天然物の化学構造と生物活性, 12回:微生物により生産される特異な天然物の化学構造と生物活性 13回:天然物有機化学の研究法について, 14回:天然有機化合物の全合成について 15回:まとめ</p>		
成績評価の方法	期末試験の成績による。		
テキスト	テキストは指定せずプリントなどを使用する。		
参考文献	資源天然物化学(秋久 俊博 他:共立出版)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	有機化学の基礎的な知識があることを前提とした講義である。		

授業科目名	食品化学		
担当教員氏名(助手氏名)	羽倉 義雄 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業および課題に対する演習形式の授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	食品, 化学, 成分, 保存, 調理と加工		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	食品化学に関する基礎的な知識を習得し, 食品生産における食品化学の役割を理解することを目的とする。		
授業の内容	食品の機能, 食品の成分, 食品の化学反応, 保存, 調理と加工に関する講義を行う。理解を深めるために, 講義内容に対応する課題を与え, 課題に対する調査・発表・ディスカッション形式の演習を行う。		
成績評価の方法	課題に対する発表やレポート提出などにより総合的に評価する。		
テキスト	特になし。		
参考文献	必要に応じて提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	機能性食品工学		
担当教員氏名(助手氏名)	吉野 智之		
研究室の場所	庄原キャンパス 4602研究室		
オフィスアワー	随時。場所は教員研究室。事前に予約することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書・参考文献の各章に関する講義形式で実施する。1回の講義につき1章程度の講義を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	機能性, 疾病予防, 健康補助食品, 特定保健用食品, 栄養機能食品, 特別用途食品, アレルギー疾患, 食物アレルギー, 免疫		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目では、食品の栄養と病気との関わりを主眼において講義を行う。本科目の目標は「食品の機能性」を理解することである。食品の機能性を理解することは、様々な生活習慣病の原因のひとつである誤った食生活の改善に役立つと考えている。</p> <p>また、本科目は生命科学科の専門科目に区分されている。本学科の特色のひとつである食品全般を学ぶ「食品資源科学」に、食品の機能性を通して、当該分野の科目のひとつとして位置づけられている。</p>		
授業の内容	<p>現在の社会は、長寿社会・生涯学習社会に向かうことが不可避となっている。そのため、食に対する様々な要求があり機能性食品の需要が増加している。食品の主要成分の物理的特性や相互作用、食品成分の化学的特徴を解析する手法や機能性評価手法を概説する。食品工学概論や主要成分(水、炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルなど)、機能性非栄養素について解説する。さらに、機能性を有したままの食品加工法やそれらの機能性評価方法についても解説する。</p>		
成績評価の方法	中間試験40%および期末試験60%の割合で評価する。中間試験および期末試験は指定された教室内で、指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。		
テキスト	複写資料教材を授業開始時に無料で配布する。		
参考文献	アクセス生体機能成分, 管理栄養士・栄養士のために, 五明紀春, 技報堂出版 (2003)。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。</p> <p>試験等については、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。</p>		

授業科目名	栄養化学		
担当教員氏名(助手氏名)	田井 章博		
研究室の場所	庄原キャンパス 4604研究室		
オフィスアワー	事前連絡の上適宜実施		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	学生便覧参照
履修要件	【26年度以降入学者】生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	糖質, タンパク質, 脂質, ビタミン, ミネラル, 消化・吸収・代謝, 生理活性		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	生命を維持している栄養成分の化学構造, それらの消化・吸収・代謝過程について理解することを目的とする。さらに, 栄養成分の機能や健康への関わりについて理解することも目的としている。本科目は, 生命科学の基礎に位置づけられる。		
授業の内容	我々が生命活動を維持する上で栄養成分の摂取は必要不可欠である。本講義では栄養成分の摂取, 消化吸収, 生体内での代謝や機能, 健康の維持・増進, 生活習慣病の予防など幅広い領域について解説する。主に3大栄養素である糖質, タンパク質, 脂質に関して, その化学構造, 代謝, 栄養, 食品としての機能性について学習する。また, ビタミン, ミネラルの機能についても学習する。		
成績評価の方法	小テスト, 期末試験, レポート等により総合評価する。試験はテキストやノート等持ち込み不可で実施する。		
テキスト	テキスト: 特になし		
参考文献	参考資料: 必要に応じてプリントを配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業中の携帯電話の取り扱い(メールを含む)を禁止する。他の受講生の迷惑行為(私語等)がある場合には, 退出を命じる。		

授業科目名	食品資源フィールド科学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	入船 浩平, 甲村 浩之, 黒木 英二, 福永 健二, 村田 和賀代, 吉野 智之, 藤田 景子, 五味 正志, 津田 治敏		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各教員のオフィスアワー参照		
授業の形式・方式	集中講義 9月8日(火)～9月11日(金) フィールド科学教育研究センター圃場や食品加工場での講義・実習, 6次産業関連施設見学, プレゼンテーションの演習等		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【25年度入学者】生命科学科, 環境科学科 2～3年次対象 【26年度入学者】生命科学科 2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	作物栽培管理, 食品加工, 6次産業, 中山間地, 地域振興		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	知識・理解の観点: 地域の食品資源・加工法を説明でき, 地域活性化との関連づけができる 思考・判断の観点: 6次産業のあり方や問題点を指摘・議論できる。 関心・意欲の観点: 地域活性化に関心を持ち, 6次産業化に意欲的に取り組める。 技能・表現の観点: プレゼンテーション資料を作成し, 発表・議論できる。 態度の観点: グループ学習として協調でき, 他大学の学生・地域の人とも交流できる。 カリキュラムの位置づけは, 入学年度を参照。中四国大学の農場連携による実施科目である。		
授業の内容	9/8(火) 13時開講式, オリエンテーション, 野菜・果樹の管理と収穫, 食品加工講義・実習 9/9(水) 米粉パン・ピザの加工実習, 食品加工の講義演習, 6次産業化の取り組みの講義・演習 9/10(木) 産地視察(ゆめさくら, 高野町リンゴ農家等) 食資源に関する調査研究(ディスカッション) 9/11(金) プレゼンテーションの準備/プレゼンテーション 閉講式(15時まで) ※食と農に関する資源についての科学的な知見や活用技術の習得を通して, 普段接している生命科学や農学という学問が地域振興とどのように関わっているかを, 中国山地に位置する田園さとやま文化都市の庄原で, 体感してもらうことを主な目的とする。		
成績評価の方法	受講態度40点, 発表30点, レポート30点		
テキスト	特になし 資料を適時配布する		
参考文献	特になし		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修希望者が多数の時は選抜する場合がある。 講義・実習・演習に積極的に参加する姿勢が望ましい。 軍手, 麦わら帽子, 長靴, カップは貸与できる。動きやすい服装(長袖・長ズボン)と運動靴を各自用意すること。なお, 秋季に実施するため, スズメバチが発生する場合があります。黒い服装はできるだけ避け, 黒色でない帽子を着用すること。		

授業科目名	農業経済学		
担当教員氏名(助手氏名)	堀田 学		
研究室の場所	庄原キャンパス 1708研究室		
オフィスアワー	水曜午後		
授業の形式・方式	講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	
履修要件	特に専門知識を必要としていない		
免許等指定科目			
キーワード	近代経済学, 農業政策, 農産物流通, 消費者問題		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	農業は食料を生産, 供給する産業であり, 経済活動の上に成り立っている. 本授業では農業を社会科学として捉え, 総括的に把握することを目的としている. そのため, 内容は多岐に渡り, 近代経済学, 組織論, 農業政策論, 農産物流通論等を含めて基礎理論を習得することをもう的としている.		
授業の内容	講義を中心とするが, 参加者が考え, 議論できる方法を採用.		
成績評価の方法	レポートおよび出席, 平常点から総合的に評価する.		
テキスト	特に指定しない. 資料等は必要に応じて配布する.		
参考文献	速水悠次郎著『農業経済論』岩波書店, 荏開津典生『農業経済学』岩波書店, 土屋 圭造『農業経済学』東洋経済新報社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	農業分野の社会科学の基礎となる科目です. 基礎理論, 対象領域を学習したい人に適する内容です.		

授業科目名	農業経営学		
担当教員氏名(助手氏名)	村田 和賀代		
研究室の場所	庄原キャンパス 2607研究室		
オフィスアワー	水曜日10:40~12:10 訪問前にメール等で連絡を下さい。		
授業の形式・方式	対面授業, 授業日程に従って, 主に講義形式で実施する。 毎回の講義終了時に, 講義で得た知識を確認するために小レポートを課す。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	農業経営, 農業生産, 農村社会, 経営戦略		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	現代の農業経営に関する諸事象を把握するために, 特に社会科学的手法の基礎を学習する。現代の農業者は, 農産物を生産するだけで終わるのではない。農産物を通して社会との関わりを構築することが, 経営を維持する上で重要になっている。ここで学ぶ知識を通じて, 食料・農業・農村で見られる現象を総合的に理解し, 問題解決に結び付ける思考力の向上を目指す。		
授業の内容	農業・食料・農村について, 現状と問題点の概要を学習する。 それらを更に深く理解するために, (1) 経営に関する基本的概念, (2) 経営要素, (3) 生産組織, (4) 農業簿記のしくみ, (5) 農業と環境, (6) 農業と消費者との関係, その他, 農業政策や地域社会, 海外事情を含めた最新のトピックについても学習する。		
成績評価の方法	原則として期末試験によって評価する。 出席状況は講義ごとの小レポート・小テストの提出によって確認する。		
テキスト	資料・教材を適宜配布する。		
参考文献	高校で「政治・経済」を学んでいない学生は, 受験参考書などで補うこと。 金澤夏樹「農業経営学講義」		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日常的に新聞やテレビのニュースなどで, 食料や農業, 経済など社会の動きに関する情報を積極的に取り入れるように心がけること。 学際的な視角を必要とするので, 履修予定者は事前に社会科学や人文科学に関連する講義(経済学, 政治学, 社会学など)を受講することが望ましい。 不定期で小テストを行なうので, 毎回の講義ごとに内容を確認・復習すること。十分に復習することが, 次回以降の予習につながる。 宿題, 試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	農産物流通学・市場学		
担当教員氏名(助手氏名)	堀田 学		
研究室の場所	庄原キャンパス 1708研究室		
オフィスアワー	水曜午後		
授業の形式・方式	講義, レポート作成を通じた実習形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【25年度以前入学者】生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	流通経路, 価格発見, 価格形成, 卸売市場, 農産物直販所, インショップ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	食品流通は近年, 流通経路が多様化し, 複雑さを増している。また従来, 問題視されることが少なかった安全性確保への対応力強化が食品流通の重要な課題となっている。本講義では食品流通の基礎的体系の学習と現代的課題を総合的に理解することを目的としている。		
授業の内容	授業は2部で構成する。第一に, 農産物流通論, マーケティング論に関する講義である。第二に, 調査を通じたレポート作成である。ここでは, 社会科学的研究対象を決定し, 適切な調査対象にヒアリング調査をする。場合によってはアンケート調査を通して, 情報を入手する。そららで得られた情報をもとに学術論文形式を踏まえたレポートを作成する。		
成績評価の方法	出席とレポートの総合評価		
テキスト	プリント等, 資料配布		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	特に専門的知識を必要としていない。		

授業科目名	植物病理学		
担当教員氏名(助手氏名)	奥 尚		
研究室の場所	庄原キャンパス 5402研究室		
オフィスアワー	前もって連絡の上, 随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って, 教科書等により講義形式で実施する。適宜教員のノートに従って内容の理解を図る。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目	学生便覧参照		
キーワード	植物医学, 植物病, 病原体, ウイルス, 細菌, 糸状菌, 病原性, 抵抗性, 伝染, 診断, 検疫, 遺伝子工学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	毎年, 植物病により8億人分の食料が失われている。これは現在, 地球上で飢餓に瀕している人々の数に等しい。植物病理学は農学の一分野であり, 農業生産を脅かす病害を防除することを目標とする応用科学である。農業生産を脅かす因子としては, 病害虫, 雑草, 気象等があげられるが, そのうち主として微生物やウイルスを原因とする病原体について知り, 病気の発生の仕組みと防除手段を学ぶ。植物病理学は農学系公務員試験にも必須である。		
授業の内容	植物病はウイルス, 細菌, 糸状菌などの病原体によって起こり, 農業生産や環境を損なうことで人類の生存を脅かす。植物病理学は, 植物病防除のための基礎と応用の科学である。基礎分野では病気の機構の解明を目的とし, 植物病原微生物学と植物病態生理学に立脚するが, 現在は, 植物-病原体相互反応を分子生物学的に解析する分子植物病理学が主流である。一方, 応用分野では診断と防除技術を開発するが, 近年, 遺伝子診断や病害抵抗性植物の創成など遺伝子工学を応用した新技術が登場している。ここでは最新の情報を交え, その概要を述べる。		
成績評価の方法	70%以上の出席を要する。期末試験成績(100%)で評価し, 60点以上が合格。技術士補(農業部門, 植物保護, 国家資格), 普及指導員(農水省, 国家資格), 地方および国家公務員の農業職関係受験必須科目に付き, 試験問題レベルはこれらに準ずる。		
テキスト	植物病理学, 大木 理著, 東京化学同人		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	覚える事項は多いですが, 植物病理学という学問の目的を考えながら, 予習復習をぬかりなく行って下さい。		

授業科目名	作物学		
担当教員氏名(助手氏名)	齊藤 邦行 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。プリントやパワーポイント等の補足資料も用いる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【26年度以降入学者】生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	作物, 食糧, 栽培, 形態, 光合成, 生理生態, 環境, 多収性, 高品質, 環境保全型農業		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	地球人口の急増につれて作物生産の拡大が求められる一方で、環境破壊が進行している。環境調和的で、生産性が高く、持続的な作物生産技術を開発して、これらの問題解決に貢献することが求められている。作物の起源と改良・発達の過程、その形態、生理生態および生産利用上の諸特性とそれらの発現機構、生産管理技術について基礎的知識の習得と理解を深める。本科目は共通専門科目「資源植物学」を作物に特化、深化させたものである。		
授業の内容	作物学の目標を農業、食糧生産との関連から解説して導入を図り、種々の作物がどのような来歴を有し、どのような形態的特徴を有するかを例示する。作物生産の基礎としての作物の生活環と生産過程について述べ、光合成・呼吸、水分生理、植物ホルモン等、作物の生理に関する基礎知識および環境条件の影響について概説する。さらに、耕地生態系の多様性を生態学の立場から歴史的に解説し、作物の生育収量と栽培管理技術の理論的基礎を講ずる。永遠の課題である多収穫の基礎と収穫物の品質について、加えて環境保全型農業、有機農業による安全安心な作物生産について展望する。		
成績評価の方法	平常点 (出席状況および授業毎の質問・コメント・ミニレポートの充実度) 40点。期末試験60点。		
テキスト	「作物学概論」今井勝ほか著、八千代出版, pp. 224 ISBN978-4-8429-1462-6		
参考文献	「作物 (高等学校農業科用教科書)」堀江武ほか著、農文協, pp251 ISBN4-540-99158-2, 「栽培学-環境と持続的農業-」, 朝倉書店, pp227 ISBN4-254-41028-X, 「作物学概論」大門弘幸編, 朝倉書店, pp196 ISBN978-4-254-40543-9, 「作物学総論」堀江武ほか著、朝倉書店, pp199 ISBN4-254-41021-2		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	作物生産の目標である、多収・高品質・低コスト・安定性・持続性・安全安心性を実現する技術要素を理解してもらいたい。		

授業科目名	植物栄養学		
担当教員氏名(助手氏名)	増田 泰三		
研究室の場所	庄原キャンパス 3401研究室		
オフィスアワー	場所は研究室で随時。できる限り対応しますが、不在の時等もありますので、できればメール等でアポを取って来室して下さい。		
授業の形式・方式	対面授業。主に下記の教科書を用い、講義形式で授業を実施する。また、数回に渡って、植物や土壌などの様々な画像を取り込んで作成したPowerPointファイルを用いた授業も行う。履修学生は、授業に出席し、質疑に応答し、小テストや定期試験を受ける。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【20年度以前入学者】 環境科学科 2年次対象 【21?25年度入学者】 生命科学科, 環境科学科 2年次対象 【26年度以降入学者】 生命科学科食品資源科学コース 2年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	植物栄養, 植物の必須栄養元素, 栄養元素の吸収と移行および生理機能, 植物の有用元素と有害元素等に対する植物の応答。		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	食料生産は、光をエネルギー源として無機物と水だけでも生育できる独立栄養の植物から始まるという基本的なことから学ぶ。また、植物の栄養状態を改善して生産を向上させるためには、幅広い分野にまたがる知識や知見が必要であることを理解する。さらに、栄養環境としての土壌との系における元素の動態についても考察する。これらのことを通じて、正しい認識を持って食料生産などの研究に取り組めるようにすることを目標とする選択科目の一つである。		
授業の内容	世界的な人口増加を背景に、食料・資源・エネルギー・環境に関わる問題を、どのように解決すれば良いのかについて関心が高まっている。食料生産は独立栄養生物の植物から始まり、栽培や増産に関しては資源や環境の保全なども重要になっている。そこで、植物の生長に必要な栄養元素の機能や土壌栄養環境における元素動態について学ぶ。また、植物の生産向上のための栄養状態改善には、幅広い分野にまたがる知識や知見が必要となるため、植物栄養の生産や代謝との関連、植物生長に必要な栄養元素の機能、吸収・転流機構、栄養特性および栄養元素の流れについて理解する。		
成績評価の方法	記述式の期末定期試験を、テキストプリントをはじめとして、すべての資料や教材類の持ち込み不可で実施する(60%)。数回に渡って行う小テストの結果(30%)や講義時間内における質疑に対する応答(10%)も合わせて総合的に評価する。		
テキスト	参考文献に基づいて作成したプリントテキストを随時配布します。		
参考文献	「植物栄養学(第2版)」 文永堂出版(2010, ¥4,800+税)。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、コースカタログを読んで1回目の授業に臨むこと。授業や試験などに関する連絡は、授業時間内または教学課での掲示によって行う。試験では不正行為等を禁止し、大学の規則(学則)に基づいて対応する。希望者には研究室を訪問すれば、採点後の答案用紙を返却する。		

授業科目名	食品分析学		
担当教員氏名(助手氏名)	野下 俊朗, 吉野 智之		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに従ってください。		
授業の形式・方式	対面授業。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食品分析, 分離, 定量, 機器分析, 食品成分		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目では, 食品の分析方法について講義を行う。本科目の目標は, 様々な食品成分に対応した分析方法を理解することである。本科目は, 生命科学科の専門科目に区分され, 本学科の特色のひとつである「食品資源」の科目のひとつとして位置づけられている。</p>		
授業の内容	<p>近年, 食品成分の高度で細密な分析方法が発展してきている。授業では, 様々な分析方法の原理を理解することを通して, 具体的な食品成分の分析方法を学ぶ。 機器分析法(分離・定量, 構造解析)。 生化学的分析法。 成分分析法(一般成分など)。 機能性評価法。 中間試験および期末試験</p>		
成績評価の方法	<p>中間試験50%および期末試験50%の割合で評価する。中間試験および期末試験は指定された教室内で, 指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。2回の試験を必ず受験すること。</p>		
テキスト	<p>教科書 松本清 編『食品分析学』倍風館(2006)4-563-07362-8。『複写資料教材』を授業時に無料で配布する場合がある。</p>		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>授業に関する連絡方法は, 正式には教学課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。試験等については, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応する。</p>		

授業科目名	農産物貿易論		
担当教員氏名(助手氏名)	村田 和賀代		
研究室の場所	庄原キャンパス 2607研究室		
オフィスアワー	水曜日10:40～12:10 訪問前にメールなどで連絡をすること。		
授業の形式・方式	対面授業，授業日程に従って，主に講義形式で実施する。毎回の講義終了時に，講義で得た知識を確認するために小レポートを課す。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	農産物貿易，市場経済，国際関係，グローバリゼーション，南北問題，貧困，フェアトレード，GATT，WTO，TPP，食料安全保障		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では食料・農産物の貿易における基礎的な知識を習得するための科目である。貿易の基礎的な理論や歴史的背景，貿易政策，GATTやWTOでの議論などを通じて，日本と世界の食料生産の位置付けを理解することを目標とする。農産物貿易に関する新聞記事やニュース報道について，十分に理解できるようにする。		
授業の内容	農林水産物の貿易は単なる国家間の商取引としてだけではなく，環境や消費者の健康においても重大な関心事となっている。また先進国が進めるグローバリゼーションに対し，途上国の論理の重要性も増加している。農林水産物の国家間取引のためには，どのような視点が必要であるのかを考察する。貿易に関する基礎的な理論や制度，貿易問題が発生した歴史的背景を踏まえて，WTOに至るまでの過程および現在WTOで行われている議論を，先進国・途上国・日本の各国の立場から講義する。		
成績評価の方法	原則として期末試験によって評価する。 出席状況は講義ごとの小レポート・小テストの提出によって確認する。		
テキスト	資料・教材を適宜配布する。		
参考文献	高校で「世界史」「政治・経済」を学んでいない学生は，受験参考書などで補うこと。 「詳説 政治・経済研究」		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日常的に新聞やテレビのニュースなどで，貿易や経済など社会・国際関係の動きに関する情報を積極的に取り入れるように心がけること。学際的な視角を必要とするので，履修予定者は事前に社会科学や人文科学に関連する講義（経済学，政治学，社会学など）を受講することが望ましい。不定期で小テストを行なうので，毎回の講義ごとに内容を確認・復習すること。十分に復習することが，次回以降の予習につながる。宿題，試験等において，本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は，大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	食品産業組織論		
担当教員氏名(助手氏名)	堀田 学		
研究室の場所	庄原キャンパス 1708研究室		
オフィスアワー	水曜午後		
授業の形式・方式	講義形式と調査・レポートによる実習		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	農業生産, 食品流通, 生産組織, 協同組合, 流通組織		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人類に有用な生物資源の大半は、利用者の手に渡るまでに、生産、流通過程を必要とし、管理されなければ成立しないものである。 本講義は生物資源―農林水産物の生産・流通過程を総合的に理解することを目的としている。		
授業の内容	授業は2部で構成する。第一に、食品産業組織に関する講義である。ここでは組織の概念、目的と型との対応関係を理解した上で、食品生産組織のあり方を理解し、食品生産上極めて重要な組織である農業協同組合について理解する。ここでは株式会社、協同組合等の相違点を理解する。第二に、調査を通したレポート作成である。ここでは、社会科学的研究対象を決定し、適切な調査対象にヒアリング調査をする。場合によってはアンケート調査を通して、情報を入力する。さららで得られた情報をもとに学術論文形式を踏まえたレポートを作成する。		
成績評価の方法	出席、レポートの結果を総合的に評価する。		
テキスト	プリント等適宜配布。		
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	国際食料生産技術論		
担当教員氏名(助手氏名)	村田 和賀代		
研究室の場所	庄原キャンパス 2607研究室		
オフィスアワー	水曜日10:40~12:10 訪問前にメール等で連絡をすること。		
授業の形式・方式	対面授業, 授業日程に従って, 主に講義形式で実施する。毎回の講義終了時に, 講義で得た知識・質問を確認するために小レポートを課す。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【25年度以前入学者】生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	農業, 農業地理, 食料生産, 栽培技術, 農業発達史, 持続可能性, 環境保全型農業, 農業政策, 食料政策		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では, 食料生産についての基礎知識を習得するための科目である。食料生産の技術面だけを取り扱うものではなく, 農業政策や食料政策, 社会情勢, 自然環境など食料生産を取り巻く条件と照らし合わせながら総合的に把握することを目標とする。食料生産について, 自分自身の生活と関連付けて理解できるようにする。		
授業の内容	先進国で広く行われている農薬や化学肥料を多投する近代的な農法は, 環境に対し多様な影響を及ぼしている。また, 消費者が求める食の安全性に応えるためにも, このような生産方式の見直しが必要となっている。気候や地理的条件による食料生産の違いをはじめ, 日本と世界の食料生産技術について伝統的な農法と近代的な農法を社会科学の視点から比較検討し, 持続的食料生産に向けて最新の有機農法や環境保全型農法についても講義する。また, 近代的な食料生産技術が世界各国に伝播したことによる功罪についても論じる。		
成績評価の方法	原則として期末試験によって評価する。 出席状況は講義ごとの小レポート・小テストの提出によって確認する。		
テキスト	資料・教材を講義開始時に適宜配布する。 食料の世界地図・第2版(丸善)		
参考文献	食料の世界地図・初版(丸善)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日常的に新聞やテレビのニュースなどで, 食料および食料生産に関する情報を積極的に取り入れるように心がけること。学際的な視角を必要とするので, 履修予定者は事前に社会科学や人文科学に関連する講義(経済学, 政治学, 社会学など)を受講することが望ましい。不定期で小テストを行なうので, 毎回の講義ごとに内容を確認・復習すること。十分に復習することが, 次回以降の予習につながる。 宿題, 試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	植物遺伝育種学		
担当教員氏名(助手氏名)	福永 健二		
研究室の場所	庄原キャンパス 3203研究室		
オフィスアワー	随時 (メールなどで事前連絡がのぞましい)		
授業の形式・方式	対面授業 (プリントやパワーポイントを用いる)		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【21年度以降入学者】生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	植物育種学, 植物遺伝学, 作物, 品種, 品種改良, 遺伝資源, 選抜育種, 交雑育種, 突然変異, 倍数性育種, 野生種, 在来品種, F1品種, 改良品種, 遺伝子組換え, QTL, ゲノム, MAS (marker-assisted-selection), 種苗登録		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人類が野生植物から栽培植物を作り出し農耕を始めて以来, さまざまな作物や品種が作り出されてきた。このような栽培植物や在来品種のなりたちについて理解するとともに, 近代育種における育種法とその成果について理解することを目標とする。具体的には, 身近な作物には品種があり, 品種にはそれぞれの特性があること, それがどのようにしてできたのかを理解し説明できるようになることを目標とする。育種の技術や理論についても説明できるようにする。また, グローバルな視点での育種, 新しい技術の育種への応用についても理解でき, 意見を述べられるようになることも目標としたい。本講義は植物系の応用科目であり, 遺伝学, 基礎植物生理学, 資源植物学などの関連講義を履修した上で受講するようにすること。		
授業の内容	<p>以下のような内容で行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 育種とは何か? 育種による成果。 2. 多様な栽培植物, 栽培植物の起源。 3. 遺伝資源をめぐって。 4. 植物の多様な交配様式, 遺伝学の復習。 5. 育種の目標 (高収量・高品質, ストレス・病虫害抵抗性など) と方法論 (選抜, 交雑, F1品種, 突然変異, 倍数性,) とその成果。 6. 組織培養の育種への応用及び遺伝子組換えによる育種と安全性などをめぐる論争。 7. QTLとゲノムサイエンス, マーカー選抜。 <p>2年次配当の遺伝学, 基礎植物生理学, 資源植物学, 組織培養学などの科目を履修していないと理解が十分に行き届かないとおそれがあるのでこれら2年次配当科目を履修すること。</p>		
成績評価の方法	試験100% (持ち込み不可)。試験は110点満点で行い, 60点以上を合格とする。		
テキスト	特にテキストは使用しない予定であるが参考文献をあげておく。その他開講時に多数の書籍などを紹介する。		
参考文献	植物育種学<+4130721011+> 植物改良への挑戦<+4563077933+> 植物育種学辞典<+4563077887+>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	2年次向けに開講の遺伝学, 基礎植物生理学, 資源植物学などの関連科目を履修した上で履修してほしい。3年配当であるが基礎になる科目をおさえていないと理解が厳しいと思われる。その他, 禁止行為などは社会常識と学則に従う。		

授業科目名	蔬菜園芸学		
担当教員氏名(助手氏名)	甲村 浩之		
研究室の場所	フィールド科学教育研究センター管理棟		
オフィスアワー	随時 事前にメールにより連絡してください。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施することを基本とする。プリントやパワーポイント等の補足資料も用いる。フィールド科学教育研究センター圃場を見学し、討論して報告してもら場合もある。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【23年度以降入学者】生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	蔬菜園芸, 野菜, 地域特産, 植物生理, 生態, 栽培法, 品種, 育種, 圃場管理, 総合病害虫管理 (IPM), 施設園芸, 養液栽培, 食品資源, 栄養, 機能性, 農業経営, 保存, 流通, 加工		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	知識・理解の観点：1次産業・農業において食品資源である野菜栽培に関する作物生理・生態・栽培・経営・流通を説明できる。 思考・判断の観点：種類による栽培方法の違いや良否を説明できる。 関心・意欲の観点：野菜栽培による地域活性化を議論でき、中山間地の活性化に寄与できる。 技能・表現の観点：地域や時期にあう野菜の作型を選択でき、各種野菜に適した調理法を提案できる。態度の観点：地域や大学での栽培関連活動に関心を持てる。 カリキュラムでは、生命科学科3年次の専門科目（食品資源科学コース）である。		
授業の内容	食品資源である蔬菜（野菜）栽培の基礎、果菜類、葉菜類、根菜類の各作物生理・生態と栽培方法、加工利用・流通方法、経営実態等、最近の国内外の研究開発事例、国や県市町村等の行政課題も踏まえて紹介する。		
成績評価の方法	授業態度・適時実施するアンケート・レポート等の提出、中間試験、学期末試験の結果を基に総合的に評価する（授業態度・提出物10%、中間試験40%、学期末試験50%）。		
テキスト	テキストは特に使用しない。		
参考文献	新版図集「野菜栽培の基礎知識」鈴木芳夫編著（農文協）「ISBN4-540-95086-X」を読んでおくと基礎的な理解が進みやすい。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	蔬菜園芸学の理解を深めるため、1年時の食品資源学概論、フィールド科学、2年時のフィールド科学実習や資源植物学を履修しておくことが望ましい。また、初回から主体的に授業に臨み、やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。		

授業科目名	食品プロセス工学		
担当教員氏名(助手氏名)	吉野 智之		
研究室の場所	庄原キャンパス 4602研究室		
オフィスアワー	随時。場所は教員研究室。事前に予約することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書・参考文献の各章に関する講義形式で実施する。1回の講義につき1章程度の講義を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	流動と輸送, 伝熱, 分離, エネルギー収支, 滅菌・殺菌・無菌充填, 衛生管理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目では、食品の製造および衛生管理の方法について講義を行う。</p> <p>本科目の目標は食品製造時の外部条件による食品素材（農水産物）の変化を理解することである。特に、食品製造時の熱・圧力などの物理的要因による食品素材の変化および微生物の挙動を学び、食品の加工法や安全性を理解する。</p> <p>本科目は、生命科学科の専門科目に区分され、食品科学の基礎から応用への橋渡しとして位置付けている。</p>		
授業の内容	<p>食品製造時の流動, 伝導・対流・放射による熱の移動（伝熱）, 蒸留・抽出・膜などを利用した分離・精製技術, 加熱・非加熱による微生物制御などについて解説する。</p> <p>1. 食品工学の基礎概念, 2. 食品工学に用いられる単位と次元・物質とエネルギーの収支 3. 食品の流動と輸送, 4. 食品加工工程における伝熱 5. 滅菌・殺菌・無菌充填, 6. 食品の冷却と冷凍 7. 食品の濃縮, 8. 食品工場の調湿 9. 食品の乾燥, 10. 食品の分離 11. 食品の乳化, 12-13. Factory Automation その他, 中間試験など。</p>		
成績評価の方法	中間試験40%および期末試験60%の割合で評価する。中間試験および期末試験は指定された教室内で、指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。		
テキスト	教科書 林弘通 他著『基礎食品工学』建帛社（1996）。 複写資料教材を授業時に無料で配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。試験等については、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	バイオフードシステム論		
担当教員氏名(助手氏名)	黒木 英二		
研究室の場所	庄原キャンパス 2601研究室		
オフィスアワー	随時 (ただし、メール等で連絡をとってから了解を得ること)		
授業の形式・方式	授業日程に従って、あらかじめ決められた進行に従って授業を実施する。本学が規定する出席回数ほかに、本科目ではプレゼンテーションの義務が課せられ必ず実施しなければならない。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	地域ブランド, 実験計画法, 多変量解析, 商品開発, 資源編集・設計・評価, 6次産業, フードシステム		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域には特有のバイオ資源が埋蔵され、食品をはじめとした特産品が開発されてきたが地域ブランドとして普及されるまでには至っていない。そこで本科目では、そのための基礎理論を習得するだけでなく、自ら改良プランを作成してプレゼンテーションを行い、結果を統計学の手法に基づいて評価するものである。この科目は本学部のフィールドに根ざした実践型の教育方針に沿うものであり、地元への新たな価値提案に結実することが期待される。		
授業の内容	本科目には大きく4つの履修課題がある。第1に「地域資源の編集・設計・評価」(第1回, 第2回)。ここでは地域に賦存する資源を分類して編集することを学ぶ。第2が「地域ブランドとマーケティング」(第3回, 第9回)。これらの授業で地域ブランドとして普及させるための方法とスキルを習得する。第3が「統計手法の学習と応用」(第4回から第8回)。ここでは思い付きや感に頼らずに、統計学に基づいた科学的な方法による提案を行うポイントを履修する。第4が「提案作成とプレゼンテーション」(第9回から第15回)。これらの授業で改良案作成やプレゼンテーション効果のヒントを自ら学びとることが求められる。		
成績評価の方法	プレゼンテーションにおいて提出されたコンジョイントカードに受講生と教員が採点し、統計検定の結果に基づいて配点する。出席も重視する。		
テキスト	講義内容を示すプリントを毎回配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	講義に関する連絡は授業中に行うので、欠席者は後日必ず確認すること。特に第13回においてはプレゼンテーション順番を決定するので必ず出席すること。病欠などの止むを得ない事情のほかは追加の順番は認めない。		

授業科目名	基礎生命科学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	小西, 田井, 達家, 八木, 斉藤, 矢間, 山下, 菅, 阪口, 稲垣, 荻田		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに従ってください。		
授業の形式・方式	応用生命科学コース学生を対象として行う。担当教員が各15回を分担しオムニバス形式で行う。実験概要の説明のあと、実際にテーマごとの実験を各自(各グループ)で行ってデータをとりまとめレポート提出する。		
単位数(時間数)	6単位 (180時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【21年度以降入学者】 生命科学科 2年次対象 【25年度以降入学者】 応用生命科学コース 2年次対象		
免許等指定科目	【21, 22, 26年度入学者】 食品衛生 【23~25年度入学者】 中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	生命科学, 基礎実験, 試薬・器具の扱い方, レポートの書き方, データの処理法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目の目的は, 生命科学に関わる基本的な実験を受講者が実際に行って, その技術や原理を修得することにある。3年次の専門実験, および, 卒業論文研究に関わる基礎実験となっている。		
授業の内容	前半は, 試薬の作り方, 微量の取り扱い, 分析機器の取り扱い, データ処理とレポート作成法など実験を進めるにあたって最も基本となる事項を修得する。 後半は, 3年次の実験につながる基礎レベルの実験として, 糖, ビタミン, 微生物の取り扱い, 遺伝子工学基礎, 核酸, 植物細胞の取り扱い, 動物細胞の取り扱い, タンパク質, 生理活性物質など毎回異なるテーマ, 担当教員で授業を進める		
成績評価の方法	毎回の出席と実験のレポートの内容により評価する。		
テキスト	毎回の実験ごとに資料を配付する。その他, 必要な参考書等は, 講義で指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	白衣着用のこと。取り扱いを間違えれば危険な試薬, 器具もあるので「安全の手引き」を通読すること。実験に際しては, 教員の指示に従うこと。必修卒業論文着手条件となっているので2年次で必ず履修すること。実験日程の詳細は, 掲示があるので注意のこと。		

授業科目名	基礎食品資源科学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	入船、奥、黒木、五味、福永、甲村、津田、長尾、野下、堀田、増田、村田、吉野、藤田(景)、未定		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに従ってください。		
授業の形式・方式	食品資源科学コース必修の実験である。器具などの使い方をマスターしながら、講義等に登場する器具・技術・試料の実物にふれ観察を行うとともに、様々な現象や実験手法の原理への理解を深めることを目的にする。また、コンピューターによる解析やプレゼンテーションも行う。実験は30回、体系的に、教員が専門性をいかしながら行っていく。		
単位数(時間数)	6単位 (180時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【26年度以降入学者】生命科学科食品資源科学コース 2年次対象		
免許等指定科目	【21, 22, 26年度入学者】食品衛生 【23~25年度入学者】中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	基礎実験, 試薬・器具の扱い方, レポートの書き方, データの処理法, 化学、食品、植物学、植物生理学、資源植物、作物、園芸植物、遺伝子、微生物、植物病理学、昆虫、土壌肥料、食品衛生、食品化学、社会科学、統計		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目的は、食品資源科学(農学、食品化学、農業経済)に関わる基本的な実験や観察、解析を受講者が実際に行って、その技術や原理、考え方を修得することにある。3年次の専門実験、および、卒業論文研究に関わる基礎実験となっている。		
授業の内容	全30回を以下の予定で進めていく。 (日程の都合などから多少の変更の可能性はある) I 器具の使い方編(1-3回目) II 成分分析・定量(化学系)編(4-7回目) III 生物観察編(8-11回目) IV 測定と統計編(12-16回目) V 食品の実験(17-20回目) VI 遺伝子とタンパク編(21-22、26-28回目) VII 生物実験編(23-25回目) VIII プレゼンテーション(29、30回目)		
成績評価の方法	毎回の受講態度と実験のレポートの内容やプレゼンテーションなどにより評価する。		
テキスト	毎回の実験ごとに資料を配付する。その他、必要な参考書等は、講義で指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	ラボワークの回については白衣着用のこと。取り扱いを間違えれば危険な試薬、器具もあるので「安全の手引き」を通読すること。実験に際しては、教員の指示に従うこと。必修卒業論文着手条件となっているので2年次で必ず履修すること。実験日程や実施教室の詳細は、掲示があるので注意すること。		

授業科目名	資源科学実験 I		
担当教員氏名(助手氏名)	入船 浩平, 奥 尚, 福永 健二, 藤田 景子		
研究室の場所	庄原キャンパス 入船：5501研究室 奥：5402研究室 福永：3203研究室 藤田：5203研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	学生実験室において対面で授業概要を説明し、その後各班に別れて授業日程に従って実験を行う。レポート提出を義務づける。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	植物遺伝学、イネ科、穀類、穂、分類、形態観察、DNA抽出、PCR、電気泳動、系統分類、植物病理学、植物病原菌、体細胞分裂、減数分裂、植物生理学、光合成色素、光合成、吸光度		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本実験では生命科学の専門基礎実験として、植物科学の理解を深めるため、植物遺伝学、植物病理学および植物生理学の基礎技術を習得することを目的とする。植物遺伝学では、イネ科穀類の分類および形態観察、DNA抽出、PCRによる遺伝子断片の増幅、電気泳動による遺伝子の解析手法を習得する。さらに、植物根端をもちいた体細胞分裂、雄しべ葯内での減数分裂を観察する。また、植物の基本組織の顕微鏡観察も行う。植物病理学では、植物病原菌の形態について分類体系に従って観察を行う。また、植物生理学では、光合成色素の分画や吸光度の測定を行う。		
授業の内容	4名の教員が実施するオムニバス形式の実験である。植物遺伝学の実験6回、植物病理学の実験3回、植物生理学の実験1回の計10回の実験を行う。植物遺伝学：イネ科穀類の分類と形態観察、植物組織からのDNA抽出、電気泳動を行い、初歩的な遺伝子解析の技術の基礎とデータの取り扱い方を習得する。体細胞分裂、減数分裂の観察、植物組織形態の観察。植物病原菌(各種菌類)などの観察を行う。また、光合成色素についても学ぶ。		
成績評価の方法	出席状況と実験ごとに結果をまとめたレポートを総合的に判断し、成績評価を行う。		
テキスト	各実験の開始時にテキストを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	全回出席することを原則とします。また、レポートは自力で書くこと。実験を通して、実験の意味合い、今後の研究に対する取組みの一助にできるようにして下さい。		

授業科目名	食品科学実験 I		
担当教員氏名(助手氏名)	野下 俊朗, 長尾 則男, 津田 治敏, 吉野 智之		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに従ってください。		
授業の形式・方式	対面		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【21年度以降入学生】生命科学科 3年次対象 食品関連科目を履修していることが望ましい。		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	動物性食品, 植物性食品, 食品の加工, 食品物性, 衛生試験, 食品成分分析, 食品成分機能		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>(1) 代表的な食品成分や食品成分間の相互作用など食品分野の基礎的内容を理解する。</p> <p>(2) 日常生活の中での食品科学に関する話題の内容を理解し, 正しく評価できるようになる。</p> <p>(3) 自らの発想で新しい食品を創造できるようになる。</p> <p>本科目は, 生命環境学部生命科学科の専門科目に区分されている。</p>		
授業の内容	<p>ヒトの健康を考える際には, 食品に対する正しい認識と食品が健康にどのように寄与しているのかを考えることが重要である。本実験では, 講義において得られた知識を実験で確かめ, 内容をより理解し, 創造性ある新しい食品を見出すことを最終目的とする。実験では, 計量・計測, 加工, 食品の組織, 食品の衛生試験や機能性評価について学習し, 実際に液体状や固形状の食品を試作する。加工中の各成分の変化を成分分析や物性測定などを通してモデル食品や実際の食品の性状を理解し, 新しい食品を創造するきっかけとする。</p>		
成績評価の方法	<p>担当教員がそれぞれ評価を行った後, 平均値を成績評価点とする。 実験態度 30点とレポート 70点。実験のテーマごとにレポートの提出を義務付ける。 レポートは実験目的, 方法, 結果, 考察を丁寧に記述すること。</p>		
テキスト	無償のプリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>実験は休まずに出席し, 積極的に取り組むことが必要である。授業に関する連絡方法は, 正式には教学課での掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。</p>		

授業科目名	資源科学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	黒木 英二, 堀田 学, 村田 和賀代		
研究室の場所	庄原キャンパス 黒木：2601研究室 堀田：1708研究室 村田：2607研究室		
オフィスアワー	随時。事前にメール等で連絡		
授業の形式・方式	生命科学科におけるフィールド学習をとり入れた演習を行う。授業日程に従って、あらかじめ決められた曜日の3コマを使って演習を実施する。学生は授業に出席し、演習内容及びフィールド学習に基づいて報告課題を設定し、科学的データの収集・分析に努め結果をプレゼンテーションし、さらに報告書原稿提出の2つの義務を果たさねばならない。必要とされる出席回数は必ず履行されねばならない。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【21年度以降入学者】生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	プレゼンテーション, フードシステム, 地域還元, フィールド学習, 科学的データ, ビジネス推進, 地域貢献, 商品開発, マーチャンダイジング, 地域資源探査と開発		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目の主眼は2つある。第1に科学的研究に必須となる課題設定, 分析およびプレゼンテーション技術を身につけることである。第2に地域社会とのコミュニケーション能力を身につけることである。そのためにフィールドに根ざした学外演習を行う。これらにより履修学生は基礎理論や調査分析結果を常に地域の現場と関わらせて考察する学習態度が身につく専門分野を深化させると同時に地域に貢献する人材として育成される。		
授業の内容	本演習ではレポート作成及びプレゼンテーション指導を行う。対象となる演習先は地域の農業生産から最終消費に至るフードシステム担当者及び地域づくりに取り組む団体等を対象にして技術, 経営管理, 商品開発, 企業, 地域づくり, 市場動向などの諸課題をフィールド科学として説明する。具体的には, 先ず, 地域農業, 食品製造業, 食品卸小売業の各段階の実態を全員参加型の現地視察により把握し, 学生に関心ある演習先に焦点を当てて, 現場において情報を収集し, 仮説を設定する。さらにその仮説を地域の実態に即して応用できる科学的な課題に昇華させる。学生は得られた成果を授業最終日の公開の報告会において発表し印刷物としてまとめる。		
成績評価の方法	プレゼンテーション40%, 報告書原稿作成40%, 出席20%の割合で評価する。報告書原稿の提出期限は, 印刷日程に基づき設定する。様式はA4の2枚程度で, 図表は付け足してもよい。1枚当たり1200字(40字×30行)として電子データとして提出する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本演習は3人の教員によって行われるが履修予定者は各教員のすべての授業に出席しなければならない。連絡等は主に演習中に行う。ただし演習先によっては, 開始時間や服装などの事前準備の留意事項もあるので, 教学課の掲示にも常に注意しておくこと。		

授業科目名	生物物理化学		
担当教員氏名(助手氏名)	八木 俊樹		
研究室の場所	庄原キャンパス 3703研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	主にパワーポイントを用いた対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	学生便覧参照
履修要件	【20年度以前入学生】生命科学科, 環境科学科 2年次対象 【21年度以降入学生】生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	感覚, 音, 電気・電磁波, エネルギー保存則, エントロピー, ATP		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	生物科学の基礎となる物理学・化学について学ぶ。具体的には, 生物現象そのものに見られる, あるいは研究の手段として用いられる物理学・化学を取り扱い, 同時に, この3つの学問の境界領域の内容についても解説を加える。		
授業の内容	生命現象を理解する上で物理学, 化学の基礎知識は欠かせない。一見多様な生命体も, エネルギー保存則などの物理学・化学の基本法則に従うからである。ここでは, 生物の運動や生物体内の情報処理などの具体例を上げながら, 生物が従う物理学, 化学の法則の実際を学ぶ。また, 生命科学の研究で用いられる様々な物理化学的な研究手法について, その原理と研究例について解説する。		
成績評価の方法	出席率, 適宜与えられる課題のレポートの内容, 期末試験の結果, から評価する		
テキスト	適宜プリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	生殖科学		
担当教員氏名(助手氏名)	堀内 俊孝		
研究室の場所	庄原キャンパス 3501研究室		
オフィスアワー	随時, 場所は3501研究室		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って, 講義形式で実施する。講義資料等を配布し, 授業を実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	応用生命科学コースの必須科目
履修要件	【20年度以前入学者】 生命科学科 3年次対象 【21年度以降入学者】 生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	精子, 卵子, 受精, 顕微授精, ES細胞, iPS細胞, 不妊治療		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	ヒト不妊治療における体外受精や顕微授精が社会的にも認知されはじめている。また, 核移植によるクローン動物が作出や幹細胞による再生医学が身近な話題となっている。この科目では, 動物における生殖科学の基礎知識を学習し, 動物発生工学に関連する話題を正確に理解できる知力を習得することを目的とする。カリキュラムとしては, 生命科学科の応用生命科学コース必須科目である。		
授業の内容	哺乳動物における生殖科学の基礎を体系的に講述する。さらに, 生殖医療における基礎知識を講述する。トピックスとしては, 幹細胞, ES細胞, iPS細胞, 体外受精, 顕微授精, 核移植の話題を提供する。 第1回 オリエンテーションと「不妊治療の現状と展開」, 第2回 生殖のホルモン(1), 第3回 生殖のホルモン(2), 第4回 生殖細胞(精子), 第5回 精子の基礎と臨床, 第6回 生殖細胞(卵子), 第7回 卵子の基礎と臨床, 第8回 受精, 第9回 受精の基礎と応用, 第10回 胚発生, 第11回 胚発生の基礎と臨床, 第12回 着床, 妊娠, 分娩, 第13回 核移植, 第14回 ES細胞とiPS細胞, 第15回 遺伝子の導入法とノックアウト		
成績評価の方法	期末試験の成績で評価する。試験は試験期間に指定された教室で, 講義ノートや教科書等の持ち込み不可で実施する。		
テキスト	「<+978-4-87402-169-9+>」 「生命の誕生に向けて」 日本哺乳動物卵子学会編 近代出版 講義内容に沿った資料プリントを適宜配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	特になし		

授業科目名	生体機構学		
担当教員氏名(助手氏名)	矢間 太		
研究室の場所	庄原キャンパス 3503研究室		
オフィスアワー	随時、場所は担当教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目	学生便覧参照		
キーワード	肉眼解剖学, 組織学, 発生学, 光学・電子顕微鏡, インフォームド・コンセント, 健康管理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本講義では、生体機構学、すなわち解剖生理学についてこれまでほとんど学習していない学生を対象に、人の身体のどこにどんな器官があるのか、どういう形をしているのか、その器官は管状なのか肝臓の様に詰まっているのか等の基本的内容を講述する。ただ単に解剖学用語の暗記の為だけでなく、人体、つまりは自分自身の身体にもどり、その形態と機能を理解する事を目標とする。</p> <p>本講義は、生命科学科、専門教育科目・専門科目に区分されている。</p>		
授業の内容	<p>動物実験を行なう学生に不可欠な知識、ヒトを含む高等哺乳動物の臓器の形態、三次元的な位置関係、機能などを肉眼解剖学、組織学、および発生学を通じ学習する。特に消化管、脈管、神経系には重点を置き、その機能を理解するうえで必須となる組織学の知識は、実際に光学・電子顕微鏡所見を提示・解説し、肉眼解剖学と組織学の知識統合を目標に学習する。</p> <p>本講義で習得した知識は、将来動物実験を必要としない学生にとっても、医療におけるインフォームド・コンセントの場や、自己の健康管理などにおいても有用である。</p>		
成績評価の方法	<p>期末試験の成績で評価する。試験は試験期間内に指定された教室で、講義ノート等は持ち込み不可で実施する。</p>		
テキスト	<p>特になし。毎回講義プリントを配布している。</p>		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>本講義は出欠をとらないし、成績評価には講義出席点は加算されない。したがって、履修予定者は大学生としての自覚、向学心をもって受講すること。</p>		

授業科目名	実験動物学		
担当教員氏名(助手氏名)	山下 泰尚		
研究室の場所	庄原キャンパス 3603研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面講義です。講義スライドやプリントを用いて講義を行います。動画を用いても講義を行なう予定です。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【21年度以降入学者】生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	実験動物, マウス, ラット		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	ヒトを含む多くの動物種でゲノムの構造解析が終了し、その機能解析、つまり遺伝子・タンパク質の生体機能解析及びそれらを利用した応用研究が現在の研究の主流です。ヒトおよび動物の生体機構の解明・病態解析ならびに治療法開発研究において、動物実験は不可欠で、特に遺伝子組換え動物を用いた遺伝子・タンパク質の生体機能解析は、必須の研究手法となっています。動物実験では、生命ある動物を実験対象とするため、科学的観点、動物愛護の観点及び環境保全の観点並びに実験実施者の安全確保の観点から実験計画の立案・実施が求められます。実験動物学では、生命科学研究における実験動物・動物実験の意義について理解します。また、実験動物の特性及び実験動物特有の遺伝学的コントロールについて理解します。また、動物実験に関する法規についてと、最近の動物実験の動向等について理解します。		
授業の内容	実験動物学では、実験動物への基礎的理解を深めることを目的としています。このため、動物実験の定義と意義、実験動物学の歴史、実験動物学に関する法規、実験動物の種類と系統から、実験動物を維持管理するために必要な知識、実験動物に関する育種、選抜、繁殖等に関して講義します。		
成績評価の方法	期末試験(60点)＋小テスト(40点)＝100点で評価します。15回の講義を1/3より多く欠講した者(つまり6回以上の欠講)については、期末試験を受けても評価しませんので注意して下さい。欠講届けを提出しても欠講扱いとします。		
テキスト	必要に応じてプリントを配布しますので、参考書を購入する必要はありません。		
参考文献	参考文献として「最新実験動物学」朝倉書店第6版を用いています。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	細胞生物学		
担当教員氏名(助手氏名)	達家 雅明		
研究室の場所	庄原キャンパス 5303研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【25年度以前入学者】生命科学科 2年次対象 【26年度入学者】応用生命科学コース 3年次対象		
免許等指定科目	学生便覧参照		
キーワード	細胞小器官, シグナル伝達, がん遺伝子, 増殖因子, サイトカイン, 細胞周期, 細胞分裂, 減数分裂, 生殖, 発生, 細胞骨格, 細胞接着, 細胞運動, 細胞間コミュニケーション, アクチン, ミオシン, チュアリン, ダイニン, アドヘレンスジャンクション, チェックポイント, アポトーシス, ネクロトーシス, セントロメア, テロメア, キアズマ, サイクリン, サイクリン依存的キナーゼ, オーロラ, ヒストン, DNA損傷, 塩基損傷, 酸化のDNA損傷, DNA修復, がん遺伝子, がん抑制遺伝子, 組織構築, 抗がん剤, 病理病態, 病態生理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地球上において生命は核酸生物として進化を遂げてきた。その過程で種々の細胞機能がシステム化され、生理機能を制御する巧妙な仕組みが完成してきた。 本授業の目標は、2年生後期開講科目「分子生物学」に引き続き、生物の核酸情報生命体としての長い連続性をより深く理解し、そのひとつの完成型進化生命体である多細胞生物（ヒト）の機能制御様式について基本的な理解をしてもらうことにある。特に、細胞小器官の構造と機能、細胞内の骨格系たんぱく質、細胞や細胞外マトリックスとの接着構造体、体細胞分裂や生殖細胞分裂の様式と染色体の挙動、細胞周期チェックポイント制御、アポトーシス、細胞がん化などを分子レベルで理解することにより、この講義では最終的に生命科学をグローバルにとらえる概念的視点を養ってもらうことに狙いがあり、他の生命科学科専門講義の理解を一層専門的に深める効果を期待したカリキュラム上の位置づけを目指す。さらに、発展型として、がん遺伝子やがん抑制遺伝子の機能と、その病理病態や病態生理、更には、がんの発症や進展の様式、抗がん剤の種類と作用機作などについても言及する。我々のゲノムの持つ保守の仕組みについても解説して、大学院の「ゲノム制御システム生物学」講義が聴講できるレベルまでレベルアップに努める。		
授業の内容	生命の核酸情報の脈々とした経世代の流れは地球上で留まることを知らない。私たちヒトもその一員であり、例外では無い。 本講義ではその理由を実証的に解き明かした生物学の醍醐味を理論的に解説するよう心がける。そして、生命の単位である「細胞」を中心とした生命現象のしくみに焦点を当て、生命の面白さや美しさが無理なく理解できるように心がける。特に、細胞生物学のメインテーマである細胞構造、細胞骨格、細胞小器官、分裂装置、複製装置などの分子レベルでの理解をしよう。 また、多細胞生物としての我々ヒトのからだの機能とその異常の結果生じる疾病との関連についても言及する。ヒトのからだは細胞からなり、細胞機能の異常が疾病に繋がり、その病因・病態の理解は細胞の理解と不可欠であること、からだの組織も細胞から出来ていることなども合わせて理解しよう。		
成績評価の方法	筆記試験 60点以上が合格（註）60点以下の人は再試験を受けてもらいます。		
テキスト	テキスト：『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学（ブルーボックス）』（講談社 ISBN-10: 4062576724 ISBN-13: 978-4062576727）		
参考文献	参考文献：『Cell Biology』T. D. Pollard and W. C. Earnshaw/Authors (Elsevier ISBN 1-4160-2388-7)		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修予定者は、授業に関する連絡を正式には教学課の掲示または授業内での連絡によっておこなうので注意すること。 試験においては、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	細胞生化学		
担当教員氏名(助手氏名)	斉藤 靖和		
研究室の場所	庄原キャンパス 3601研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面で授業を行なう。授業日程に従って、講義形式で実施する。学生は授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【25年度以前入学者】生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	細胞, オルガネラ, 細胞増殖, 運動能, 代謝, 細胞情報伝達機構, 細胞死, 疾患, 老化, ストレス		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目は、2年前期までに学んできた生命科学における基礎知識を基盤に、生命現象を分子レベルでより詳細に理解することを目的とする。ライフサイエンスに対する興味を広げ、より広く、深く学ぶことにより3年次以降のより高度かつ専門的な学習への橋渡しとなる科目として位置づけられる。本科目では、1.細胞の基本構造とオルガネラの役割, 2.細胞の増殖, 3.細胞の運動能, 4.生体内における代表的な代謝反応, 5.代表的な細胞情報伝達機構, 6.細胞死の代表的なプロセスについて理解し、適切なキーワードを使いながら説明できるようになることを到達目標とする。		
授業の内容	生体、特に細胞レベルでの基本的機能である細胞の増殖、運動、代謝、細胞死などを中心に、遺伝子、タンパク質レベルでの制御の仕組み、それら機能異常と疾患との関わりや、その制御による創薬への応用について概説する。より体系的な知識の習得を狙いとして、疾患や老化といった比較的身近で具体的な話題を例に挙げ、細胞生化学の面からその発症、進展背景についても解説する。		
成績評価の方法	試験成績で評価する。試験は教科書・プリント・ノート類などの一切の持ち込み不可で指定された試験日の授業時間内で実施する。前述の他に、小テスト、レポートを課す場合もある。		
テキスト	必要な文献については授業の中で紹介していく。		
参考文献	改訂第2版 はじめの一步のイラスト生化学・分子生物学 羊土社 ISBN 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第2版 羊土社 ISBN		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	(1)履修者は、簡易でもよいので、授業内容の要点を授業記憶がフレッシュなうちに復習を充分に行なうこと。 (2)授業に関する連絡方法は、教学課の掲示板に掲示するか、講義中に口頭あるいは文書で指示する。 (3)講義中の私語は、他の受講者の迷惑となるので厳禁とし、必ず、講義の妨げとなる行為を注意され、その指示に従わない時は講義室から退室を命じる場合もある。レポート、試験等において、本学で規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	生命科学演習		
担当教員氏名(助手氏名)	稲垣, 荻田, 斉藤, 菅, 大田		
研究室の場所	2501コンピュータ演習室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	コンピュータを活用した対面授業		
単位数(時間数)	1単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	【21~25年度入学者】選択 【26年度入学者】応用生命科学コース 必修
履修要件	【21年度以降入学者】生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	コンピュータ活用, 図表作成, 統計処理, 文献検索, データベース活用, プレゼンテーション		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目の目的は, 生命科学に関わる基本的な実験で得られるデータを基に各種の処理法をもちいて簡潔な図表にとりまとめる技法を習得すること, また, 生命科学に関する文献やデータベースを効果的に収集し, 整理する方法処理技法を修得することにある。2年次の基礎生命科学実験や3年次の専門実験および卒業論文のための基礎演習となっている。		
授業の内容	コンピュータ演習室にて授業を行う。 基礎生命科学実験で行った実験データ等をもとに, 下記のようないくつかのまとまりのある単元ごとに授業を進める。 1) 実験データの統計処理や表計算を行う。 2) 処理されたデータを図表を用いて効果的に表示する。 3) 図表を活用した簡潔なレポートをとりまとめる。 4) 専門書, 学術文献等の情報を検索し, 収集, 整理する。 5) 遺伝子やタンパク質などのデータベースにアクセスし, 情報を活用し, 分析を行う。 6) パワーポイント等を活用したプレゼンテーションを行う。		
成績評価の方法	レポート提出や小テストなどを実施し, その内容について評価する。 あわせて, 授業への取り組み姿勢も考慮し, 総合的に評価する。		
テキスト	必要に応じて参考書等を指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	PCの立ち上げに時間を要するので授業開始前には着席し, PCを立ち上げておくこと。 演習室は, 飲食禁止である。		

授業科目名	生物有機化学		
担当教員氏名(助手氏名)	田井 章博		
研究室の場所	庄原キャンパス 4604研究室		
オフィスアワー	事前連絡の上適宜実施		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【25年度以前入学者】生命科学科 2年次対象 【26年度入学者】応用生命科学コース 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 【←20年度以前入学者のみ】食品衛生		
キーワード	生理活性, 天然物化学, 酵素反応, 酵素阻害, 医薬品		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	生命現象はいろいろな有機化学反応の連続により成り立っている。その反応を司る生体触媒である酵素の構造と特異性, 作用機構, 生体反応調節機構について解説し, それをターゲットとした医薬品の開発について理解を深めることを目的とする。さらに, 生理活性物質の構造と作用機序についても理解を深めることを目的とする。本科目は, 生命科学への分子的アプローチの基盤の一つにあたる。		
授業の内容	酵素は生命現象の最も重要な担い手のひとつであり, あらゆる生体系の中心的存在である。それ故に疾病治療のための医薬品のターゲット分子としても重要である。本講義では酵素の一般的性質や分類, 酵素分類毎の代表的な反応機構を解説し, 酵素阻害をターゲットとした医薬品について講述する。また, 生物はさまざまな有機化合物を生産, 蓄積する能力を持っており, その化合物は生産, 蓄積される生物自身に必要な構成成分などとしてだけでなく, 我々にとって医薬品など身近に利用されている場合がある。酵素阻害をターゲットとした医薬品以外の生理活性物質についてその構造と作用機序についても解説する。		
成績評価の方法	小テスト, 期末試験, レポート等により総合評価する。試験はテキストやノート等持ち込み不可で実施する。		
テキスト	テキスト: 特になし		
参考文献	参考資料: 必要に応じてプリントを配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業中の携帯電話の取り扱い(メールを含む)を禁止する。他の受講生の迷惑行為(私語等)がある場合には, 退出を命じる。		

授業科目名	生体分子構造学		
担当教員氏名(助手氏名)	八木 俊樹		
研究室の場所	庄原キャンパス 3703研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	主にパワーポイントを用いた対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	アミノ酸配列, 蛋白質の2次構造, 3次構造, 構造予測, バイオインフォマティクス		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>生命が示す複雑な現象を理解するためには、蛋白質の構造に関する知識が不可欠である。蛋白質は、DNAの配列情報がRNAの配列を介してアミノ酸配列に翻訳され、一連のアミノ酸が折り畳まって機能的な3次元構造を持つようになる。さらに、これらの蛋白質は自己集合して超分子複合体に構築される。ここでは、それぞれの過程を解説するとともに、蛋白質が示す立体構造の解析方法についても紹介する。</p>		
授業の内容	<p>蛋白質は生命現象の主たる担い手であり、現代生命科学の基礎は蛋白質科学であると言っても過言ではない。しかし、アミノ酸配列が実際の働き手となる蛋白質、そして、それらが会合した超分子にまで構築される過程は非常に複雑であり、物理化学の知識だけではその完全な理解は難しい。本講義では、蛋白質が機能的な立体構造へと折畳まる過程を追跡し、現在の蛋白質科学の実際を学ぶ。</p>		
成績評価の方法	<p>期末試験50%、毎回提出の課題レポート50%の割合で評価する。期末試験はそれまでの課題の中から問題を作成する。</p>		
テキスト	適宜プリントを配布する。		
参考文献	参考文献： 有坂文雄著、蛋白質科学入門（裳華房）		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	生命工学実験 I		
担当教員氏名(助手氏名)	山下、矢間、菅、斉藤、八木、小西、達家、阪口、大田、生体防御学担当教員		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに従ってください。		
授業の形式・方式	基礎生命科学分野を選択した学生が履修する実験である。 担当教員が分担し、オムニバス形式で行う。 実験概要の説明のあと、各回のテーマに従い、実験を各自（各グループ）で行ってデータを取りまとめレポートを提出する。		
単位数(時間数)	2単位（60時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目	【22年度以前入学者】 中一種免（理科）、高一種免（理科）、食品衛生 【23年度以降入学者】 食品衛生		
キーワード	専門基礎実験、動物実験、遺伝子発現分析、タンパク質分析、細胞周期、細胞運動、細胞培養		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本実験は、生命科学の専門基礎実験として、生命工学研究に必要な基礎技術を習得することを目標とする。そのため、動物実験の基礎手法、動物の解剖、細胞培養、細胞の形と運動の顕微鏡観察、タンパク質分析、遺伝子発現解析等の実験手技を習得し、卒業論文研究に関わる基礎的な実験手技を学習する。		
授業の内容	<p>生命科学における専門基礎実験手法を学習する。毎回異なるテーマを各担当教員が実施するオムニバス形式の授業を進める。</p> <p>第1回 オリエンテーション、実験全般の注意；実験動物の取扱い（マウスの保定、注射等） 第2回 マウスの解剖（マウスの固定、臓器の確認、切り出し等） 第3回 遺伝子族の分子系統樹解析 第4回 培養細胞の取扱いと細胞死評価 第5回 運動性微細藻類の顕微鏡観察 第6回 GST融合タンパク質の精製と電気泳動 第7回 細胞周期の計測方法概論 第8回 未定 第9回 未定 第10回 サツマイモ由来βアミラーゼの精製と酵素活性測定、まとめ</p>		
成績評価の方法	出席点、授業態度、および、実験のレポートの内容評価の総合点により評価する。		
テキスト	テキストなし。 毎回、実験開始時に実験書（プリント）を配布する。		
参考文献	適宜、講義で指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	白衣着用のこと。取り扱いを注意する危険な試薬も使用するので、実験に際しては、教員の指示に従うこと。実験の説明は、しっかり聞くこと。勝手に実験を行こなわないこと。レポートは自力で書いてください（引用する場合は出店先を必ず記載すること）。		

授業科目名	食品マーケティング論		
担当教員氏名(助手氏名)	黒木 英二		
研究室の場所	庄原キャンパス 2601研究室		
オフィスアワー	随時(ただし、メール等で必ず連絡し了解を得ておくこと)		
授業の形式・方式	対面方式で講義する。授業日程に従って、あらかじめ決められた進行に従って授業を実施する。履修学生は、授業に出席し、課題として出された項目については講義日までに準備しなければならない。必要とされる出席回数は必ず履行されねばならない。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【25年度以前入学者】生命科学科 2年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	マーケティング, 商品開発, マーケティング環境, セグメンテーション, ターゲティング ポジショニング, SWOT, マーケティングミックス, 4P		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	地域資源を活用して食品分野の商品開発を進めるためには理化学をはじめとした自然科学分野の習得が不可欠であるが、それらに基づいた技術を地域に普及させるためには、経営資源の結合など社会科学分野及び地域に関わる分野の習得も同様に重要である。本講義は社会科学分野の一つであるマーケティングの履修を通じて技術と経営の双方が担える人材を育成し、同時に地域との関わりを深める内容を目指す。		
授業の内容	わが国の食品分野における商品開発は、地域の伝統的な技術に加えて、最先端のバイオテクノロジーを結合させて近年急速に進展している。しかし、それらの技術の成果がビジネスとして結実しなければ、商品開発は市場において活用されず、無意味に終わってしまう。本講義では、そのような商品開発をビジネスとして成功させるために基本となるマーケティングの手法を統計学の基礎理論に依拠して説明する。		
成績評価の方法	主に期末試験と宿題(小課題)及び出席で評価する。 試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。 宿題(小課題)は講義期間中に知らせる。		
テキスト	本講義においては基本となるテキストは以下のものであるが、必ずしもこのテキストのみに基づいた講義ではなく様々な方面のコンセプトをとり入れた講義にする。		
参考文献	フィリップ・コトラー, ゲイリー・アームストロング『コトラーのマーケティング入門』第4版トッパン, 1999年		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、各回の講義を復習してから授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。宿題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。 不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	学科インターンシップ		
担当教員氏名(助手氏名)	学科専門科目担当教員		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	生命科学の専門領域にかかわる企業，研究機関等へ短期間（1週間以上）訪問し，実地に研究実験等に参画し技術指導等を受ける。		
単位数(時間数)	2単位（60時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【21～25年度入学者】生命科学科 3，4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	専門型インターンシップ，研究所，技術開発，応用研究，製品開発，調査分析		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	生命科学の専門分野で学んだことが，実際の現場でどのような形で活かされているかを知ること，また，卒業研究等に関連した課題が実際の企業，研究機関等でどのように遂行されているかを体得すること，さらに，本学で得にくい設備，備品あるいは技術を実際の現場で修得することを目指す。		
授業の内容	卒業研究指導の教員の指導のもと，今後の卒業論文の遂行や生命科学の専門領域を学ぶうえで本学では得にくい技術を得て，ひろく生命科学の専門性とそれらがどのように応用されているかをするため，以下の手順で実施される。 1. 指導教員との打ち合わせ 2. 受け入れ先との調整（指導教員と共に行う） 3. 事前の研修（90分程度） 4. 企業，研究機関等へ出向いての実地の技術指導（通算1週間以上） 5. 報告（レポートの作成と発表）		
成績評価の方法	受け入れ先機関の評価書，レポートおよび修得内容に関する発表等を総合的に評価する。		
テキスト	研修は，事前に配布する冊子をもとに行う。 受け入れ機関等にあっては，先方の指示によっておこなう。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	指導教員，および，受け入れ機関との協議のもとにおこなわれるので，卒業論文の指導教員から十分な指導を受け行うこと。		

授業科目名	食品科学実験Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	卒業論文指導教員		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに従ってください。		
授業の形式・方式	対面		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【21～25年度入学者】生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	食品加工, 食品物性, 食品成分分析・評価, 有機物合成		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、食品科学を研究する上で、専門的な実験方法を学ぶことである。本科目は、生命環境学部生命科学科の専門科目に区分されている。		
授業の内容	<p>担当教員の指導の下、卒業論文を遂行するために必要な実験を行う。</p> <p>【田井】 試薬の取り扱い方, 実験器具及び機器の取り扱い方について学習し, 食品成分の定量・定性試験について詳しく理解する。</p> <p>【野下】 有機化合物の取扱い方, 分離精製法ならびに基礎的な有機反応操作等を習得する。</p> <p>【長尾】 食品の機能性成分の分析(試料調製, 機器分析, 生理機能評価)について詳細に行う。</p> <p>【津田】 食品微生物の取り扱い方を学び, 発酵食品を製造する。</p> <p>【吉野】 食品の製造を行い, その成分の分析を行う。さらに, 顕微鏡による形態観察を合わせて行う。</p>		
成績評価の方法	<p>【田井】 実験態度(50点)およびレポート(50点)で評価する。</p> <p>【野下】 出席60点。なお, すべての実験に出席することで出席点を与える。実験態度(20点)と実験の理解度(20点)をそれぞれ考慮して評価する。</p> <p>【長尾】 実験態度(30点)およびレポート(70点)で評価する。</p> <p>【津田】 レポート(100点)で評価する。</p> <p>【吉野】 実験態度(30点)およびレポート(70点)で評価する。</p>		
テキスト	無償のプリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>実験は休まずに出席し, 積極的に取り組む必要がある。</p> <p>授業に関する連絡方法は, 正式には教学課での掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。</p>		

授業科目名	資源科学実験Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	卒業論文指導教員		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	卒業論文指導の教員の研究室内で実験または演習として行われる。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択必修
履修要件	【21～25年度入学者】生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	試薬調整, 植物実験, 市場調査, データ解析, 植物細胞培養, 植物病原菌, 遺伝子解析, 文献調査		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	生命現象の分子・細胞レベルでの理解を深めると共に, バイオテクノロジーに関わる幾つかの分析技術を学習し, またそれらを実際に体験することで高度な技術と知識の養成を目指す。 資源科学実験Ⅰ, あるいは, 資源科学演習に引き続いて行われる実験(演習)で, さらに, 卒論実験への導入または多方面にわたる技術・知識としての活用役に役立つようにすることを目標とする。 卒業論文にかかわる研究分野に必須の基本技術を修得するため, 卒論着手条件を満たし, 卒業論文指導の教員への配属が認められてはじめて本実験の履修が可能となる。		
授業の内容	卒業論文のための研究にかかわる専門分野における必要最低限の基本操作, 技法や資料分析法などについて学ぶ。 内容の詳細は, 各指導教員ごとに異なり, 多岐にわたるので卒論配属時の資料を参照のこと。		
成績評価の方法	出席, 授業態度およびレポート等により総合的に評価する。		
テキスト	毎回資料等を配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	卒業論文着手条件を満たし, 卒業論文指導教員が決まっていること。 本実験に引き続いて, 卒業論文のための研究がはじまるので, 毎回出席のこと。		

授業科目名	生命工学実験Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	小西, 達家, 堀内, 八木, 斉藤, 管, 矢間, 山下, 大田		
研究室の場所	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	卒業論文指導の教員の研究室内で実験または演習として行われる。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【21～25年度入学者】生命科学科 3年次対象		
免許等指定科目	【21～22年度入学者】中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生 【23～25年度入学者】食品衛生		
キーワード	試薬調整, 細胞培養, 遺伝子発現, 転写制御, 実験動物, 電気泳動, 生物機能発現解析, 生理活性, 酵素工学, 分子修飾		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	生命現象の分子・細胞レベルでの理解を深めると共に, バイオテクノロジーに関わる幾つかの分析技術を学習し, またそれらを実際に体験することで高度な技術と知識の養成を目指す。 生命工学実験Ⅰに引き続き行われる実験で, 卒論実験への導入または多方面にわたる技術・知識としての活用に役立てるようにすることを目標とする。したがって, 卒業論文着手条件を満たしていなければならない。		
授業の内容	卒業論文のための研究にかかわる専門分野における必要最低限の基本操作, 技法や資料分析法などについて学ぶ。 内容の詳細は, 各指導教員にごとに異なり, 多岐にわたるので卒論配属時の資料を参照のこと。		
成績評価の方法	出席, 授業態度およびレポート等により, 総合的に評価する。		
テキスト	実習用プリントを実験ごとに配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	実習であるので全回出席すること。		

授業科目名	環境システム学		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 浩幸		
研究室の場所	庄原キャンパス 3701研究室		
オフィスアワー	(指定) 水曜日2時限及び5時限 3コマ目がない昼休みなど		
授業の形式・方式	対面講義		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【21～25年度入学者】環境科学科 3, 4年次対象 【26年度入学者】環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	環境生物, 環境化学, 環境物理, 生態系の基礎		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	研究教育分野で複合領域に分類される「環境」は、基幹となるいくつかの分野の基礎知識を学び、習得したその知識を統合して問題解決にあたることを要求されます。		
授業の内容	環境化学・環境物理・環境生物・生態学の概要をに関して学び、環境を専門とするための必要な基礎の概略を把握する		
成績評価の方法	前半の環境化学・環境物理の修得確認と後半の環境生物（微生物学を含む）においてそれぞれ50%		
テキスト	水環境基礎科学 宗宮 功 コロナ社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	出席は2/3を厳格に要求する。		

授業科目名	物理化学		
担当教員氏名(助手氏名)	内藤 佳奈子		
研究室の場所	庄原キャンパス 4303研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【21～22年度, 26年度入学生】環境科学科 2年次対象 【23～25年度入学生】環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目	【21, 22年度入学者】食品衛生 【23年度以降入学者】中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	有効数字, 物理量と単位, 原子モデル, 周期律, 化学結合, 電子軌道, 物質質量, 反応熱, エンタルピー, エントロピー, ギブスエネルギー, 反応速度, 化学平衡, 沸点上昇, 凝固点降下, 浸透圧, 結晶		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	物理化学の重要な領域である量子化学, 熱力学, 化学反応速度論と, 物質の相変化ならびに溶液の化学などに関する基礎の修得を目的とする。物理化学の法則と考え方を学ぶことは環境科学を理解するための基礎としても重要である。 1年次の化学, 物理学I・IIで学んだ知識を踏まえて, それらを融合して物理学の考え方に沿って化学の根本原理を理解できるような講義を進めていきたい。		
授業の内容	本講義では, 原子の構造と電子配置, 周期律, 原子の結合, 分子の構造と性質, 物質質量を用いる計算, 化学反応とエネルギー, 熱力学の概要, 反応速度, 化学平衡, 気体, 蒸発平衡と物質の状態変化, 混合物の相平衡, 結晶格子などについて解説する。また, それらの基礎的な事項について, 毎回, 例題や練習問題を取り入れ, 理解を深める工夫をする。 以上の学習を通し, 最終的には環境科学を学ぶ上で必要な物理化学の基礎的な知識と事象について理解することを目指す。		
成績評価の方法	期末試験(中間試験も含む) 80%, 出席点(授業中の提出物も含む) 20%の割合で評価を行う。		
テキスト	適宜, プリント資料を配布する。		
参考文献	参考となる本や推薦書は適宜講義において必要に応じて紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	①講義中の迷惑行為(私語, 携帯電話の取り扱い)等については, 他の受講生への迷惑となるので厳禁とし, その注意・指示に従わない場合は退室を命じる場合がある。 ②試験などにおいて, 不正行為を一切禁止する。		

授業科目名	環境衛生学		
担当教員氏名(助手氏名)	西村 和之, 橋本 温		
研究室の場所	庄原キャンパス 西村：5503研究室, 橋本：4302研究室		
オフィスアワー	事前連絡の上で適宜実施。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	<p>対面授業。授業日程に従って、配布資料を用いた講義形式で実施する。1回の講義は、授業時間と同等の自習時間を想定した授業を行う。</p> <p>必要に応じて課題を課す。学生は、授業への出席、課題の提出、中間試験と期末試験の成績で評価される。</p> <p>なお、質問等は、直接またはE-mailで受け付ける。</p>		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	【25年度以前入学者】選択 【26年度入学者】必修
履修要件	<p>【25年度以前入学者】環境科学科 3年次対象</p> <p>【26年度入学者】環境科学科 2年次対象</p>		
免許等指定科目	【21年度以降入学者】食品衛生		
キーワード	環境衛生学, 環境リスク学, 毒性学, 室内環境, 労働環境, 作業環境測定士, 建築物環境衛生管理技術者, 技術士補・士(衛生工学部門、水道部門、環境部門) 用量反応, ADI, NOAEL. ハザード比, 暴露評価, ユニットリスク, スロープ係数		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、環境科学科の専門教育科目に区分されており、生活環境や労働環境を適正に維持管理する指標や手法と共に食品を含む化学物質のリスク評価とリスク管理を行うために必要な知識の習得を目標とする。</p> <p>前半では、人の健康保護と環境保全との関係を理解し、室内環境や労働環境の管理技術や室内・労働環境の分析手法を学ぶ。</p> <p>後半では、環境リスク評価とリスクマネジメントについて理解を促し、毒性学に基づく健康影響リスクの評価と管理について学ぶ。</p>		
授業の内容	<p>本講義の内容には、放射線計測学, 衛生微生物学, 水環境管理工学や分析化学系の科目が密接に関係しており、人の健康を守る上で必要な衛生学の基礎を学ぶ。</p> <p>前半では、快適な室内環境や労働環境を維持する上で必要となる環境指標やその測定手法を講義する。</p> <p>具体的には、温熱条件、照明、騒音・振動や労働環境を含む室内ガス成分の分析の意味と手法や精度管理等を理解する。</p> <p>後半では、毒性学の基礎に基づく環境リスク評価手法やリスクマネジメントの考え方を講義する。</p> <p>具体的には、用量反応、ADIやNOAELと言った毒性学の基礎的用語を学び、ハザード比やユニットリスクと言ったリスク評価や管理に用いる評価指標を理解する。</p>		
成績評価の方法	<p>成績評価は、単元に応じて課す課題(20%)と中間試験(40%)および期末試験(40%)で行う。なお、学則に従って、講義日数の1/3を超える日数を欠席した者は、各試験の受験資格が失われる。</p> <p>授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。</p>		
テキスト	複写資料教材を授業開始前、又は授業開始時に無料で配布する。		
参考文献	<p>演習 環境リスクを計算する 中西ら 岩波書店<+4000224379+></p> <p>環境リスク解析入門[化学物質編] 吉田 中西 東京図書<+4489007388+></p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>事前に講義に関する資料等を配布する場合がありますので、必ず予習しておくこと。</p> <p>講義資料等を精読して復習に臨むこと。</p> <p>配布資料だけで講義の内容を全て理解する事ができない点に留意し、授業中に述べた内容を理解すること。</p>		

授業科目名	地域環境計画論		
担当教員氏名(助手氏名)	四方 康行		
研究室の場所	庄原キャンパス 1601研究室		
オフィスアワー	毎週昼休み, 及び随時		
授業の形式・方式	授業は対面方式で講義する。必要に応じて, パワーポイントによるプレゼンテーションやビデオによる補助教材を用いて, できるだけ理解しやすいような講義と興味・関心が増すように行う。 途中において, 講義の内容についての感想やレポートの提出もある。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【20年度以前入学者】 環境科学科 3年次対象 【21年度以降入学者】 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	地域環境計画, ビオトープ, 近自然型河川工法, 環境保全, 有機農業, エコロジー, 廃棄物・リサイクル, ISO14000シリーズ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	地域環境計画論は, 地域の環境マネジメント能力を身につけることを目的としている。今日多くの企業では, 環境に配慮した取り組みが行われている。また, 自治体や種々の諸団体においても同様である。したがって, 地域環境計画論では, 企業, 自治体, NPO等団体の環境マネジメントについて講義する。また, 環境先進国といわれるドイツの環境政策等について, 日本との比較を踏まえて理解できるようにする。		
授業の内容	地域環境計画の基本についてまず取り上げる。これらは, 自治体においては環境基本計画として策定されるものである。環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14000シリーズについて解説する。そして, その企業, 自治体, 団体等での適用方法について解説する。次に, 環境問題として重要な, 廃棄物・リサイクルの仕組みとそれの環境マネジメント, 処理について経済的, 環境会計的側面から講義を行う。最後に, 政策的評価をふまえ, 望ましい環境マネジメントによる自治体等の地域環境計画のあり方, システムの設計について講義を行う。ドイツ, EU等の環境政策に関する講義を行う。		
成績評価の方法	試験, レポート, 出席状況を総合判断して評価する。		
テキスト	必要な資料は, 配布する。		
参考文献	参考文献は随時, 紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	環境無機分析化学		
担当教員氏名(助手氏名)	西村 和之(後半)、西本 潤(前半)		
研究室の場所	庄原キャンパス 5503研究室(西村)、4502研究室(西本)		
オフィスアワー	事前連絡の上で適宜実施。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業, 下記の教科書および配布するプリントに沿って行なう。なお, 質問等は, 直接またはE-mailで受け付ける。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	【25年度以前入学者】選択 【26年度入学者】必修
履修要件	環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	溶質溶媒相互作用, 溶媒抽出法, 固相抽出法, イオン交換法, 吸光光度法, 発光(蛍光)光度法, 原子吸光光度法, ICP, 電気化学分析法, 環境調査, 水質分析, 土壌分析, 大気環境分析, バイオアッセイ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	前半は分離法および分析法における基礎原理を学び、後半は環境を把握し評価するための環境調査を立案し実施するための基礎を学ぶ。本科目は、環境科学科の専門教育科目に区分されており、環境調査の目的にあった分析項目、分析手法と結果の評価を行うために必要な知識の習得を目標とする。		
授業の内容	前半：溶媒抽出、固相抽出、クロマトグラフィーでの分離において重要な役割を果たす溶質溶媒相互作用についてまず学び、その後、溶媒抽出法、固相抽出法、イオン交換法のメカニズムを学ぶ。検出器にもよく用いられる吸光光度法、発光(蛍光)光度法、電気化学分析法の原理を学ぶ。 後半：環境分析の概要、環境調査の計画、水質分析項目と分析法、土壌分析項目と分析法、大気分析項目と分析法、バイオアッセイについて学ぶ。		
成績評価の方法	成績評価は、単元に応じて課す課題(20%)と中間試験(40%)および期末試験(40%)で行う。なお、学則に従って、講義日数の1/3を超える日数を欠席した者は、各試験の受験資格が失われる。		
テキスト	前半：今泉洋他共著 『基礎分析化学』 化学同人 前半および後半：必要に応じてプリント資料を配布する。		
参考文献	前半： 後半：		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	事前に講義に関する資料等を配布する場合があるので、必ず予習しておくこと。		

授業科目名	生物反応速度論		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 浩幸 有馬寿英		
研究室の場所	庄原キャンパス 3701 (原田) 5201 (有馬)		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面講義 座学 演習		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	14年入学 環境		
免許等指定科目			
キーワード	微生物 代謝 速度 培養 生産物の回収と精製 酵素 反応速度 固定化 遺伝子組み換え 物質生産		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	皆さんには1年の後期「環境システム」において専門科目の「生物化学」や「微生物学」への展開の方向を紹介しました。ここではそのひとつとして微生物を活用した(培養)プロセスにおける物質生産についてその基礎から実際の応用までを学びます。環境への適用はこれを修得することによってある程度理解することが可能となります。		
授業の内容	前半の生物の意味は微生物を示し後半は酵素を対象とする		
成績評価の方法	前半試験と後半試験の合計が6割を超えること		
テキスト	絵とき「生物化学工学」基礎のきそ (Chemical Engineering Series)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	電卓毎回持参 遅刻30分アウト欠席へ		

授業科目名	生物地球化学		
担当教員氏名(助手氏名)	内藤 佳奈子		
研究室の場所	庄原キャンパス 4303研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	海洋, 生物環境, 非生物環境, 物質循環, 微生物		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>生物地球化学は、人類が直面している身近なあるいは地球規模での環境問題を理解し、その解決に向けて取り組むためにも非常に重要な学問である。</p> <p>本講義では、生物と地球の関わりに焦点をあて、環境生化学全般について、幅広くバランスのとれた基礎知識を身につけること、具体例にふれ理解することにより、環境問題を科学的に考える力をつけることを目標としている。</p>		
授業の内容	<p>化学, 生化学, 生物学的視点から、身のまわりで起きている環境問題について最近の動向や取り組みを中心に基礎的な立場から解説する。また、基礎生産や食物連鎖など地球規模の物質循環に果たす生物の役割や、水温や炭酸ガス分圧といった環境変化と生命活動の関係についても化学的な見地から解説する。</p>		
成績評価の方法	<p>期末試験50%, 小テスト40%, 出席状況(授業中の提出物も含む) 10%の割合で評価を行う(若干変更する場合もある)。</p>		
テキスト	<p>講義内容に沿った資料プリントを随時配布する。</p>		
参考文献	<p>石田祐三郎・杉田治男編「増補改訂版 海の環境微生物学」恒星社厚生閣(2011)</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>①日常の新聞・雑誌等において環境問題に関する疑問や興味、関心を抱くことが講義への興味につながる。</p> <p>②講義中の迷惑行為(私語, 携帯電話の取り扱い)等については、他の受講生への迷惑となるので厳禁とし、その注意・指示に従わない場合は退室を命じる場合がある。</p> <p>③試験などにおいて、不正行為を一切禁止する。</p>		

授業科目名	環境有機化学		
担当教員氏名(助手氏名)	三苫 好治		
研究室の場所	庄原キャンパス 5104研究室		
オフィスアワー	要連絡		
授業の形式・方式	対面授業。プリント（講義前に配布）を用い、講義形式で実施する。授業時間2時間(1回)を想定し、1回につきプリントの2頁程度の内容を講義する。学生は授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	【20年度以前入学者】 必修 【21年度以降入学者】 選択
履修要件	【20年度以前入学者】 環境科学科 3年次対象 【21年度以降入学者】 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免（理科），高一種免（理科），食品衛生		
キーワード	内分泌攪乱化学物質，残留性有機汚染物質，揮発性有機化合物，石油系炭化水素		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目の目標は、有機化学を履修済みの学生を対象に、様々な有機化学物質が環境中にどのように拡散して悪影響を及ぼすのか、さらに、それらの分析方法や典型的な処理方法について解説する。本講義によって、座学としての有機化学から、実学としての環境有機化学を实践できる素地を身につけることができる。本科目は、環境科学科の専門教育科目・専門科目に区分されており、当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられる。		
授業の内容	環境中での有機化学物質の挙動とその有害性を3つのステージから解説する。第1のステージでは、有機化学物質の性質を体系的に理解する強力なツールとなる「有機電子論」について学習する。次に、環境中におけるそれら有機化学物質の挙動を、「平衡論」及び「速度論」の概念を用いて解説する。最終のステージでは、各種物質の代表的な分析方法やそれらのリスク評価法、さらに、最新のリスク低減技術の紹介を行う。		
成績評価の方法	期末試験で評価する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。また、試験は指定された教室内で実施する。		
テキスト	特にない。プリント配布を行う。		
参考文献	川本克也 著，「環境有機化学物質論（共立出版）」を購入することが望ましい。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は教学課の掲示及び学生に対する授業内での連絡によって行う。課題や期末試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学規則（学則）に基づいて対応する。		

授業科目名	機能性物質化学		
担当教員氏名(助手氏名)	青柳 充		
研究室の場所	庄原キャンパス 4401号室		
オフィスアワー	随時対応。ただし、事前に必ず電子メールでアポイントメントを取ってください。		
授業の形式・方式	パワーポイントならびに黒板を用いて対面授業で実施する。教科書を基に講義形式を中心として進める。講義の開始時に前回の講義内容を含む小試験を実施する。一部の項目では課題をだし、その内容に基づいて議論を進展させる。学生は講義に出席し、小試験ならびに課題に回答し、期末試験を受けることを義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【26年度以降入学者】環境科学科 2年次対象 【21-26年度以降入学者】環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	【20年度以前, 23年度以降入学者】中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生 【21, 22年度以降入学者】食品衛生		
キーワード	高分子化合物, ポリマー, 樹脂, プラスチック, 立体構造, ゴム・ガラス, 熱的性質, ガラス転移点, 環境応答ポリマー, 環境適合ポリマー, 植物バイオマス, 天然由来高分子		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は環境科学科の専門教育科目・専門科目に区分されており, 当該分野の主要な科目の一つとして位置付けられる。 1. 身の回りにある(人間生活中の)高分子物質に気づき、区別することができる 2. 高分子物質を化学的な構造・エネルギーの観点から考えることができる 3. 集合状態・強度・安定性などの高分子物質の性質を化学的構造から考え、関連づけられる 4. 様々な分野で求められる高分子物質の選択がその状況に応じて可能となり、利活用できる基本的な知識を有し活用できる。		
授業の内容	高分子材料は工学的・生化学的分野で器具・道具や研究対象として広く関連付けられている。つまり身の回りで頻繁に使用されている素材である。 本講義は専門外の学生も対象とした入門的な高分子物質・素材・材料に関する内容を講義する。取り上げる高分子は現在、社会で広く用いられている基本的かつ実用的なものを選択している。教科書の流れに沿う形で、基本トピックを講義する。 講義では基本的な有機化学・物理化学の知識を確認しながら、化学構造・集合状態・強度などの物性など特徴を理解できるように構成します。 高分子を含む化学は「暗記」の学問ではない。何がどうなって、目の前の現象が生じているのか?それはどのような原理に基づいて進行するのか?大切なことは現象の「名称」なのか、「説明」なのかを考える。「手を動かしながら」、考え方を身に着けていくことを目指す。		
成績評価の方法	出席することは基本である。期末試験50%, 小テスト30%, 課題20%で評価する。期末試験は指定された試験日に実施する。小テストは毎回講義の初めに実施する。課題は2回を予定している。		
テキスト	教科書: 小川俊夫「高分子材料化学」共立出版(2009) (2015年度のみ並行使用) 横田健二, 高分子を学ぼう-高分子材料入門, 化学同人(1993)		
参考文献	高分子「化学」について: 北野博巳, 功刀滋編「高分子の化学」三共出版(株)(2008) 高分子「科学」について: 高分子学会編「基礎高分子科学」(株)東京化学同人(2006)		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修者は講義の前に指定された教科書該当箇所を精読して臨むこと。授業に関する情報は講義内の連絡ならびに教学課の掲示を用いて伝達する。講義中のスマートフォン・タブレット・PC等の使用を禁止する。講義中に使用が明らかになった場合、退室を指示することがある(欠席扱い)。 小テスト・課題・期末試験における不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合には大学規則(学則)に従い対応する。 課題作成に関し、web等の情報からのコピー&ペースト(無断引用)を禁止する。発見した場合は未提出扱いとする。一部改編,		

授業科目名	環境有機分析化学		
担当教員氏名(助手氏名)	江頭 直義		
研究室の場所	庄原キャンパス 5403研究室		
オフィスアワー	水木曜日, 随時		
授業の形式・方式	対面授業。主に下記の教科書にそって講義を進める。必要に応じてプリントの配布あるいは分析装置部品を回覧し, 説明する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	環境科学科 2年生対象		
免許等指定科目	食品衛生 【21年度以降入学者】 中一種免(理科), 高一種免(理科)		
キーワード	クロマトグラフィー, HPLC, GC, 質量分析計, 分取, 保持時間, 分離能, イオン化, 分光光度, 蛍光, 赤外線		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	分離及び分析法の基本を理解することは, 環境科学の理解には必須であり, 生命科学にも当然有用である。 分析は単に操作法を記憶するのではなく, 操作の内容を理解することが大切である。卒業研究あるいは資格試験にも活用できる。		
授業の内容	複雑な化学成分を単一成分に分ける, 化学分析の中核をなす種々の分離法に関する原理及び応用について講義する。まず, 分配, 吸着, イオン交換, ゲル浸透などによる分離機構について解説する。これらの機構に基づく代表的な分析機器である, 環境および生命科学分野で重要なガスクロマトグラフィー, 高速液体クロマトグラフィー, 吸光光度法及び電気泳動に関して, 装置の構造と特性を説明する。種々の分野で利用されている質量分析(特にGC/MS)及び電気化学分析についても紹介する。さらに, 最近の興味あるトピックスについても触れる。		
成績評価の方法	期末試験85%, 出席15%(欠席及び遅刻1回毎に3%づつ減)で評価する。 当然3分の2以上の出席が必要である。 試験は指定された教室内で学籍順に着席した状態で実施し, 持ち込み不可とする。		
テキスト	庄野利之, 脇田久伸, 「入門機器分析化学」, 三共出版		
参考文献	①日本分析化学会九州支部編, 「機器分析入門」南江堂 ②泉 美治ら, 「機器分析のてびき」化学同人, など		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	検出原理は, 基本的な化学及び物理の知識があれば容易に理解することができます。 ①ノートをしっかりとること。 ②無遅刻, 無欠席をめざすこと。 ③テストは, すべて記述式なので, 専門用語を使用し, 論理だてて説明すること。(知識を羅列するだけでは不十分です。)		

授業科目名	水環境管理工学		
担当教員氏名(助手氏名)	西村 和之		
研究室の場所	庄原キャンパス 5503研究室		
オフィスアワー	事前連絡の上で適宜実施。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、配布資料を用いた講義形式で実施する。1回の講義は、授業時間と同等の自習時間を想定した授業を行う。必要に応じてレポートを課す。学生は、授業への出席、課題レポートの提出と期末試験の成績で評価される。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	水環境, 水資源管理, 水質管理, 上水道, 下水道, 生活排水処理, 環境基準, 公害防止管理者(水質), 技術士補・士(衛生工学部門, 上下水道部門, 環境部門)		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、水質管理と水資源管理について十分に学習していない学生を対象にして各種水処理技術や水資源管理等の基本的内容を講述する。 本科目の目標は、履修学生に各種水処理技術や水資源確保の為の概念等の基礎的内容を理解させることである。これによって、水資源利用や水環境管理に関する専門的内容を理解するための素地を身に付けることができる。 本科目は、環境科学科の専門科目・環境修復・保全学分野に区分される。		
授業の内容	水は生命活動に欠くことのできないものであり、水環境管理は、健全な水循環系を構築し、限りある水資源を確保する上で重要である。 本講義では、水循環系の人工的な構成単位である上下排水処理システムの役割や水環境保全を担う各種単位プロセスについて最新の技術開発動向を踏まえて論述する。また、水環境の健全性を評価する手法や環境基準について講義する。		
成績評価の方法	成績は、期末試験または期末レポート80%、出席や課題20%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポートは授業の最後に適時提示する。		
テキスト	特に教科書は指定しない。 複写資料教材を授業開始時に無料で配布する。		
参考文献	松尾友則編「水環境工学」オーム社出版局(1999) 丹保憲仁・丸山俊朗著「水文大循環と地域水代謝」(2003) 北海道大学衛生工学科編「健康と環境の工学」技報堂出版(1996)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	公害防止管理者の資格取得を目指すのであれば受講を強く推奨する。 本講義の内容には、環境水理学、環境工学、環境衛生学と分析化学系の講義が密接に関係している。 また、講義内容の実際を理解する上で、環境学実験Ⅲの受講を強く推奨する。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。 試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。 不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	環境水理学		
担当教員氏名(助手氏名)	崎田 省吾		
研究室の場所	庄原キャンパス 4204研究室		
オフィスアワー	随時可。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。授業コースカタログに従って主に講義形式で実施するが、理解度向上のために演習も実施する。期間内に数回の宿題(レポート課題)を課す予定である。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。質問は、直接またはE-mailで受け付ける。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【21, 22年度入学者】 環境科学科 2年次対象 【23年度以降入学者】 環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	水の物理的性質, 連続方程式, 完全流体と粘性流体, 層流と乱流, 管路の流れ, 質量輸送, 運動量方程式, エネルギー方程式, 移流, 拡散, 沈降速度, 土壌中の水移動		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	水質汚濁物質は「水」とともに輸送されることから、水環境を解析・予測するためには水の流れの理解が必要である。本科目では、水の流れの力学を数理的視点から学ぶこととし、具体的には以下の項目を到達目標とする。 ・環境水理学の専門用語を用いて、各種現象や定理を正確に説明できる。 ・基本的な流量計算ができる。 ・物質収支の概念を理解できる。 ・エネルギー損失に関する基本的計算ができる。		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・水の物理的性質(完全流体と粘性流体) ・完全流体の力学 ・ベルヌーイの定理, 運動量方程式 ・層流と乱流 ・管路の流れ ・質量輸送 ・移流, 拡散 ・沈降速度 ・土壌中の水移動 		
成績評価の方法	課題レポート提出10%, 期末試験90%の割合で評価する。課題レポートは、指定の期日までに提出すること。期末試験では、主にレポート課題の中から出題する予定である。		
テキスト	教科書: テキストは使用せず、必要に応じてプリント資料を配布する。		
参考文献	有田正光 編著「水圏の環境」東京電機大学出版局(1999) 井上和也 編著「わかる水理学」学芸出版社(2008) 水村和正「わかりやすい水理学の基礎」共立出版(2008)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・物理学Ⅰに加え、物理学Ⅱおよび物理学演習を履修していることが望ましい。 ・本科目は流体力学の一分野であるため、数学的記述が多用されます。本来の目的である「現象の理解」を妨げるにならないように解説しますが、復習は必須です。 なお、これまでに学んだ数学(主として微分積分)を実際に利用する場でもあることから、数学の理解も深まることを期待しています。		

授業科目名	環境管理技術論		
担当教員氏名(助手氏名)	小林 謙介		
研究室の場所	庄原キャンパス 1701研究室		
オフィスアワー	随時受付（事前にメールで日程調整をすることが望ましい）		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	環境計画, 環境マネジメントシステム, 環境影響評価, 環境指標, 省エネルギー, CO2排出量削減, ライフサイクルアセスメント (LCA)		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	環境保全やその負荷削減のためには、対象における環境負荷の排出実態を十分に捉えた上で、適切なマネジメントを行う必要がある。本講義では、環境マネジメントシステムについて理解するとともに、それに関連する様々な環境影響指標、環境影響評価手法を習得する。更には、経済的な視点も含めた環境マネジメントの在り方にも触れる。これらを通し、環境負荷の定量的な分析手法や、結果の解釈方法、それに基づく環境マネジメントのあり方を理解することを目標とする。		
授業の内容	①環境マネジメントシステムについて、ISO14000 s やエコアクションを事例に講義する。 ②環境影響指標や環境影響評価手法について説明する。具体的には、電力消費量等の実測方法やその計測結果に基づく省エネルギー計画、ライフサイクルアセスメント手法に基づくCO2排出量などの削減策の検討、統計データ等を用いたマテリアルフロー分析などの、定量的な環境影響分析の実施方法や削減策の検討方法について講義する。 ③環境経営、環境会計など、コストとの関係を含めた環境マネジメントについて説明する。		
成績評価の方法	(ア) 毎回の確認テスト (15点) (イ) 半期にわたる課題 (自宅における省エネルギー提案) (35点) ・収集データをもとに、目的を持ってデータを分析する力を持つこと ・分析したデータをもとに、改善策などを提案する力を持つこと (ウ) 期末試験 (50点) ・環境マネジメントに関する用語およびその内容を理解していること ・LCAにおけるインベントリ分析、インパクト評価を理解し、自ら計算できること		
テキスト	教員が作成した資料と、LCAに関わる内容は「演習で学ぶLCA -ライフサイクル思考から、LCAの実務まで-」（未踏科学技術協会）を用いる。		
参考文献	参考文献は随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	・講義資料および確認テストの解答は、授業終了後に学内共有フォルダ（Yドライブ）にアップする。 ・これ以外に追加で情報がある場合は、担当教員のウェブサイトにて情報発信する。 ・半期にわたって出題する課題（自宅における省エネルギー提案）に関する計測機材等は、貸与する。		

授業科目名	環境政策学		
担当教員氏名(助手氏名)	小林 謙介		
研究室の場所	庄原キャンパス 1701研究室		
オフィスアワー	随時受付（事前にメールで日程調整をすることが望ましい）		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【25年度以前入学者】環境科学科 2年次対象 【26年度入学者】環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	【20年度以前入学者】食品衛生		
キーワード	環境計画, 環境政策, 環境法, 環境対策手法, 環境影響評価		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	環境問題の回避・解決のためには、制度を構築し、具体的に実施することが必要不可欠である。 本講義では、環境問題解決のための制度設計で基礎となる、環境関連法の概要を捉えるとともに、対策の実施原則、実施主体、実施手法などを講義する。これらの内容を理解した上で、環境政策立案の根幹となる環境影響の定量的な評価と、その結果の解釈方法の基礎を概説する。更には、事例をもとに、環境政策の具体的な実施内容について説明する。これらを通して、環境政策の基本を学ぶ。		
授業の内容	①環境に関わる法（環境基本法及び個別の法律）に関する講義を行う。 ②対策に関する原則（実施に関する原則（どのような対策を行うか）、実施主体に関する原則（誰が行うか）、実施手法（どのように行うか））に関する講義を行い、制度設計の基本を理解する。 ③環境政策の立案の根幹となる環境影響の定量的な評価方法とその結果の解釈方法について説明する。また、我が国の動態（資源消費量、廃棄物量、CO2排出量など）について捉える。 ④上記について理解したうえで、環境政策の具体例をもとに、実社会で実施状況について理解する。		
成績評価の方法	(ア)毎回の確認テスト・計算演習（30点） 原則毎回講義中に実施する確認テスト（計算演習を含む）で、講義内容を理解できているかを確認し、できていれば合格点とする。 (イ)期末試験（70点） 環境政策に関する用語およびその内容を理解していること、定量的な分析手法の基礎、及び我が国の環境の動態について理解していることを合格水準とする。		
テキスト	毎回教員が作成した資料をもとに講義を行う。		
参考文献	「演習で学ぶLCA -ライフサイクル思考から、LCAの実務まで-」、未踏科学技術協会、2014.10		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	・講義資料および確認テストの解答は、授業終了後に学内共有フォルダ（Yドライブ）にアップする。 ・これ以外に追加で情報がある場合は、担当教員のウェブサイトで情報発信する。 ・11回目、12回目ですべての環境の動態を捉えるための分析に関心がある学生は、3年次に環境マネジメント学（環境管理技術論）を履修すると良い。		

授業科目名	放射線計測学		
担当教員氏名(助手氏名)	加藤 一生		
研究室の場所	庄原キャンパス 4202研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。 1回の講義につき1ないし2テーマの講義を想定し、授業時間2時間（1回）と学生の自習4時間を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	食品衛生 【23年度以降入学者】中一種免（理科），高一種免（理科）		
キーワード	検出器 電離放射線 放射線量 放射性同位元素		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本授業では、環境に関わる事象の中でも特に放射線の物理学的な分析や評価を行う為に必要な知識を習得できる。 具体的な放射線測定法を学び、放射線機器などを用いた環境放射線測定や放射線の利用を行うための準備を行う上で必要な学力を培うことができる。放射線計測学を学ぶ上で不可欠な物理的内容は1年次の物理学Ⅰと物理学Ⅱで学んでいる。 本授業は環境科学科の専門科目であり、生活環境の保全において重要な役割を果たす放射線計測に関する専門知識を学ぶことができる。		
授業の内容	放射線の生成方法と物理的な特性について解説する。特に、放射線と物質との相互作用について詳しく解説する。さらに、医療、工業など多くの分野で放射線がどのように利用されているか説明し、私たちが日常生活の中でどのように放射線に曝されているか、そして放射線を利用する時にどのような被曝の可能性があるか解説する。また放射線被ばくの人体影響について説明する。以上の準備の後に、電離箱、熱蛍光線量計、半導体検出器などさまざまな放射線測定器の原理と特性を紹介し、目的に応じて測定器の種類と使用方法をどのように選択すれば良いか解説する。		
成績評価の方法	期末試験80%，出席状況とレポート20%の割合で評価する。 レポートは不定期に授業中に課題を示す。期末試験は指定された教室（試験室）内で、指定された試験日の授業時間（90分）内に実施する。		
テキスト	『複写資料教材』を授業開始時に無料で配布する。		
参考文献	加藤一生 著 『はじめての物理学 第2版』 大学教育出版，2009。 グレン・F. ノル 著，木村 逸郎，阪井 英次（翻訳） 『放射線計測ハンドブック 第3版』 日刊工業新聞社，2001。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業内容に関連する本を数多く読み、自ら問題発見に取り組み、自ら考えて解決していくように心がけること。 講義担当教員に積極的に質問することは問題解決の糸口を得る、あるいは新たな問題を発見する上で大いに役立つ。		

授業科目名	環境衛生生物学		
担当教員氏名(助手氏名)	橋本 温		
研究室の場所	庄原キャンパス 4302研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面。プロジェクターを用いた講義形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【20年度以前, 23年度以降入学者】環境科学科 3年次対象 【21, 22年度入学者】環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	感染症, 病原微生物, 衛生動物, 寄生生物, 飲料水, 食品		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人間を取り巻く環境には様々な生物が存在している。これらの中には、人間の健康に影響を与えるものや人間生活の安全性をそこなうもの、不快感を与えるものも存在する。本講義ではこれらの生物を知り、コントロールすることによって、単に恐れるのではなく、安全で健康的な生活環境を維持することの意義について理解する。		
授業の内容	本講義では、水、食品、その他の環境を介し、人に感染症を引き起こすなどの有害あるいは不快生物を衛生生物と定義する。これらの生物について学ぶために基礎的な微生物学、衛生生物学について理解する。また、それぞれの生物を媒介する水、食品などと衛生生物との関係や防除、消毒について学ぶ。さらには、いわゆる寄生生物や衛生動物について、各論的に紹介する。		
成績評価の方法	期末試験の結果(85%), 授業中の積極的な態度(15%)		
テキスト	授業時に指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	材料学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	青柳 充, 三苫 好治		
研究室の場所	庄原キャンパス 青柳: 4401研究室 三苫: 5104研究室		
オフィスアワー	事前連絡の上で適宜実施。 場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。実験マニュアルに従って、グループ別の実験を実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【20年度以前入学者】 生命科学科, 環境科学科 2年次対象 【21年度以降入学者】 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	有機合成, 抽出, 分離, 精製, クロマトグラフィー, GC/MS, IRスペクトル, 植物バイオマス, バイオマスリファイナリー, セルロース, リグニン		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	低分子量の有機化合物から機能性有機化合物への一連の合成プロセスを通して, 溶媒抽出やクロマトグラフィーによる目的物の分離と精製技術を習得し, 次いで機器分析による単離化合物の同定法を学ぶ。次に, 循環型炭素資源の一つである植物資源を対象に, その主成分をなす高分子化合物のうちセルロース・ヘミセルロースとリグニンを化学的に分離し, 組成解析や物性の評価を行い有機系材料実験の基礎を習得する。以上により, 有機系材料を取り扱う研究全般に関する基本スキルの習得を目標とする。		
授業の内容	前半(三苫担当分: 第1回~第5回)では, ニトロベンゼンを出発原料として, 色素材料として有用なアゾベンゼンの合成を行う。単離精製したアゾベンゼンのIRスペクトルやGC/MSを測定し, 同定を行う。また, 後半(青柳担当分: 第6回~第10回)では, 植物資源(リグノセルロース組成)の基本組成(灰分, 水分, 抽出成分等)量を測定する。このリグノセルロース組成を原料としてアルカリパルプ化法によりセルロース・ヘミセルロースを含む「パルプ」と変性リグニンを分離・精製を行う。得られたパルプは漂白処理を行う。また, Klason法によりリグニンと加水分解糖液を分離し, その正確なリグニン含有量を評価する。		
成績評価の方法	実験に取り組む姿勢, レポートの内容によって判断する。欠席はよほどの理由がなければ認められない。欠席した場合やレポート未提出の場合は不可とする。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献	「有機化合物のスペクトルによる同定法-MS, IR, NMRの併用- 第6版」 著 R. M. Silversteinら, 訳 荒木峻ら(東京化学同人)など。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	白衣を必ず持ってくること。		

授業科目名	微生物学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	橋本 温 有馬 寿英		
研究室の場所	庄原キャンパス 橋本：4302 有馬：5201		
オフィスアワー	事前連絡の上で適宜実施 場所は担当教員研究室		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対面授業と実験 ・ 実験マニュアルに従って、グループ別に実験を実施 		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【20年度以前入学者】 生命科学科 環境科学科 2年次対象 【21年度以降入学者】 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科) 高一種免(理科) 食品衛生		
キーワード	基礎実験、微生物、培地、殺菌と滅菌、植菌、培養、無菌操作、生化学的性状、形質転換、プラスミドDNA、制限酵素、電気泳動、PCR法、データベース		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本実験は、今後必要となる専門実験・研究におけるその基礎・基本として位置付けられている。</p> <p>本実験では微生物をその中心とし、その取扱いなどに関する基本実験技術の習得を目指すとともに、遺伝子工学についても、その初歩実験技術の習得と理解を目的とする。これらの実験によって、3年次での生命科学・環境科学における専門実験・研究に向けたその初期導入を目指す。</p>		
授業の内容	<p>橋本担当部分：微生物の取り扱い、細菌培養の基礎と観察法について学ぶ。また、実際の試料を用いて指標微生物の定量を行い、定量法の取得と理解および水処理工程における指標微生物の除去性について学ぶ。</p> <p>有馬担当部分：遺伝子工学における基礎・基本である大腸菌の形質転換を実施後、その形質転換体を用いて、プラスミド抽出とPCR法による遺伝子増幅を試みる。そしてその確認のため、電気泳動による分離を実施する。さらに、web siteを利用したデータベース検索に関するその初歩技術の習得と理解を目指す。</p>		
成績評価の方法	<p>出席状況及び実験態度(5~10%)、そして実験別に提出されたそのレポートに関する内容(90~95%)を総合的に判断、成績評価する。</p> <p>実験に関しては全回出席すること(欠席は特別な理由がなければ認められない)。</p> <p>欠席・遅刻・中抜けした場合、及びレポート未提出・提出遅れなどは、原則不可とする。</p>		
テキスト	適宜、実験ごとに微生物学実験マニュアルを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>可能な限り事前に微生物学実験マニュアルを配布する事を予定しているため、その予習は必須である。実験への欠席、及び遅刻・中抜けは厳禁とする。白衣は必ず持参・着用する事。これらの事項を遵守出来ない者は、原則不可とする。</p>		

授業科目名	分析化学実験		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 浩幸, 内藤 佳奈子		
研究室の場所	庄原キャンパス 原田：3701研究室 内藤：4303研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面式の授業。数人ずつの学生を1グループとし、1回に1テーマを共同で実験する。実験方法に関する資料を事前に配布するので、関連事項を必ず予習しておくこと。一人ずつに1テーマごとにレポートの作成と提出を義務づける。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【20年度以前入学者】 生命科学科, 環境科学科 2年次対象 【21年度以降入学者】 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	重量分析(結晶水), 分光分析(リン酸, Na, K, 検量線), イオン交換反応(樹脂, クロマトグラフィー), Fe ²⁺ -フェナントロリン錯体, 吸光光度法, キレート滴定, 酸・塩基解離定数, 化学的酸素要求量, 水の硬度		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	分析化学実験では、他の化学実験にも基本となる化学反応の定量的扱いの習得を目指し、化学平衡における化学種の濃度測定法と解析法、さらに基礎的な有機化合物定量法を学習する。いたずらに分析操作と技術だけに走ることがないように、分析法の根底に横たわる原理の理解を徹底する。 本科目は、環境科学科の全入学者と生命科学科の20年度以前入学者における専門基礎実験科目として区分されている。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> (1) 重量分析：揮散重量分析による硫酸銅の結晶水の定量を行い、統計処理を学ぶ。 (2) 分光分析：分光(吸光)光度計でリン酸、原子吸光分光光度計でナトリウムとカリウム、それぞれの吸光度を測定し、検量線の作成による定量について学ぶ。 (3) イオン交換反応：水素イオン型陽イオン交換樹脂での酸塩基指示薬による確認、また、陽イオン交換カラムで硬水の軟水化や銅吸着と溶離実験を行い、イオン交換反応について学ぶ。 (4) 実習で使用する試薬調製を行い、化学薬品や実験器具の使い方を学ぶ。 (5) 酸化還元滴定を行い、環境水中の化学的酸素要求量の定量を学ぶ。 (6) キレート滴定を行い、水の硬度の測定を学ぶ。 (7) 中和滴定を行い、アルカリ消費量の測定を学ぶ。 (8) 吸光光度法による錯体を用いた鉄(II)イオンの定量を学ぶ。 		
成績評価の方法	実験のテーマごとにレポートの提出を義務付ける。レポートの体裁、提出先および期限については授業中に指示する。評価はレポートの内容(60%)、出席および実習態度(40%)などで総合的に行う。		
テキスト	実験に関する資料教材は、授業開始前に配布する。		
参考文献	参考文献は、授業中に適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・本実験の実習内容は、全ての実験・実習や実験系の研究室における卒業論文の履修に密接に関係している。 ・化学実験では、わずかな不注意や無理解が重大な事故につながることもあるため、授業中に指示する注意事項は必ず守ること。 ・レポートの提出期限を厳守すること(期限後は減点となる)。 ・実験中は白衣を着用すること。 ・本科目の単位習得は、卒業論文着手要件の1つになっている。単位未修得の場合は留年となるので注意すること。 		

授業科目名	環境学実験Ⅲ（環境技術系）		
担当教員氏名(助手氏名)	西村 和之, 崎田 省吾, 有馬 寿英		
研究室の場所	庄原キャンパス 西村：5503研究室, 崎田：4204研究室, 有馬：5201研究室		
オフィスアワー	事前連絡の上で随時可能。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面式の実験・実習。学生グループごとに、いくつかのテーマを共同で実験する。学生は講義に出席し、課題のレポートを作成・提出することが義務付けられる。実験方法に関する資料を事前に配布するので、関連事項を必ず予習しておくこと。なお、質問等は、直接またはE-mailで受け付ける。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【21年度以降入学者】環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	【23年度以降入学者】中一種免(理科), 高一種免(理科)		
キーワード	水質分析, 水処理技術, 消毒処理, 活性汚泥法, 土壌物性, ベルヌーイの定理, 透水試験		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	水環境管理工学や環境水理学の講義内容の一部を実習する。本科目は、環境科学科の専門教育実験科目として区分されており、主として環境工学分野に関する様々な現象の物理学・化学・微生物学的な分析や評価を行うために必要な知識・技術を習得することができる。具体的には、以下の項目を到達目標とする。 ①上下水道処理分野, 水理・土壌物性分野の専門用語を分かりやすく説明できる。また、それらを用いて現象・原理を正確に理解・説明できる。 ②実サンプルを用いて、目的に応じた適切な実験手法・計画を設定できる。また、必要な測定、分析を行い結果を解析・評価できる。		
授業の内容	主に以下の内容に関する講義・実験を行う。 ・ジャーテストによる凝集沈殿処理条件の決定 ・活性汚泥の性状指標の測定、分析 ・ブレークポイント塩素注入法 ・土壌物性の測定(粒度分布、密度試験、含水率等に関する試験) ・流量測定実験によるベルヌーイの定理の検証 ・土壌の透水性試験(定水位透水試験) ・土壌カラム通水試験		
成績評価の方法	実験テーマごとにレポートの提出を義務付ける。レポートの体裁、提出先、および期限については講義中に指示する。評価はレポートの内容(60%)、実習態度(40%)をもとに、総合的に行う。		
テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント資料を配布する。		
参考文献	水村和正『わかりやすい水理学の基礎』共立出版(2002) (社)地盤工学会『土質試験 基本と手引き』 等、必要に応じて講義内で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	・本科目は、環境衛生生物学、環境微生物学、環境水理学、環境衛生学、水環境管理工学、分析化学等の講義内容が密接に関係していることから、これらの科目を履修していることが望ましい。 ・化学系の実験を含むため、わずかな不注意や無理解が重大な事故につながる可能性がある。講義中に指示する注意事項は必ず守ること。 ・レポートの提出期限を厳守すること(期限後は減点とする)。 ・実験中は、学籍番号を明記した名札と白衣を着用すること。		

授業科目名	環境学実験Ⅱ（環境分析化学系）		
担当教員氏名(助手氏名)	西本 潤, 増田 泰三, 松本 拓也		
研究室の場所	庄原キャンパス 西本：4502研究室 増田：3401研究室 松本：5205研究室		
オフィスアワー	事前連絡の上で適宜実施。 場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面式の実験・実習。授業日程に従って、無料で配布する複写資料教材を用いて実施する。数人ずつの学生を1グループとし、数回に渡っていくつかのテーマを共同で実験する。実験方法に関する資料を事前に配布するので、それに関連する事項について必ず予習をしておくこと。一人ずつにテーマごとにレポートの作成と提出を義務づける。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科)		
キーワード	植物・土壌分析, 植物と肥料の栄養元素, 野菜の硝酸, pH, EC, 原子吸光光度法, 可視紫外分光光度法, 干渉, マスキング剤, 溶媒抽出, 比色定量, 陰イオン界面活性剤, 亜硝酸態窒素		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	環境学実験Ⅱでは、他の化学系の実験を基にした、水、土壌、植物などを対象とする実習を行う。 本科目の目標は、水や土壌環境の評価に必要な化学分析法の理解と習得であり、試料採取、保存、処理および分析法についての解説と実習を行う。また、吸光分光光度計、pH計、原子吸光分光光度計などの機器分析に関わる原理を理解してもらうための測定も行う。 実際のサンプル等を取り扱い、分析法の根底にある原理を理解することから、本科目は、環境科学科における専門教育実験科目として区分されている。		
授業の内容	(西本)：○フレイム原子吸光光度計によるカルシウムへの干渉の測定。 ○吸光光度計による二価鉄の定量への妨害。 ○溶媒抽出におけるマスキング剤の効果。 (増田)：○数種類の特性の異なる土壌や培土のpHとECの測定。 ○植物と肥料の無機成分測定(野菜収穫部位の窒素, リン, カリウム, カルシウムと肥料の窒素, リン酸, カリの分析。窒素はケルダール法(硫酸分解, 蒸留, 滴定)でリンはバナドモリブデン酸比色により分光光度計でカリウムとカルシウムは原子吸光分光光度計で測定する。 (松本)：○溶媒抽出, 比色法による陰イオン界面活性剤の定量を行う。 ○ジアゾ化法による亜硝酸イオンの定量を行う。		
成績評価の方法	実験のテーマごとにレポートの提出を義務付ける。レポートの体裁・提出先および期限については授業中に指示する。評価はレポートの内容(60%), 実習態度(40%)などで総合的に行う。		
テキスト	実験に関する資料教材は授業開始前に配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本実験の実習内容には、分析化学系と環境植物代謝栄養学の講義内容が密接に関係していることから、前述の科目の受講者の履修が望ましい。 化学系の実験では、わずかな不注意や無理解が重大な事故につながることもあるため、授業中に指示する注意事項は必ず守ること。レポートの提出期限を厳守すること(期限後は減点となる)。実験中は、白衣を着用すること。		

授業科目名	環境科学演習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	四方 康行		
研究室の場所	庄原キャンパス 四方：1601研究室		
オフィスアワー	水曜日 2限		
授業の形式・方式	対面式講義, 室内作業, 現地調査等を活用		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	災害防止, ダム計画地, 生態系, 地域振興, 河川の防災対策, 3R, 循環型社会, バイオマスの利活用		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	環境という言葉は幅の広い概念である。環境科学演習 (I) では, 河川環境, 森林環境, 循環型社会等に関して, 現場での理解をもとにして演習を行い, 実社会での応用的対応ができる能力を身につける。		
授業の内容	①昭和47年7月の水害による被災地である安芸高田市川根地区の復興における考え方と実践の奇跡に学び, 併せて, ②今後の災害を防止することも目的とする灰塚ダムの構造と機能を学び, さらに, ③災害防止のダムがダム計画地の住民の移動を余儀なくさせ, また, 従来の生態系とは異なる生態系を強制することをいかにして策したか, そして④新たな秩序のもとでの地域振興が実現したかを学ぶ。また, 循環型社会の形成のための, 3R (Reduce, Recycle, Reuse) の実態, 中山間地域で重要なバイオマスの利活用を庄原市をはじめ中国地域での現場を理解するために, フィールドに出かけた調査や演習を行う。		
成績評価の方法	出席点とレポート点を評価する。		
テキスト	随時提示する。複写資料教材を授業開始時に無料で配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本演習の内容には, 地域環境計画論, 環境秩序構成論, 環境経済学等の講義内容と密接に関わっている事から, これらの科目の受講生による履修が望ましい。授業に関する連絡方法は, 正式には教学課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	環境法		
担当教員氏名(助手氏名)	原田 浩幸		
研究室の場所	庄原キャンパス 3701研究室		
オフィスアワー	(指定) 水曜日2時限及び5時限 3コマ目がない昼休みなど		
授業の形式・方式	対面講義, 演習		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	【22年度以前入学者】 選択 【23～25年度入学者】 必修
履修要件	【22年度以前入学者】 環境科学科 2年次対象 【23～25年度入学者】 環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	環境基本法, 環境マネジメントシステム, 大気汚染防止法, 水質汚濁防止法, 循環型社会形成推進法, 廃棄物関連法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	環境保全に係る法律や制度の基礎を習得することを目的とする。 本講義では, 環境基本法, 大気汚染防止法及び水質汚濁防止法を教材として法律の条文に慣れるとともに, 環境法の体系, 並びに大気及び水質の環境保全制度について学ぶ。 到達目標はISO14001に関わる法的要求事項の特定をはじめ, 環境マネジメントシステム(EMS)の構築, 内部監査, 順法評価の実施を理解することである。環境科学を学ぶ初歩に位置する科目。		
授業の内容	ISO14001 規格と環境法規との関わり, 環境法規の体系と要求事項の特定手順, さらに以下の区分で環境法規について留意すべきその要求事項等を解説する。 1. 環境一般/地球環境 2. 公害一般/大気汚染/水質汚濁/土壌汚染/騒音・振動/地盤沈下/悪臭 3. 廃棄物/リサイクル/化学物質等/自然保護等/関係法		
成績評価の方法	2回の学習定着確認試験の70% 過去問レポート 3回 10%×3		
テキスト	産業管理協会 公害概論		
参考文献	現場で使える環境法[改訂2版] 産環協		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	この講義の内容を理解できれば公害防止管理者など国家試験問題も十分に対応できる。 遅刻は30分からアウトの欠席2回出席をとる。2回目いなければアウトの欠席		

授業科目名	環境リスク学 I		
担当教員氏名(助手氏名)	橋本 温		
研究室の場所	庄原キャンパス 4302研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【21～25年度入学者】環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	環境リスク, リスクアセスメント, ハザード		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本講義では環境における様々な有害事象(リスク)を定量的に評価し、マネジメントする手法について講義する。 本講義の目標として、リスクの定義、意味を理解できる、各種の環境リスクを算定する手法を理解する、各種の環境リスクを適切に評価できること、とする。		
授業の内容	リスクの定義を示した上で、リスクを定量的に評価することの意義について説明する。その上で、対象として、人の健康にかかわるリスク(化学物質、微生物など)、生態系へのリスク、地球環境に対するリスクを取り上げ、それぞれのリスク評価について説明する。さらには、環境のリスクを評価することの限界や失敗事例についても講義する。		
成績評価の方法	期末試験の結果(85%), 授業中の積極的な態度(15%)		
テキスト			
参考文献	中西他著 演習環境リスクを計算する, 岩波書店 松原著 リスク科学入門, 東京図書 中西著 環境リスク学, 日本評論社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	環境数理学		
担当教員氏名(助手氏名)	加藤 一生, 崎田 省吾		
研究室の場所	庄原キャンパス 加藤: 4202研究室 崎田: 4204研究室		
オフィスアワー	随時可。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。コースカタログに従って、講義・演習形式で実施する。 1回の授業につき1ないし2テーマの講義・演習を行い、授業時間2時間(1回)と学生の自習時間4時間を想定した授業を行う。学生は授業に出席し、課題のレポートを作成・提出すること、期末試験を受けることが義務付けられる。なお、質問等は、直接またはE-mailで受け付ける。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	【21~25年度入学者】環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	基本統計量, データ分布, 最小二乗法, 微分方程式		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	環境科学に関する現象を解析するためには、微分積分学、統計学等の数理学的知識の理解が必須である。本科目では、環境科学科専門科目を学ぶにあたっての基礎的な解析能力の向上を目的として、環境科学に関わる実際の諸現象を題材とした数理学的考察手法の基礎を習得できる。具体的には、以下の項目を到達目標とする。 ①データを適切なグラフに変換し、その特徴を挙げることができる。 ②データの回帰分析と相関係数の求め方を正しく理解し計算できる。 ③基本的な微分方程式を記述し、解を導出できる。 ④数値計算とそのグラフ化を通じて微分方程式の解の意味を理解し表現できる。		
授業の内容	主に以下の内容に関する講義・演習を、環境科学分野の諸現象を題材にして行う。 なお、授業はコンピュータ実習室で行う場合があるので、その際は担当教員の指示に従うこと。 (1) 基本統計量とデータの分布 (2) 誤差論の基礎 (3) 回帰分析と相関分析 (4) 微分・積分 (5) 微分方程式の基礎 (6) 数値計算法の基礎		
成績評価の方法	期末試験80%, 課題レポート(宿題)20%の割合で評価する。 課題レポートは、講義中に指示する。 期末試験では、主にレポート課題の中から出題する。		
テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント資料を配布する。		
参考文献	滝沢 智『環境工学系のための数学』, 数理工学社, 2004 小川 東『環境のための数学』, 朝倉書店, 2005 吉澤康和『新しい誤差論』, 共立出版, 1989 等, 講義内で随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	数理学的素養を身につけるためには、理論をしっかりと理解することに加え、実際に自分で解いてみる(やってみる)ことが重要です。 内容に関することやPCスキルに関すること等、細かい点でも結構ですので、疑問点は積極的に担当教員に質問してください。何がどう分からないかを自分の口で言うことは、疑問点を明確にする上で非常に有効です。		

授業科目名	環境保全生物学		
担当教員氏名(助手氏名)	五味 正志		
研究室の場所	庄原キャンパス 3403研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、配付するプリントを用いて講義形式で実施する。授業の内容および進度は、学生の予習および復習を前提としたレベルを設定する。学生は、授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。場合によっては、レポートの作成・提出を求めることもある。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【20年度以前入学者】 環境科学科 2年次対象 【21～25年度入学者】 環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	個体群, 群集, 生命表, 種の多様度指数, 生物多様性, 絶滅危惧種, 島嶼生物地理学, 年齢構造, 有効個体群サイズ, 最少生存可能個体数, 個体群生存力分析, 個体群成長, 保護区的设计		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	近年, さまざまな地球環境問題が顕在化しており, その内容を十分に理解し, 解決策を探ることが全人類に対して求められている。 本科目では, 地球環境問題の中から生物保全について講義する。本講義の目的は, 生物多様性を保全する必要性を理解させ, 生物保全の基礎となる生態学の理論と手法を習得させることにある。 授業では, 生物多様性減少の原因, メカニズム, 影響などについて理解を深め, 生物保全に必要な生態学の理論とそれらを応用した保全手法や保全計画について学習することを目標とする。		
授業の内容	環境保全生物学では, 基本的に動物生態学に基づいた生物保全の理論および手法を中心に講義する。授業では, 前半に生物を保全するために必要となる生態学の基礎知識を習得し, これらの知識に基づいた生物保全の理論および実践的方法について学習する。 講義の前半に生物保全の基礎となる生態学の理論として, 個体の分布様式, 個体群の成長, 生命表, 年齢構造, 個体数変動, 島嶼生物学, 種間競争, 生物多様性などについて学習する。 後半に, 野生生物保全の実践的理論として, 有効個体群サイズ, 最少生存可能個体数, 個体群生存力分析, メタ個体群分析などについて学習する。また, これらの理論に基づく, 環境評価の手法, 保護地区の設定方法, 稀少生物の保全方法, 保護地区の管理方法などについて学習する。		
成績評価の方法	期末試験期間中に試験を実施し, 試験90%と授業態度10%の割合で評価する。試験は指定された講義室(試験室)において指定された講義時間(90分)内で, プリントやノート類などの持ち込み不可で実施する。 中間試験やレポートを課すこともある。		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修者は, 十分に予習・復習をして講義に臨むこと。 授業に関する連絡方法は, 教学課の掲示板に掲示するか, 講義中に口頭あるいは文書で指示する。		

授業科目名	環境リスク学Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	西村 和之, 橋本 温		
研究室の場所	庄原キャンパス 西村：5503研究室 橋本：4302研究室		
オフィスアワー	事前連絡の上で適宜実施。 場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面・講義および演習。1回の演習は、授業時間2時間(1回)あたりに学生の自習4時間を加えた学習時間に相当する授業を行う。適宜、課題レポートを課す。学生は、授業への出席、課題レポートの提出と試験の受験が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【21～25年度入学者】環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	食品衛生		
キーワード	環境リスク, リスクアセスメント, 環境基準とリスク評価		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	環境リスク学Ⅰでは、環境リスクの定義と「化学物質および病原微生物のヒトの健康にかかるリスク評価」および「生態系への様々な事象のリスク評価」について、意義や評価の方法について学んだ。これを基に、本講義では、実際のデータを使って、リスクの評価、判定について実践的に演習することで、健康リスクと環境基準の関係、環境リスクの評価手法およびその適切な利用法について理解する。		
授業の内容	環境リスク学Ⅰで学んだ「化学物質および病原微生物のヒトの健康にかかるリスク評価」および「生態系への様々な事象のリスク評価」の手法を基に、実際のデータに基づいて、データの収集、有害性の評価、暴露評価およびリスクの判定について、Webおよびコンピュータを用いて演習する。演習の内容は、特定の地域における化学物質などの濃度情報をPRTR情報や各地の測定データなど、各種機関による調査データより習得し、それを基にU.S. EPAの開発したThe Estimation Programs Interface (EPI) suiteなどのソフトウェアを用いてリスク評価を行う。自ら評価したデータに基づいて、そのリスクを判定し、マネジメントに必要な点について考察する。最後に演習の内容についてプレゼンテーションを行う。また、環境リスクの評価・管理の実践的な内容について、毒物劇物の管理に関する講義も行う。		
成績評価の方法	成績評価は、演習課題のレポートで行う。		
テキスト			
参考文献	演習 環境リスクを計算する 中西ら 岩波書店, 環境リスク解析入門[化学物質編] 吉田 中西 東京図書		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	本演習の内容には、生態学や環境衛生生物学、水環境管理工学や環境衛生学の講義内容と密接に関わっていることから、これらの科目の受講生による履修が望ましい。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。 課題や試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。		

授業科目名	環境微生物学		
担当教員氏名(助手氏名)	阪口 利文		
研究室の場所	庄原キャンパス 3302研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	基本的に講義形式，専門講義を行うが基礎的内容にも触れつつ授業を進行する。板書は行わない。聴講に重きを置く。power point などの視聴覚ソフト，機材を用いて講義を行う。講義の本質であるライブ感を楽しめ。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【21～25年度入学者】環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	【23～25年度入学者】中一種免(理科)，高一種免(理科)		
キーワード	資源回収，バイオエネルギー・燃料，環境浄化，バイオレメディエーション，生物変換・回収，ナノ微粒子，生物鉱物化作用(バイオミネラリゼーション)		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	基礎バイオレメディエーション，応用微生物学，環境リスク学，微生物学，遺伝子工学など微生物学，バイオテクノロジー関連科目との関係がある。バイオテクノロジー関連科目の学習，知見収集を自学，自習できる学生を育成することが本講義の目標である。		
授業の内容	環境・エネルギー・元素材料資源に関する微生物学・バイオテクノロジーについて概説しながらこれらの内容について理解ができるように講義を進めるが，大学の講義は中学・高校のように学習指導要領があるような学問の限界点を定めることはしない。したがって，本講義を契機に当該分野の自学ができるような知識のオープンドア的目標をもった講義を実施したいと考えている。ノートを取るよりライブ感を楽しめ。		
成績評価の方法	まず出席してもらわねばテストや評価を受ける権利を無くしてしまうことをあらためて明示したい。その上で，テスト(レポート・論述形式)を行って評価する。一切の救済措置をとらないのでテストを必ず受けてください。全ては自己責任になります。		
テキスト	Brock Biology of Microorganisms (オーム社)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	講義中の携帯や居眠り，おしゃべりはいけません。いつも退出してもらっています。 基礎バイオレメディエーション，応用微生物学，環境リスク学，微生物学，遺伝子工学を履修のこと。水曜3限にかかわらずバイトで遅くなって寝てました。って遅刻や欠席の理由を述べる学生は，本講義の受講を絶対におすすめしない!!バイトは学業達成のためにやるものだ。本末転倒者の4年次卒業自体難しいであろう。ここに申し添えておく。		

授業科目名	基礎バイオレメディエーション		
担当教員氏名(助手氏名)	阪口 利文		
研究室の場所	庄原キャンパス 3302研究室		
オフィスアワー	特に設定せず、研究室に随時 (但し、出張時・不在時を除く)		
授業の形式・方式	本講義は従来のパッシブ型講義は行わない。プレゼンテーションを中心とした学生参加・アクティブラーニング型の講義を実施する。効果的な講義を進めるためにも受講生の人数は20名以内とする。もしこれを超える場合は受講制限を実施する。その場合、GPA 2.0以上、微生物学・環境微生物学をB以上の成績を要求するなどして、受講生の人数を制限したい。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【25年度以前入学者】環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	【22年度以前入学者】食品衛生 【23～25年度入学者】中一種免(理科), 高一種免(理科), 食品衛生		
キーワード	バイオレメディエーション, 微生物, バイوسفエア, 遺伝子工学, ゲオロジー		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	研究発表を通じて生物環境修復の概略を理解し, 生命現象が汚染環境の修復に利用できる原理や実例について自ら学ぶことを目的とする。加えて建設, 社会学的な視点からもバイオレメディエーションを見つめ, その技術としての経済的価値や活用可能性についても理解を深める。また, プレゼンテーション能力や発表に対する批判的視点を養って欲しい。		
授業の内容	化学物質の分解や変換に関わる生命現象・代謝について微生物を対象にその例を紹介する。 また, PCRやシーケンスといった生命工学の基礎的技術についても講義で扱います。 資料プリントを配布し, 最低限理解してほしい事項についてメモを取ってもらいます。 ただし, ノートを取るより講義というライブ感を楽んで欲しい。また本講義はアクティブ型講義を実践した場合ではこのシラバスに従った講義は行わない。消極的受講者にはお勧めしない講義である。そのため初回講義には必ず参加すること。		
成績評価の方法	論述型試験を複数回行う。この試験の受験資格は講義の80%以上に出席した者とする。アクティブ型講義を実践した場合においてはこのとおりではない。必ず初回講義には参加すること。		
テキスト	1) 環境浄化のための微生物学(須藤隆一編) 講談社サイエンティフィック (ISBN4-06-139491-6) 2) 地球環境サイエンスシリーズ⑨微生物と環境保全三共出版 (ISBN4-7827-03546) できれば2)を購入の上講義に臨まれたし。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	講義中の携帯, おしゃべりや居眠りはいけません。他の人の迷惑にならないというバカげた言い訳は通じません。自身の態度が問われているのです。いつも退出してもらっています。 分析化学系科目, 生物化学系科目を受講していることが望ましい。		

授業科目名	環境フィールドワーク論		
担当教員氏名(助手氏名)	加藤 博和 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面・集中講義		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【25年度以前入学者】環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	フィールドワーク, 質的調査・データ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>環境科学科の学生は、授業や卒業研究などにおいて、「現場」(フィールド)で生じている問題を切り口にしてその背景や構造を明らかにしようとする機会が少なくないと思われる。また、文献と現場の両方に立脚した研究アプローチを推奨したい。</p> <p>そこで本授業科目を、環境科学科における実証的調査研究方法論に関する科目の1つとして位置付け、フィールドワークを中心に質的調査の手法(フィールドそのものの現状や研究成果などを含む)について講義する。</p> <p>授業の目標は、講義内容を理解した上で、フィールドワークが実践できるようになることである。</p>		
授業の内容	<p>本授業科目は、講師によるフィールドワークに関する概説(座学)と、受講者によるフィールドワーク(実践)から構成される。</p> <p>フィールドワークに関する概説として、</p> <p>1) 質的データの収集, 2) フィールドワーク等の事例, 3) 質的調査の応用・倫理についての内容を予定している。</p> <p>また、フィールドワークの実践として、庄原市街地循環「ひまわりバス」への乗車などを予定している。</p>		
成績評価の方法	フィールドワーク及び筆記試験(70%), 出席状況(30%)		
テキスト	テキストは使用せず、レジュメ・資料を配布する。		
参考文献	<p>谷・芦田編著(2009)『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房。</p> <p>佐藤郁哉(1992)『フィールドワーク』新曜社, 同(2002)『フィールドワークの技法』新曜社。</p> <p>中村・広岡編(2000)『フィールドワークの新技法』日本評論社。</p> <p>加藤博和(1995)『備北交通(広島県北)を考える』加藤博和。など</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>質問等には授業中でもその他の時間でも対応します(メール可)。</p> <p>フィールドワークの実践は、地元・庄原市を理解する良い機会になると思います。</p>		

授業科目名	自然資本論		
担当教員氏名(助手氏名)	堀田 学		
研究室の場所	庄原キャンパス 1708研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【21～24年度入学者】生命科学科，環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	大気・水・土地，経済システム，価値と自然，労働，交換，資本と生物資源，物質循環，社会的共通資本，食料と人口		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義では，産業革命以降，経済学が主対象としてきた市場と価格のメカニズムの分析で捉えられない大気，土地，水などの自然資源や共有資源に関する考察を通して，今日的な社会経済の課題を考察する。具体的には自然の価値を経済学がどのように議論してきたのかを経済理論の展開から学ぶ。		
授業の内容	経済学理論における自然資本，社会資本，制度資本等の社会的共通資本の再構築課題をはじめとして，物質循環と持続性，経済成長と農業農村の役割，国際食料問題と人口動向，地域複合農業を基盤とする複合型社会経済構造の課題を主として講義する。自然資本としては，大気，土壌，河川，海洋，森林，生態系，生命システム等を対象とする。		
成績評価の方法	出席およびレポートによって採点		
テキスト	指定しない		
参考文献	参考文献として，ハンス・イムラー『経済学は自然をどうとらえてきたか』栗山純 訳 農文協，ポール・ホーケン『自然資本の経済』佐和隆光監訳 日本経済新聞社，宇沢弘文『宇沢弘文著作集』岩波書店，玉野井芳郎『玉野井芳郎著作集』学陽書房，小野誠志編著『中山間地域農村の展開』筑波書房，池本廣希『生命系の経済学を求めて』 新泉社		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	環境経済学		
担当教員氏名(助手氏名)	四方 康行		
研究室の場所	庄原キャンパス 1601研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業，視聴覚教材，演習等をおりまぜて行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【21～25年度入学者】環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	環境経済学，環境破壊，環境資源，社会的費用，廃棄物，環境経営，市場の失敗，環境評価		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	環境経済学では持続可能な社会を構築するための経済理論を中心に講義する。環境政策学，環境会計学，地域環境計画論が関連科目として開講されているので，それらとの関連が理解できるように体系的な講義を行う。		
授業の内容	環境経済学を理解するために，経済学や経営学などが基礎となるが，一方で，地球環境問題，廃棄物問題など，グローバルかつローカルな現実問題に関係させて講義を行い，環境問題を社会科学的な側面から正しく把握できる様な授業を行う。内容としては，環境問題と市場の失敗，廃棄物の経済学，地球温暖化問題，環境経営と環境評価などである。		
成績評価の方法	出席とレポート，試験等により評価する。		
テキスト	随時，授業中に指示。複写資料を無料で配布。		
参考文献	栗山・馬奈木著「環境経済学をつかむ」，栗山浩一著「環境経済学の基本と仕組みがよ～くわかる本」，三橋規宏著「環境経済学入門」		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	環境会計学		
担当教員氏名(助手氏名)	四方 康行		
研究室の場所	庄原キャンパス 1601研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式による。必要に応じて、パワーポイントによるプレゼンテーションや補助教材としてビデオを用いて、できるだけ、理解しやすいように講義を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【25年度以前入学者】環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	環境問題、環境会計ガイドライン、環境報告書、CSR(企業の社会的責任)、マクロ環境会計、メゾ環境会計、ミクロ環境会計、社会的費用		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>環境会計学は、会計学としては新しい学問である。</p> <p>今日の環境問題を解決し、環境保全に役立つツールをこれによって身につけることが授業の目標である。環境会計は日本では環境省が環境会計ガイドラインを制定していることもあり、多くの企業で取り組まれている。しかし、ガイドラインであるために最低限のことが示されているが、その中身は不十分であるといえる。</p> <p>本授業では、社会的問題として環境保全を考えていくためによりよい環境会計の仕組みについて講義していく。</p>		
授業の内容	<p>環境会計を理解するために、まず、先に伝統的な会計システムについて講義する。</p> <p>次に、環境会計の仕組みを説明する。環境会計は企業レベルのミクロ環境会計、国レベルのマクロ環境会計があるが、その中間である自治体などのメゾ環境会計についても講義する。また、環境会計は外部報告のための外部環境会計（これには環境省のガイドラインがある）と内部の環境管理のための内部環境会計がある。どちらも重要なので、両者について講義する。さらに、自然資源の価値や社会的費用論などを、今後の環境会計の構築・発展のためには考察していかなければならない。</p>		
成績評価の方法	試験、レポート、出席状況を総合判断して評価する。		
テキスト	随時、紹介する。必要な資料は配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	環境学実験 I (環境生物系)		
担当教員氏名(助手氏名)	五味 正志, 内藤 佳奈子, 有馬 寿英		
研究室の場所	庄原キャンパス 五味: 3403研究室 内藤: 4303研究室 有馬: 5201研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。グループ別に実験・調査を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	【25年度以前入学者】環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	【25年度以前入学者】中一種免(理科), 高一種免(理科)		
キーワード	(内藤) 植物プランクトン, 栄養塩, 無機イオン, 水質調査(五味) 昆虫相, 多様度指数, 個体数推定法, 標識再捕獲法, 外部形態, 内部形態, 飛翔筋(有馬) DNA, PCR, 電気泳動, 微生物		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	生物と環境との関係についてマイクロ及びマクロ両面の視点から, 化学, 生化学, 及び生態学的手法を用いた基本的な実験を行い, 環境科学に係る事象について多角的に考察する上での観察力と定量・定性的測定等に関する応用力を養成する事を目的とする。		
授業の内容	オムニバス方式で行う。 (内藤) 湖沼の水質調査を行う上で必要なサンプル処理法, 分析法に関しての実験・実習を行う。水中の生物と無機物質との関係について理解を深める。 (五味) 昆虫を材料として生態学的手法に基づく実験を行う。環境保全に必要な野外個体群の調査法など, 環境と昆虫の関係について幅広い観点から実験を行う。異なる環境における昆虫相の多様度指数の比較や, 標識再捕獲法による個体数推定法などの実験を行う。また, 昆虫の外部および内部形態について, 観察・調査することにより理解を深める。 (有馬) 生物からのDNA抽出やPCR法などの遺伝子操作に関する基本的な技術を習得するための実験を行う。		
成績評価の方法	出席と実験態度, レポート内容をほぼ等価値で評価する。		
テキスト	特に指定しない。実験マニュアルはプリント配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	実験中の事故防止に充分注意を払うこと。 実験に関係のない私語や携帯電話の使用などは厳禁とする。グループでの協議, 教員への質問を積極的にするように。		

授業科目名	環境科学演習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	西村 和之, 崎田 省吾		
研究室の場所	西村: 5503研究室 崎田: 4204研究室		
オフィスアワー	事前連絡の上で随時可能。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。講義日程に従って、講義・演習形式で実施する。学生は講義に出席し、課題のレポートを作成・提出することが義務付けられる。演習内容に関する資料を事前に配布するので、関連事項を必ず予習しておくこと。なお、質問等は、直接またはE-mailで受け付ける。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	LCA, チームマイナス6%, 環境評価指標, 環境基準とリスク評価, 廃棄物, リサイクル		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>本科目では、環境に関する様々な数値データを用いて各種評価指標に当てはめ、結果を解析する。環境科学科における専門教育演習科目として区分されており、主として環境評価システムに必要な知識・解析手法を習得することができる。具体的には、以下の項目を到達目標とする。</p> <p>①様々な環境評価指標を正しく理解し、説明できる。 ②目的に応じた適切な評価指標を選択し、自ら計算できる。 ③必要なデータを収集したり、不足するデータやその精度等に対して適切に対応できる。 ④解析結果から対象事象を評価できるとともに、より望ましい対策・方針を提案できる。</p>		
授業の内容	<p>主に以下の内容に関する講義・演習を行う。なお、本科目はコンピュータ実習室で行う場合があるので、その際は担当教員の指示に従うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LCAと環境指標 ・フードマイレージ ・ハイドログラフ, 利水量と環境基準 ・廃棄物排出量の将来予測 ・最終処分場の計画に関する各種技術計算(浸出水処理施設など) ・最終処分とリサイクルのコスト, CO2排出量等の比較 		
成績評価の方法	演習テーマごとにレポートの提出を義務付ける。レポートの体裁, 提出先, および期限については講義中に指示する。評価はレポートの内容(60%), 実習態度(40%)をもとに、総合的に行う。		
テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント資料を配布する。		
参考文献	足立芳寛 他『環境システム工学』東京大学出版会(2004)等、必要に応じて講義内で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、環境衛生学, 環境水理学, 環境数理学等の講義内容と関係していることから、これらの科目を履修していることが望ましい。 ・本演習では、評価指標の意味をしっかりと理解することに加え、実際に自分で計算してみる(やってみる)ことが重要です。内容やPCスキルに関すること等、細かい点でも結構ですので、疑問点は積極的に担当教員に質問してください。何がどう分からないかを自分の口で説明することは、疑問点を明確にする上で非常に有効です。 		

授業科目名	教育心理学		
担当教員氏名(助手氏名)	坪田 雄二		
研究室の場所	庄原キャンパス 2407研究室		
オフィスアワー	木曜日 4コマ		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従い講義形式で実施		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(理科)必修		
キーワード	発達, 学習, 知能, 動機づけ, 教育評価, 障害児教育		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>教職免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、「幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」に相当する科目である。</p> <p>教育活動を効果的なものにするために必要となる, 子どもの発達や学習の特徴や知能や動機づけなどの知識が理解できることが目標となる。また, いくつかの教育上の現象を心理学の知識を使って説明できるようになることを目指す。</p>		
授業の内容	<p>心理学的観点から効果的な教育活動を支えるための教育心理学の領域の中から, 発達, 学習, 記憶, 知能, 動機づけ, 教授法, 教育評価, 障害児教育のトピックを解説していく。その中でも, 発達の概念や段階説, 社会性や身体, 認知, 人格の発達, 強化説と認知説に代表される学習の原理, 記憶や動機づけのメカニズム, これまで開発されてきた教授法, 教育効果を測定するための方法などを解説する。</p>		
成績評価の方法	<p>3分の2以上の出席がある学生に対して, 期末試験を実施する。また課題レポートを課す。それらの結果をもとに評価をおこなう(期末試験70%, レポート30%)。課題レポートに関しては, 初回のオリエンテーションで提示する。</p> <p>なお, 公共交通機関の遅れなど正当な理由のない遅刻は欠席扱いとする。</p>		
テキスト	子どもの発達と学習 濱口・宮下(編) 北樹出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	教育社会学		
担当教員氏名(助手氏名)	河野 員博 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面の講義形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	各学科、2年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修		
キーワード	教育政策、教育機会、教育改革		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、教育職員免許法等に基づき開設されている本学教職課程の科目である。特に教育の基礎理論に関する科目として開講されており、とりわけ教育に関する社会的・制度的な見方を中心に学習する。		
授業の内容	教育は社会とともに在る。今日の複雑な社会において、教育のダイナミズムを知るためには、政治・経済・社会等の幅広い社会的背景に関する知識が不可欠である。その意味で、教育の社会学的考察のポイントを学ぶのがこの講義の主たる内容となる。例えば、戦前・戦後を通じての学校教育制度がどのような政治的影響のもとに推移してきたかを知ることが大切であろう。また高度成長に象徴される経済的動向が、どのように教育を変えていったのかを知ることが無視できない視点である。そして少子高齢化の豊かな社会で、あふれるばかりの情報にさらされた子どもにとって、教育とはいったいどんな意味を持つのだろうか。進学率上昇の一方でおさまる気配の無い教育病理の進行という矛盾した姿を見るにつけ、現代教育の置かれた困難な課題を紐解く分析力が切に求められている。		
成績評価の方法	期末試験で基本的に評価する。詳しくは、1回目の講義で説明する。		
テキスト	『教育と社会』(岩永雅也著、放送大学教育振興会、2011)		
参考文献	『戦後日本の教育構造と学力』(河野員博著、東信堂、2015)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	不正行為に対しては、厳罰で臨む。		

授業科目名	教育課程論		
担当教員氏名(助手氏名)	吉田 成章 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、各回で配付する授業資料をもとに講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(理科)必修		
キーワード	教育課程, カリキュラム, 教育方法, 授業構成		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	学校カリキュラムの開発に関する知見を教育課程の歴史・原理と具体的な教育実践から学ぶことによって、教職能力の基盤となる教育課程論を構成する知識と技能を習得する。		
授業の内容	<p>教育課程とカリキュラムの概念上の違いを確認した上で、その編成原理と方法について歴史的展開や具体的な教育実践をもとに講述する。また、今日の学力論議や諸外国のカリキュラム改革などにも触れながら、教育課程を編成するための視点と課題を提示する。以下が具体的な内容である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学におけるカリキュラムの位置と役割 2. カリキュラムの概念と歴史的展開 3. カリキュラムの類型と教育課程の構造 4. 戦後学習指導要領の変遷 5. 教育課程行政と今時学習指導要領改訂 6. 生活中心カリキュラムの理論と実践 7. 学間中心カリキュラムの理論と実践 8. 教育課程における目標—内容—方法 9. 工学的アプローチと羅生門的アプローチ 10. 諸外国のカリキュラム改革 11. 学力の構造と評価の論理 12. 教科書教材の研究とメディアの構成 13. 学校づくりとしてのカリキュラム開発 14. カリキュラム評価と学校改善 15. 学校カリキュラムの編成と評価 		
成績評価の方法	<p>出席：20%，中間課題：10%，期末試験：70%の割合で評価する。 中間課題については、授業の中でテーマを提示する。 期末試験については、授業で配付した資料・プリントおよび授業ノートの持ち込みは可とし、指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。</p>		
テキスト	<p>授業プリント・資料を各回毎に配付する。 平成20年版中学校学習指導要領あるいは平成21年版高等学校学習指導要領を各自で入手しておくこと。</p>		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	理科教育法 I		
担当教員氏名(助手氏名)	清水 欽也 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義形式及び学生による課題発表形式を併用して実施。また、受講者数にもよるが、個人またはグループ形式での1回程度の課題発表を課すこともある。学生は、授業に出席し、課題レポートを作成・提出することが義務付けられる。(集中講義)		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(理科)必修		
キーワード	理科教育の目的・内容・方法・評価, 海外の理科教育, 中学校学習指導要領(理科), 生徒の実態の捉え方, 授業展開, 評価の方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	理科教育に関する一般的・総合的な事項を中心に概説し, 併せて中学校理科と高等学校理科の基本的理論と実践の方法についても考察を行う。		
授業の内容	本講義では, まず外国比較や歴史研究を概観したうえで, 「何のために理科教育を行うのか」について考え, さらに理科教育の目標論, 内容論, 方法論(児童・生徒の捉え方から授業展開まで), 評価論について講義する。		
成績評価の方法			
テキスト	奥井智久監, 角屋重樹編著「新しい理科教育の理論と実践の方法」2003年, 現代教育社		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	理科教育法Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	磯崎 哲夫 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業, 集中講義		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科)必修, 高一種免(理科)選択		
キーワード	理科教育, カリキュラム, 学習指導案		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本講義は, 教育職員免許状取得に必要な「教科の指導法」に位置づけられ, 必修です。そのため, 講義においては, 理科教育の原理(目的・目標論, 内容構成論, 評価論, 方法論)に加えて, 授業を行う際に必要な学習指導案について, 基本的な知識とスキルを獲得することを目標とします。		
授業の内容	理科教育法Ⅱでは, なぜ理科を教えるのか, 理科で何を教えるのか, 理科をどのように学ぶのか, 理科の授業はどのように組み立てていくのか, といった理科教育の基本的な考え方について解説します。		
成績評価の方法	出席を重視します。講義における課題への取り組み, 討論等への参加, レポートなどを総合的に評価します。		
テキスト	磯崎哲夫編『中等理科教育』協同出版, 2014 文部科学省『中学校学習指導要領解説理科編』大日本図書株式会社, 2008 文部科学省『高等学校学習指導要領解説理科編・理数編』大日本図書株式会社, 2009		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	Ⅱは理科教育の基本的原理に関わる理論編です。理科教育法Ⅲは, 学校での実践を想定した講義・演習となりますので, 合わせてそちらの科目も選択履修することを勧めます。		

授業科目名	理科教育法Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	磯崎 哲夫 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業, 集中講義, グループ討議。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(理科) 選択		
キーワード	カリキュラム, 単元計画, 学習指導案, 評価方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義においては, 理科教授・学習に必要な知識やスキルを, カリキュラム, 単元計画, 学習指導案を解説し具体的に作成することを通して獲得することを目標とする。また模擬授業を通して, 学習指導案と授業の関係について解説する。なお, 本講義では必修である理科教育法Ⅱの応用的段階に位置付けられる。		
授業の内容	(1) カリキュラムの意味 (2) 理科のカリキュラム編成原理 (3) 単元計画の作成 (4) 学習指導案の作成 (5) 評価方法のあり方 (6) 模擬授業と批評の会のあり方 (7) 教授・学習の省察 (8) 諸外国の理科授業		
成績評価の方法	出席(20%), 学習態度(20%), 討議への参加(10%), レポート(50%)。但し, 括弧内の数値は目安である。		
テキスト	磯崎哲夫編『中等理科教育』協同出版, 2014 文部科学省『中学校学習指導要領解説理科編』, 同『高等学校学習指導要領解説理科編・理数編』, いずれも大日本図書を持参すること。		
参考文献	具体的な作業をおこなうため, できれば磯崎哲夫他『中学校科学』学校図書株式会社(平成18年度版中学校理科教科書)などの教科書があればよい。		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	特別な理由を除き, 遅刻と欠席は厳禁である。		

授業科目名	理科教育法Ⅳ		
担当教員氏名(助手氏名)	鹿江 宏明 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業, 集中講義, グループ討議, 模擬授業。個人またはグループで立案した指導案にもとづき, 授業の「導入部」や「展開部」での模擬授業を行い, 生徒の実態に応じた実践的指導方法を習得する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(理科) 選択		
キーワード	学習指導案, 発問, 実験, 観察, 中学校理科, 高等学校理科		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義は, 教育現場の実態に即した指導場面を想定し, 模擬授業の実施を通して, これまで学んできた理論にもとづく実践的指導方法を習得することを目標とする。		
授業の内容	1 オリエンテーション ①本講義の目的, ②講義日程と内容 2 学習指導案について ①指導案の目的, ②3つの「観」 3 授業構成について ①導入 a) 導入の役割, b) 導入の方法 ②展開 a) 課題設定, b) 小集団学習, c) 観察・実験, d) 机間指導 ③まとめ a) 結果と考察, b) 評価 4 指導技術 ①発声, ②立ち位置, ③発問と質問, ④板書とプリント, ⑤指示の出し方 5 模擬授業(導入・展開)とその考察 6 科学的思考力を育成する授業 7 安全指導のあり方 8 理科室経営		
成績評価の方法	出席(30%), 指導案(6回・30%), 模擬授業, 試験, またはレポート(40%)		
テキスト			
参考文献	中学校理科 検定教科書, 中学校学習指導要領解説		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	特別な理由を除き, 遅刻と欠席は厳禁である。		

授業科目名	道徳教育論																		
担当教員氏名(助手氏名)	宮里 智恵 (非常勤講師)																		
研究室の場所																			
オフィスアワー																			
授業の形式・方式	主に講義形式で行う。必要に応じてグループ学習や討論，学習指導案の作成，模擬授業を取り入れる。																		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択																
履修要件	生命科学科，環境科学科 3年次対象																		
免許等指定科目	中一種免(理科)必修，高一種免(理科)選択																		
キーワード	道徳教育，道徳授業，学校教育																		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学校における道徳教育の目的と内容・方法について理解を深める。特に「道徳の時間」を中心にして実際の道徳授業を検討しながら，発達段階に応じた道徳教育のあり方についての理解を深める。																		
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1 オリエンテーション</td> <td>9 プログラムタイプの道徳授業</td> </tr> <tr> <td>2 道徳教育と道徳の時間</td> <td>10 板書構成の仕方</td> </tr> <tr> <td>3 子どもの道徳性の発達的特徴</td> <td>11 学習指導案の作成①</td> </tr> <tr> <td>4 道徳授業の3タイプと心情タイプの道徳授業</td> <td>12 学習指導案の作成②</td> </tr> <tr> <td>5 道徳教材の読み方</td> <td>13 模擬授業</td> </tr> <tr> <td>6 心情ジレンマタイプの道徳授業</td> <td>14 道徳授業の評価</td> </tr> <tr> <td>7 発問構成の工夫</td> <td>15 まとめ</td> </tr> <tr> <td>8 道徳授業を支えるもの (ソーシャル・スキル・トレーニングなど)</td> <td></td> </tr> </table>			1 オリエンテーション	9 プログラムタイプの道徳授業	2 道徳教育と道徳の時間	10 板書構成の仕方	3 子どもの道徳性の発達的特徴	11 学習指導案の作成①	4 道徳授業の3タイプと心情タイプの道徳授業	12 学習指導案の作成②	5 道徳教材の読み方	13 模擬授業	6 心情ジレンマタイプの道徳授業	14 道徳授業の評価	7 発問構成の工夫	15 まとめ	8 道徳授業を支えるもの (ソーシャル・スキル・トレーニングなど)	
1 オリエンテーション	9 プログラムタイプの道徳授業																		
2 道徳教育と道徳の時間	10 板書構成の仕方																		
3 子どもの道徳性の発達的特徴	11 学習指導案の作成①																		
4 道徳授業の3タイプと心情タイプの道徳授業	12 学習指導案の作成②																		
5 道徳教材の読み方	13 模擬授業																		
6 心情ジレンマタイプの道徳授業	14 道徳授業の評価																		
7 発問構成の工夫	15 まとめ																		
8 道徳授業を支えるもの (ソーシャル・スキル・トレーニングなど)																			
成績評価の方法	出席(10%)，レポート(30%)，期末試験(60%)で評価する。																		
テキスト	心をひらく道徳授業実践講座【1】やさしい道徳授業のつくり方 鈴木由美子，宮里智恵 溪水社 2012																		
参考文献	心をひらく道徳授業実践講座【2】「『子どもが変わる道徳授業』-小中学校タイプ別授業事例集」鈴木由美子，宮里智恵，森川敦子編 溪水社2014																		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)																			

授業科目名	特別活動論		
担当教員氏名(助手氏名)	山田 浩之 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	特別活動，およびその前提となる教育問題などに関する講義と，学生による報告，実践によって授業を進める。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科，環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(理科)必修		
キーワード	特別活動 ホームルーム 生徒会 学校行事		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>特別活動は学校内における生徒の活動を支える重要な役割を持っているが，その理論や位置づけは曖昧である。</p> <p>本講義では，まず，特別活動の理論と歴史ばかりでなく，近年の教育問題や教育改革を背景として，その意義について検討する。それとともに，具体的な特別活動の事例を用いながら，学生自身によってその運営と実施について検討し，報告・実践を行う。これらの学習により，特別活動を学校での教育活動の中に位置づけ，学生自身が実際に特別活動の企画，運営を行う基礎を養うことが本講義の目標である。</p>		
授業の内容	第1回 インTRODクシヨン — 特別活動とは何か 第2回 特別活動の歴史 第3回 学習指導要領の変遷と教育問題 第4回 学校と教員へのまなざしの変化 第5回 戦後における特別活動の制度化 第6回 現代における特別活動の意義 第7回 特別活動を支える理論とその社会的背景 第8回 グループワーク1 — 指導計画の作成 第9回 特別活動の内容と指導法1 — 学級活動・ホームルーム活動 第10回 特別活動の内容と指導法2 — 児童会・生徒会活動 第11回 学校行事の内容と指導法1 — 儀式的行事 第12回 学校行事の内容と指導法2 — 健康安全・体育的行事 第13回 学校行事の内容と指導法3 — 文化的行事 第14回 グループワーク2 — 指導計画の再作成 第15回 まとめ — これからの特別活動		
成績評価の方法	授業への出席状況，および参加状況，報告の内容，レポートなどをもとに総合的に評価を行う。		
テキスト	山田浩之編『特別活動論』協同出版 2014年		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	教育方法学		
担当教員氏名(助手氏名)	深澤 悦子 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科), 高一種免(理科)		
キーワード	教育方法 学習指導 授業研究 指導技術 メディアの活用		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	教育方法学に関する学術的動向と歴史をふまえ、授業方法や指導技術に関する知見を深め、教師に必要な、実践的知識や技能を習得する。		
授業の内容	1. 教育方法学とは, 2. 教育方法の歴史 3. 子ども理解と教えること, 4. 学力問題と指導のあり方 5. 確かな学力の形成, 6. メディアリテラシー 7. コンピュータを活用した授業, 8. 学習指導と学習形態 9. 授業のタクト, 10. 授業構想と指導案 11. 教材開発, 12. 実践的な指導力 13. 評価の方法, 14. 授業研究と教師の専門性 15. 全体のまとめ		
成績評価の方法	出席と提出物およびテスト		
テキスト			
参考文献	日本教育方法学会編『確かな学力と指導法の探究』 図書文化 吉本 均『教室の人間学』 明治図書		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	生徒・進路指導論		
担当教員氏名(助手氏名)	坪田 雄二		
研究室の場所	庄原キャンパス 2407研究室		
オフィスアワー	木曜日 4コマ		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従い、講義形式で実施		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(理科)必修		
キーワード	生徒指導, 学校における問題行動, 生徒理解, 学級経営, 進路指導		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>教職免許施行規則に定められた「生徒指導, 教育相談及び進路指導等に関する科目」のうち, 「生徒指導・進路指導の理論及び方法」に相当する科目である。</p> <p>多くの学生にとって, これまで児童・生徒の立場から見てきた生徒指導と本来の意味での生徒指導には大きなギャップが存在すると思われる。</p> <p>まずはそのギャップを知ること, そして生徒指導が目指しているものを正しく理解できることが目標である。</p>		
授業の内容	<p>学校教育の大きな柱である生徒指導の意味と役割, 不登校, いじめ, 体罰などの学校における問題行動の実態やその対応時の留意点, 教育活動の基礎となる生徒理解の方法とそれに伴う問題点, 学級を望ましい教育集団にするための方法, 単なる進路先の決定にとどまらない進路指導の理念などを解説する。</p>		
成績評価の方法	<p>3分の2以上の出席がある学生に対して, 期末試験を実施し, その結果をもとに評価をおこなう。なお, 公共交通機関の遅れなど正当の理由のない遅刻は欠席扱いとする。</p>		
テキスト	生徒指導・進路指導論 森田(編) 協同出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	教育相談		
担当教員氏名(助手氏名)	坪田 雄二		
研究室の場所	庄原キャンパス 2407研究室		
オフィスアワー	木曜日 4コマ		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従い、講義形式で実施		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(理科)必修		
キーワード	教育相談, 精神・行動の障害の概念と分類, 心理アセスメント, 心理療法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>教職免許法施行規則に定められた「生徒指導, 教育相談及び進路指導等に関する科目」のうち「教育相談の理論及び方法」に相当する科目である。</p> <p>消極的生徒指導に大きくかかわる教育相談について解説し, その意味や目的が理解できることが目標である。また指導対象となりやすい精神的, 行動的障害の種類とその特徴についての知識, その障害の評価にかかわる心理アセスメントの知識, そしてカウンセリングに代表される様々な心理療法の知識を身につけることも目標となる。</p>		
授業の内容	<p>教育相談の意味や目的, 正常と異常の分類基準, 精神障害, 行動障害の分類とその特徴, これらの障害を測定する際に用いられる心理アセスメントの紹介, これらの障害への対応として, これまで主に臨床心理学の領域で培われてきた心理療法等を講義, 解説する。その際取り上げる心理療法としては, 精神分析理論, カウンセリング理論, 行動療法, 認知行動療法, 交流分析を予定している。</p>		
成績評価の方法	3分の2以上の出席がある学生に対して, 期末試験を実施し, その結果をもとに評価をおこなう。		
テキスト	教育相談・学校精神保健の基礎知識 大芦 治 ナカニシヤ出版		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	教育実習指導		
担当教員氏名(助手氏名)	坪田 雄二		
研究室の場所	庄原キャンパス 2407研究室		
オフィスアワー	木曜 4コマ		
授業の形式・方式	基本的に講義形式とする。		
単位数(時間数)	1単位 (15時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 4年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(理科)必修		
キーワード	教育実習		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	教育実習の意義や現実を知ることにより, 教育実習の成果を最大限に発揮することを狙う。		
授業の内容	教育実習に先立ち, 教育実習の心得, 教育実習の概要, 学習指導案の作成, 教科指導の方法, 教育実習の評価等, 教育実習に際しての基本事項についてのガイダンスを行う。また教育実習終了後に, 各自の報告や反省の機会を設け, 教育実習の総括を行う。事前と事後でそれぞれ短期集中講義形式とする。		
成績評価の方法	出席状況や授業態度を中心に, 総合的に評価する。		
テキスト	テキストは購入を求めるが, 詳細を決定次第別途通知する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業の趣旨からして, 就職活動による欠席は認めない。 学生便覧に記載通り, 3年次終了までに必要単位を全て履修済である事。		

授業科目名	教育実習 I		
担当教員氏名(助手氏名)	坪田 雄二		
研究室の場所	庄原キャンパス 2407研究室		
オフィスアワー	木曜 4コマ		
授業の形式・方式	実習形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 4年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免(理科)必修		
キーワード	教育実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	教育職員免許法の基準に従い, 大学で履修した教育理論に基づいて, 学校教育における教育活動の諸領域について経験・実践するために行う。		
授業の内容	中学校または高等学校で2単位分を行う。 実習課程は, 実習期間中における観察・参加・実習とする。		
成績評価の方法	実習校による評価及び実習記録等により, 総合的に評価する。		
テキスト	必要に応じて指示する。		
参考文献	必要に応じて指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	学生便覧に記載通り, 3年次終了までに必要単位を全て履修済である事。		

授業科目名	教育実習Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	坪田 雄二		
研究室の場所	庄原キャンパス 2407研究室		
オフィスアワー	木曜 4コマ		
授業の形式・方式	実習形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (60時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 4年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科)必修, 高一種免(理科)選択		
キーワード	教育実習		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	教育職員免許法の基準に従い, 大学で履修した教育理論に基づいて, 学校教育における教育活動の諸領域について経験・実践するために行う。		
授業の内容	中学校で2単位分を行う。実習課程は, 実習期間中における観察・参加・実習とする。		
成績評価の方法	実習校による評価及び実習記録等により, 総合的に評価する。		
テキスト	必要に応じて指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	学生便覧に記載通り, 3年次終了までに必要単位を全て履修済である事。		

授業科目名	教職実践演習（中・高）		
担当教員氏名(助手氏名)	坪田 雄二		
研究室の場所	庄原キャンパス 2407研究室		
オフィスアワー	木曜日 4コマ		
授業の形式・方式	基本的に演習形式だが，教員経験者による講義もおこなう。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科，環境科学科 4年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免（理科）必修		
キーワード	履修カルテ，教師としての使命感，社会性と対人関係能力，生徒理解と学級経営，教科などの指導力		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	当演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目の履修状況をふまえ，教員として最小限必要な資質能力を習得することが目標である。具体的には，①使命感や責任感，教育的愛情に関する事項，②社会性や対人関係能力に関する事項，③生徒理解や学級経営などに関する事項，④教科などの指導力に関する事項をテーマとする。		
授業の内容	教職課程の個々の科目の履修により習得した専門的な知識・技能をもとに，教員としての使命感や責任感，教育的愛情を持って，学級や教科を担当しつつ，教科指導，生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力を習得させる。そのために，役割演技（ロールプレイング），事例研究，現地調査（フィールドワーク），模擬授業などを取り入れる。また，教員勤務経験者を講師とした授業も行う。		
成績評価の方法	実技指導，グループ討論，補完指導，試験の結果をふまえ，教員として最小限必要な資質能力が身についているかを確認し，評価をおこなう。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業の趣旨からして，就職活動による欠席は認めない。 学生便覧の記載どおり，3年次までに教職に必要な単位を全て習得済みであること，また教育実習の単位を既に習得している者，もしくは当該年次に習得予定である者が履修対象となる。 履修カルテを参照し，個別に補完的な指導もおこなう。		

授業科目名	介護等体験		
担当教員氏名(助手氏名)	坪田 雄二		
研究室の場所	庄原キャンパス 2407研究室		
オフィスアワー	木曜日 4コマ		
授業の形式・方式	実習形式。事前指導、事後指導は講義形式、対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (50時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免(理科)必修, 高一種免(理科)選択		
キーワード	障害者, 高齢者, 介護, 介助		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>個人の尊厳, 社会連帯の理念への認識を深めることで, 教員としての資質の向上を図るため, 障害者, 高齢者などに対する介護, 介助及び交流をおこなう。</p> <p>これらの体験から, 自他の価値観の相違を認め, 人の心の痛みがわかるようになること, 言語を介さないコミュニケーションの重要性を認識することなどが目標である。</p>		
授業の内容	<p>授業は, 約6コマからなる事前事後指導と, 特別支援学校の2日間, 社会福祉施設の5日間, 計7日間の実習から構成される。事前指導には, 広島地区で実施される特別支援学校での介護等体験の合同事前指導が含まれる。</p> <p>事前指導の内容は, 介護等体験の意義や課題, 実習先施設の概要, 障害者, 高齢者の特質などが含まれる。</p>		
成績評価の方法	事前事後指導のレポート, 介護等体験日誌などの提出物を提出すること, 事前指導, 事後指導の無断欠席がないこと, 介護等体験先からの評価が良好であること, 実習期間中に正当な理由なしに, 欠席, 遅刻, 早退をしないことの4つの条件をすべて満たした学生に単位を認定する。なお, 評価内容は, レポートの内容, 実習先の評価をもとに決定する。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			